

ス然レトモ公式ノ特別規則ニ從フコトヲ要セス

協諧契約ヲ以テ破産シタル債務者ニ許與スル一分ノ免除ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五百五條 債務ノ免除ハ明示又ハ默示ヨリ成リ推定ヨリ成ラス但法律ニ特定シタル場合ハ此限ニ在ラス

第五百六條 主タル債務者ニ爲シタル債務ノ免除ハ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

連帶債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ハ他ノ債務者ヲシテ其義務ヲ免カレシム但債權者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタル場合ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テモ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ控除スルコトヲ要ス

不可分債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ニ付テモ亦同シ然レトモ性質ニ因ル不可分債務ノ債權者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタルトキハ債權者ハ先ツ全部ニ付キ其權利ヲ行ヒ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ計算ス

第五百七條 保證人ノ一人ニ爲シタル主タル債務ノ免除ハ債務者及ヒ他ノ保證人ヲシテ其債務ヲ免カレシム

第五百八條 債務ノ免除ヲ受ケタル債務者及ヒ保證人ハ債權者ヨリ共通ノ免除ヲ得ル爲メ

實際供與シタル數額ニ付テノミ他ノ共同債務者及ヒ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ有ス

第五百九條 共同債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ不可分ノミノ免除アリタルトキハ其一人ヲシテ他ノ債務者ノ部分ヲ免カレシム且他ノ債務者ヲシテ其一人ノ部分ヲ免

カレシム

性質ニ因ル不可分ノミノ免除ニ付テハ債權者ハ債務者ノ各自ニ對シテ全部ノ要求ヲ爲ス權利ヲ失ハス但免除ヲ受ケタル債務者ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス

又債權者ハ免除ヲ受ケタル債務者ニ對シ全部ノ要求ヲ爲スコトヲ得但他ノ債務者ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百十條 債權者ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ不可分ノミヲ免除シタルトノ推定ヲ受ク

第一 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ヨリ其債務ノ部分ナリト明言シタル金額又ハ有價物ヲ受取リタルトキ

第二 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ニ對シ其債務ノ部分ナリト稱シテ裁判上ノ請求ヲ爲シタルニ其一人請求ニ承服シ又ハ辨濟ヲ爲ス可キ旨ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第三 債權者カ異議ヲ留メスシテ十年間引續キ債務者ノ一人ヨリ其負擔ス可キ利息又ハ年金ノ部分ヲ受取リタルトキ

第五百十一條 保證人ノ一人ニ保證ヲ免除シタルトキハ主タル債務者ハ其義務ヲ免カレシム他ノ保證人ハ保證ノ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カル然レトモ保證人ノ間ニ連帶ヲ爲セル場合ニ於テ債權者カ第五百六條第二項ニ記載シタル如ク他ノ保證人ニ

對シテ自己ノ權利ヲ留保セサルトキハ他ノ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

第五百十二條 債權者ノ質又ハ抵當ノ拋棄ハ其債權ヲ減セス然レトモ連帶債務者又ハ保證人ハ其拋棄ニ因リテ此等ノ擔保ニ代位スルコトヲ妨ケラレタルカ爲メ債權擔保編第四十五條及ヒ第七十二條ニ依リ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

第五百十三條 共同債務者ノ一人カ連帶者クハ不可分ノミノ免除ヲ得ル爲メ又ハ保證人ノ一人カ保證ノ免除ヲ得ル爲メ債權者ニ出捐ヲ爲シタルモ其債務ヲ減セス且他ノ共同債務者又ハ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ有セス

第五百十四條 特定物ヲ引渡スノミ又ハ返還スルノミノ義務ヲ免除スルモ債務者ノ利益ニ於テ讓戻又ハ讓渡ヲ惹起セス其所有者ハ回復ノ權利ヲ失ハス

第五百十五條 連帶債權者ノ一人ノ爲シタル債務又ハ連帶ノミノ免除ハ單ニ其一人ノ部分ニ付キ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得

債務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ノ爲シタル免除ハ他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス他ノ債權者ハ第四百四十五條及ヒ第五百六條ノ規定ニ從ヒテ全債權ヲ行フ

第五百十六條 債權者カ債務者ノ義務ヲ記載シタル本證書ヲ任意ニテ債務者ニ交付シタルトキハ其證書ニ免除ノ旨ヲ附記セスト雖モ債權者ハ債務ノ免除ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク但債權者ノ反對ノ意思ヲ證スル權利ヲ妨ケス

公正證書ノ正本又ハ判決書ノ正本ノ任意ノ交付ハ其書類ニ執行文ヲ具備スルモ債務ノ免

除ヲ推定セシムルニ足ラス但裁判所カ事情ニ從ヒテ其免除ヲ推測スルコトヲ妨ケス
債務者カ右ノ書類ヲ所持スルトキハ反對ノ證據アルマテハ債權者ヨリ任意ノ交付アリタリトノ推定ヲ受ク

第五百十七條 債權者カ證書ノ全文又ハ債務者ノ署名其他緊要ナル部分ヲ有意ニテ毀滅シ
扯破シ又ハ抹殺シタルトキハ前條ノ區別ニ從ヒテ任意ノ交付ニ準シ債務ノ免除アリタリト推定ス

右毀滅、扯破又ハ抹殺ハ其當時證書カ債權者ノ占有ニ係リシトキハ反對ノ證據アルマテ債權者ノ所爲又ハ其承諾ニ出テタリトノ推定ヲ受ク

第五百十八條 債務ノ免除ハ明示ナルト默示ナルト又直接ニ證スルト法律上推定スルトヲ問ハス反對ノ證據アルマテ有償ニテ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク

然レトモ授受スル相對能力ナキ者ノ間ニ於ケル免除ハ有償ニテ之ヲ爲シタリトノ直接ノ證據ヲ舉グルコトヲ要ス

第四節 相殺

第五百十九條 二人互ニ債權者タリ債務者タルトキハ下ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ法律上任意上又ハ裁判上ノ相殺成立ス

相殺ハ二箇ノ債務ヲシテ其寡少ナル債務ノ數額ニ滿ツルマテ消滅セシム

第五百二十條 二箇ノ債務カ主タルモノ互ニ代替スルヲ得ヘキモノ明確ナルモノ及ヒ要求

スルヲ得ヘキモノニシテ且法律ノ規定又ハ當事者ノ明示若クハ默示ノ意思ヲ以テ其相殺ヲ禁セサルトキハ當事者ノ不知ニテモ法律上ノ相殺ハ當然行ハル

第五百二十一條 主タル債務者ハ自己ノ債務ト債權者カ保證人ニ對シテ負擔スル債務トノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス然レトモ訴追ヲ受ケタル保證人ハ債權者カ主タル債務者又ハ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得

連帶債務者ハ債權者カ其連帶債務者ノ他ノ一人ニ對シ負擔スル債務ニ關シテハ其一人ノ債務ノ部分ニ付テニ非サレハ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス然レトモ自己ノ權ニ基キ相殺ヲ以テ對抗ス可キトキハ全部ニ付キ之ヲ申立ツルコトヲ得

數人ノ連帶債權者アルトキ債務者ハ債權者ノ一人カ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ訴追者ニ對抗スルコトヲ得

債務カ債務者ノ間又ハ債權者ノ間ニ於テ任意不可分ナルトキハ相殺ハ受方又ハ働方ノ連帶ニ於ケルト同一ノ方法ニ從フ又性質ニ因ル不可分ノ債務ナルトキハ第四百四十五條ノ規定ニ從フ

第五百二十二條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ地方市場ノ相場アル日用品ノ定期ノ供與ヲ負擔シタルトキハ其供與ハ他ノ一方ノ負擔スル金銀ト相殺スルコトヲ得

第五百二十三條 債務ノ成立其目的物ノ性質及ヒ分量カ確實ナルトキハ其債務ハ善意ニテ爭ハルルトキト雖モ之ヲ明確ナリトス

第五百二十四條 裁判所ノ許與シタル恩惠上ノ期限ハ相殺ノ妨ヲ爲サス債務者ノ要求ニ因リ無償ニテ債權者ノ許與シタル期限ニ付テモ亦同シ

二箇ノ債務ノ一カ解除條件附ナルトキト雖モ相殺ハ行ハル但其條件ノ成就シタルトキハ相殺モ亦解除ス

第五百二十五條 二箇ノ債務カ同一ノ場所ニ於テ又ハ同一ノ貨幣ヲ以テ辨濟ス可キモノニ非サルトキト雖モ相殺ハ行ハル但第一ノ場合ニ於テハ運送費又ハ爲替料ヲ計算シ第二ノ場合ニ於テハ兩替費ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百二十六條 左ノ場合ニ於テハ法律上ノ相殺ハ行ハレス

- 第一 債務ノ一カ他人ノ財産ヲ不正ニ取リタルヲ原因ト爲ストキ
- 第二 消費ヲ許セル寄託物ノ返還ニ關スルトキ
- 第三 債權ノ一カ差押フルコトヲ得サル有價物ヲ目的トスルトキ
- 第四 當事者ノ一方カ豫メ相殺ノ利益ヲ拋棄シタルトキ又ハ債權者ト爲ルニ當リ期望シタル目的カ相殺ノ爲メ達スルコトヲ得サルトキ

第五百二十七條 債權ノ讓受人カ其讓受ヲ債務者ニ告知シタルノミニテハ債務者ハ讓渡人ニ對シテ從來有セル法律上ノ相殺ヲ以テ讓受人ニ對抗スルノ權利ヲ失ハス

債務者カ讓渡人ニ對シテ既ニ得タル法律上ノ相殺ノ權利ヲ留保セスシテ讓渡ヲ受諾シタルトキハ債務者ハ讓受人ニ對シテ其權利ヲ申立ツルコトヲ得ス

右二箇ノ場合ニ於テ債務者カ相殺ヲ申立ツルコトヲ得サリシ金額又ハ有價物ヲ讓渡人ヲシテ自己ニ償還セシムルノ權利ヲ妨ケス

第五百二十八條 拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ自己ノ債權者ニ對シテ差押後ニ取得シタル債權ノ相殺ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス

又從來有セル相殺ノ原因ニ付テモ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ民事訴訟法ニ掲ケタル方式及ヒ期間ニ從ヒテ其原因ヲ述ヘタルニ非サレハ之ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス
右孰レノ場合ニ於テモ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ差押ノ金額又ハ有價物ニ付キ自己ノ債權ノ辨濟ヲ得ル爲メ差押人ト共ニ配當ニ加入スル權利ヲ有ス

第五百二十九條 相殺ニ因リテ既ニ消滅シタル債務ヲ辨濟シタル者ハ不當利得ノ取戻訴權ノミヲ行フコトヲ得但次條ニ記載スル場合ハ此限ニ在ラス

第五百三十條 前三條ニ掲ケタル場合ニ於テ相殺ニ因リ既ニ消滅シタル債務ヲ讓受人若クハ差押人ノ利益ノ爲メ追認シ又ハ自己ノ債權者ニ辨濟シタル者ハ自己ノ舊債權ヲ擔保シタル保證、先取特權若クハ抵當ヲ申立ツルコトヲ得ス但既ニ行ハレタル相殺ヲ知ラサル正當ノ原因アリシコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ舊債權ハ其性質ヲ以テ擔保ト共ニ復舊ス

第五百三十一條 任意上ノ相殺ハ法律カ法律上ノ相殺ヲ許ササル爲メ利益ヲ受クル一方ノ當事者ヨリ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得總テノ場合ニ於テ各利害關係人ノ承諾アルトキハ

相殺ハ之ヲ合意上ノモノトス

任意上ノ相殺ハ既往ニ遡ルノ效ヲ有セス

第五百三十二條 裁判上ノ相殺ハ被告カ原告ニ對シテ自己ノ利益ノ爲メ債權ヲ追認セシメ又ハ清算セシムルヲ主旨トスル反訴ノ方法ニ依リテ之ヲ求ムルコトヲ得

此場合ニ於テ裁判所ハ或ハ先ツ主タル訴ヲ裁判シ或ハ二箇ノ訴ヲ併セテ裁判スルコトヲ得

裁判上ノ相殺ハ之ヲ以テ對抗シタル日ニ遡リテ效ヲ有ス

第五百三十三條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ法律上又ハ裁判上ノ相殺ニ服スル數箇ノ債務ヲ有スルトキハ其債務ヲ相殺スル順序ハ第四百七十二條ニ掲ケタル辨濟ノ法律上ノ充當ノ規定ニ從フ

相殺カ任意上又ハ合意上ノモノナルトキハ辨濟ノ充當ハ第四百七十條及ヒ第四百七十一條ノ規定又ハ當事者ノ協議ニ從フ

第五節 混同

第五百三十四條 一箇ノ義務ノ債權者タリ及ヒ債務者タルノ分限カ相續等ニテ一人ニ併合シタルトキハ義務ハ混同ニ因リテ消滅ス

右ノ混同カ其以前ノ適法ノ原因ニ由リテ解除、銷除又ハ廢罷ヲ受ケタルトキハ義務ハ之ヲ消滅セサリシモノト看做ス

第五百三十五條 債權者カ連帶債務者ノ一人ニ相續シ又ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ニ相續シタルトキハ連帶債務ハ其一人ノ部分ニ付テノミ消滅ス
混同カ連帶債權者ノ一人ト債務者トノ間ニ行ハレタルトキモ亦其混同ハ債務ノ一分ニ付テノミ成ル

第五百三十六條 義務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ト債務者ノ一人トノ間ノ混同ハ他ノ者ノ利害ニ於テ其義務ヲ全存セシム然レトモ其混同ヲ得タル者ハ第四百四十五條ニ從ヒテ一分ノ償金ヲ供シ又ハ受取ルニ非サレハ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得ス又ハ訴追セラルルコト無シ

第五百三十七條 二人ノ連帶債權者又ハ二人ノ連帶債務者ノ分限カ一人ニ併合シタルトキハ權利又ハ義務ノ消滅ナシ其身ニ就キ併合ノ成リタル者ハ或ハ自己ノ名或ハ己レカ相續シタル者ノ名ニテ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得又ハ訴追セラルルコト有リ
働方又ハ受方ニテ不可分ナル義務ニ付テモ亦同シ

第五百三十八條 保證人カ債權者ニ相續シ又ハ債權者カ保證人ニ相續シタルトキハ保證ハ其附從ノモノト共ニ消滅ス
債務者カ保證人ニ相續シ又ハ保證人カ債務者ニ相續シタルトキハ債權者ハ主タル債務者共同保證人若クハ保證人ノ擔保人ニ對シ及ヒ保證ニ附著シタル質若クハ抵當ニ付キ其權利ニ變更ヲ受クルコト無シ

第六節 履行ノ不能

第五百三十九條 義務カ特定物ノ引渡ヲ目的トシタル場合ニ於テ其目的物カ債務者ノ過失ナク且付運滯前ニ滅失シ紛失シ又ハ不融通物ト爲リタルトキハ其義務ハ履行ノ不能ニ因リテ消滅ス若シ義務カ定マリタル物ノ中ノ數箇ヲ目的トシタル場合ニ於テ其一箇ヲモ引渡スコト能ハサルトキハ亦同シ

作爲又ハ不作爲ノ義務ハ其履行カ右ト同一ノ條件ヲ以テ不能ト爲リタルトキハ消滅ス
第五百四十條 債務者カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル危險及ヒ災害ヲ擔任シ若クハ第三百三十六條及ヒ第三百八十四條ニ從ヒテ遲滯ニ付セラレタルトキハ其債務者ハ前條ノ原因ニ由ルモ其義務ヲ免カレス

第五百四十一條 債務者ハ自己ノ申立ツル意外ノ事又ハ不可抗力ヲ證スルノ實ニ任ス
債務者カ第三百三十五條第二項ニ依リテ其義務ヲ免カル爲メ假令其物カ債權者ノ方ニ在ルモ亦滅失ス可カリシコトヲ申立ツルトキハ其證據ヲ舉クルコトヲ要ス

第五百四十二條 債務者カ履行ノ不能ニ因リテ義務ヲ免カレタルトキハ其債務者ハ己レノ受取ル可キ對價ニ付テハ其履行ノ爲メ既ニ出捐シタル限度ニ於テノミ權利ヲ有ス
第五百四十三條 物ノ全部又ハ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ其滅失ヨリ第三者ニ對シテ或ル補償訴權ノ生スルトキハ債權者ハ殘餘ノ物ヲ要求シ且此訴權ヲ行フコトヲ得

第七節 銷除

第五百四十四條 無能力者又ハ錯誤ニ因リテ承諾ヲ與ヘタル人又ハ強暴若クハ詐欺ニ因リテ承諾ヲ獲ラレタル人ノ約シタル義務ハ五ノ年ノ間ハ或ハ其人又ハ其代人ノ請求ニ因リ或ハ履行ノ訴ニ對シ此等ノ者ヨリ爲シタル抗辯ニ因リテ裁判上之ヲ銷除スルコトヲ得
第五百四十五條 右時効ノ期間ハ強暴ニ付テハ其強暴ノ止ムマテ錯誤ニ付テハ其錯誤ヲ覺知スルマテ詐欺ニ付テハ其詐欺ヲ發見スルマテ無能力ニ付テハ其無能力ノ止ムマテ之ヲ停止ス

然レトモ瘋癲者又ハ喪心ニ因ル禁治産者ノ合意ニ付テハ右時効ハ其者カ能力ヲ復シタル後其承諾シタル行爲ノ通知ヲ受ケ又ハ其行爲ヲ了知シタル時ヨリ進行ス

治産ヲ禁セラレタル處刑人ニ付テハ銷除ノ訴權及ヒ抗辯ハ自他ノ爲メ其刑期滿了後ニ非サレハ時効ニ罹ラス

此他免責時効ノ停止及ヒ中斷ノ通常ノ原因ニ關スル規定ハ右時効ニ之ヲ適用ス

第五百四十六條 銷除訴權ヲ有セル人カ前條ノ期間ノ滿了前ニ死亡シタルトキハ訴權ハ其相續人ニ移轉ス

右ノ場合ニ於テ期間カ死亡者ニ對シテ未タ進行ヲ始メサリシトキハ相續人ノ訴權ハ其相續ノ時ヨリ時効ニ罹リ既ニ進行ヲ始メタルトキハ其殘期ヲ以テ時効ニ罹ル但證據編第二百二十九條ニ記載セル停止ハ此限ニ在ラス

第五百四十七條 未成年者又ハ禁治産者ノ財産ニ關シ後見人ノ爲シタル合意及ヒ行爲ハ無

能力者ノ利益ノ爲メ法律ノ定メタル方式及ヒ條件ヲ遵守セサリシトキハ之ヲ銷除スルコトヲ得

未成年者自治産ノ未成年者及ヒ准禁治産者ノ行爲ニ付テハ特別ナル方式及ヒ條件ニ依ラサリシトキ又禁治産者ノ行爲ニ付テハ何等ノ場合ヲ問ハス亦其行爲ヲ銷除スルコトヲ得

右規定ハ有能力者ノ爲メニ許與セル銷除ノ訴權ヲ妨ケス
第五百四十八條 未成年者一人ニテ特別ナル方式又ハ條件ノ必要ナキ合意又ハ行爲ヲ承諾シタルトキハ銷除訴權ハ其未成年者ノ爲メ欠損アルトキニ非サレハ之ヲ受理セス

法律カ保佐人ノ立會ノミヲ要シタルトキ其立會ナクシテ自治産ノ未成年者及ヒ准禁治産者ノ爲シタル右ト同一ナル性質ノ行爲ニ對シ亦欠損ニ因ルニ非サレハ銷除訴權ヲ行フコトヲ得ス

欠損ハ行爲ノ時ニ於テ之ヲ見積リ其偶然ノ事件ヨリ生スルモノハ之ヲ算入セス

第五百四十九條 未成年者カ成年ナリト陳述シタルノミニシテ成年タルコトヲ信セシムル爲メ自ラ詐術ヲ用非サルトキハ其無能力又ハ欠損ニ因ル銷除訴權ヲ妨ケス

此他ノ無能力者ノ虚偽ノ陳述ニ付テモ亦同シ

第五百五十條 商業又ハ工業ヲ營ムノ許可ヲ得タル自治産ノ未成年者ハ其營業ニ關スル行爲ニ付テハ之ヲ成年者ト看做ス

然レトモ其未成年者ハ普通法ニ從フニ非サレハ不動産ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五百五十一條 婦ノ行爲ハ配偶者ノ相互ノ權利及ヒ本分ニ關シ法律ニ定メタル場合ニ非サレハ婦又ハ夫ノ請求ニ因リテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス

第五百五十二條 承諾ノ瑕疵ニ因リテ行爲ノ銷除ヲ得タル成年者ハ其行爲ニ因リテ既ニ受取リタル總テノ物ヲ返還スル責ニ任ス

無能力者ハ銷除ヲ得タル行爲ニ因リテ仍ホ現ニ己レヲ利スル物ノミヲ返還スル責ニ任ス
右返還ヲ要求スル訴權ハ通常ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第五百五十三條 不動産ノ讓渡カ無能力、錯誤又ハ強暴ノ瑕疵ニ因ル銷除ニ服スルトキハ第三百五十二條及ヒ第三百五十三條ノ區別及ヒ條件ニ從ヒ第三取得者ニ對シテ其銷除ヲ爲スコトヲ得

第五百五十四條 銷除訴權ハ第五百四十四條乃至第五百四十六條ニ定メタル時効ニ因リテ消滅スル外第五百四十五條ニ從ヒテ時効ノ進行ヲ始メタル後利害關係人カ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ヲ明示又ハ默示ニテ認諾シタルトキハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五百五十五條 明示ノ認諾ハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ要旨及ヒ其銷除ノ原因ヲ記シ且銷除訴權ノ拋棄ヲ述ヘタル明白ナル證書ニ因リテ成ル

銷除ノ數箇ノ原因アルトキハ明示ノ認諾ハ特ニ證書ニ記シタル原因ニ付テノミ其效ヲ生ス
第五百五十六條 默示ノ認諾ハ左ノ行爲ニ因リテ成ル

第一 合意ノ全部若クハ一分ノ任意ノ履行

第二 異議ナキ又ハ異議ノ留保ナキ強制ノ執行

第三 更改

第四 物上又ハ對人ノ擔保ノ任意ノ供與

默示ノ認諾ハ債權者ニ在テハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ履行ノ請求ニ因リ又ハ其合意ヲ以テ取得シタル物ノ全部若クハ一分ノ任意讓渡ニ因リテ成ル

第五百五十七條 認諾ハ銷除訴權ヲ有スル者ノ特定ノ承繼人ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第五百五十八條 初ヨリ無効ナル行爲ハ之ヲ認諾スルコトヲ得ス但第五百六十五條ニ掲ケタル規定ヲ妨ケス

第五百五十九條 算數、氏名、日附又ハ場所ノ錯誤ノ改正ヲ目的トスル訴權ハ時効ニ罹ルコト無シ但此訴權ノ附屬スル權利ノ時効ヲ妨ケス

第八節 廢罷

第五百六十條 債權者ヲ詐害シテ約シタル義務ノ廢罷及ヒ廢罷訴權ノ時効ハ第三百四十條乃至第三百四十四條ノ規定ニ從フ

贈與者及ヒ其相續人ノ利益ノ爲メニ設ケタル特別ノ廢罷ハ贈與ニ關スル規定ニ從フ

第九節 解除

第五百六十一條 義務ハ第四百九條、第四百二十一條及ヒ第四百二十二條ニ從ヒ明示ニテ要約シタル解除又ハ裁判上得タル解除ニ因リテ消滅ス

解除ヲ請求ス可キトキハ其解除訴權ハ通常ノ時効期間ニ從フ但法律ヲ以テ其期間ヲ短縮シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四章 自然義務

第五百六十二條 自然義務ノ履行ハ訴ノ方法ニ依リテモ相殺ノ抗辯ニ依リテモ之ヲ要求スルコトヲ得ス其履行ハ債務者ノ任意ナルコトヲ要シ之ヲ其良心ニ委ス

第五百六十三條 債務者ノ任意ノ辨濟ハ不當ノ辨濟ナリトシテ之ヲ取戻スコトヲ得ス

自然義務ヲ辨濟シタル意思ノ證據カ事情ヨリ生スルニ於テハ辨濟ノ原因ヲ明示スルコトヲ要セス

第五百六十四條 自然義務ハ追認更改又ハ質者クハ抵當ノ供與ノ目的タルコトヲ得

右諸種ノ場合ニ於テ自然義務ハ通常ノ法定ノ效力ヲ生ス

第五百六十五條 自然義務ハ法定ノ承諾ヲ阻却スル錯誤ノ爲メ目的ノ指定ノ欠缺若クハ不足ノ爲メ又ハ必要ナル公式ノ欠缺ノ爲メ初ヨリ無効ナル合意ニ因リテ生スルコトヲ得

然レトモ公式ノ欠缺ノ爲メ無効ナル贈與ニ關シテハ贈與者自ラ自然義務ノ履行又ハ追認ヲ爲スコトヲ得ス其相續人又ハ承繼人ノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ方式上無効ナル遺言ヲ爲セル者ノ相續人ニ之ヲ適用ス

第五百六十六條 原因ノ欠缺又ハ不法ノ原因ノ爲メ無効ナル合意ハ自然義務ヲ生スルコトヲ得ス公ノ秩序ノ爲メ合意ノ目的トスルコトヲ禁シタル物ヲ目的ト爲ス合意ニ付テモ亦

同シ

第五百六十七條 第三者ノ所爲ノ諾約及ヒ第三者ノ利益ニ於ケル要約ニ關シ第三百二十二條及ヒ第三百二十三條ニ定メタル無効ハ諾約者ノ自然義務ノ生スルコトヲ妨ケス

第五百六十八條 債務者カ不當ノ利得不正ノ損害又ハ法律ノ規定ニ因リテ法定義務ヲ負擔スルコト有ル可キ場合ノ外債務者ハ此權原ニテ自然義務ヲ負擔シタリト有效ニ自ラ追認スルコトヲ得

第五百六十九條 自然義務ハ法定義務ノ銷除廢罷又ハ解除カ裁判上ニテ宣告セラレタル後ト雖モ存立スルコトヲ得

法定義務カ此他ノ消滅方法ニ因リテ消滅シタル後ニ於テモ亦同シ

第五百七十條 免責又ハ取得ノ時効ノ利益ヲ援用シタル者既判力ノ利益ヲ受クル者又ハ其他ノ推定若クハ證據ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ者ハ尙ホ自然義務ヲ負擔シタリト自ラ追認スルコトヲ得

第五百七十一條 自然債權ノ法定ノ讓渡ハ協諧契約ヲ以テ破産者ニ免除シタル金額ニ付キ其債權者ノ之ヲ爲シタル場合ノミ有效ナリ

第五百七十二條 當事者ハ自然義務ノ任意ノ履行又ハ認定アラサル前ト雖モ仲裁契約ヲ以テ其自然義務ノ成立又ハ廣狹ヲ仲裁人ノ決定ニ委マルコトヲ得此場合ニ於テハ自然義務ヲ宣言シタル其決定ハ法定ノ義務ヲ生ス

○財產取得編

民法財產取得編目錄

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--------|--------|-------------|------------|--------|-----------|---------------|----------------|----------------|-------------|----------------|-----------|-----------|-------------|
| 總則 | 第一章 先占 | 第二章 添附 | 第一節 不動產上ノ添附 | 第二節 動產上ノ添附 | 第三章 賣買 | 第一節 賣買ノ通則 | 第一款 賣買ノ性質及ヒ成立 | 第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力 | 第三款 賣渡スコトヲ得サル物 | 第二節 賣買契約ノ效力 | 第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險 | 第二款 賣主ノ義務 | 第一則 引渡ノ義務 | 第二則 追奪擔保ノ義務 |
| 第一 | 第二 | 第三 | 第四 | 第五 | 第六 | 第七 | 第八 | 第九 | 第十 | 第十一 | 第十二 | 第十三 | 第十四 | 第十五 |
| 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 | 至 |
| 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 | 第 |
| 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 |
| 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 | 條 |
| 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 | 二百 |
| 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 | 三十一 |
| 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 | 丁 |

民法財產取得編 目錄

| | | | |
|---------------------|---|---------|--------|
| 第三款 買主ノ義務 | 至 | 第七百八十四條 | 二百三十七丁 |
| 第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除 | 至 | 第七百八十三條 | 二百三十九丁 |
| 第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除 | 至 | 第七百八十一條 | 全 |
| 第二款 受戻權能ノ行使 | 至 | 第七百八十二條 | 二百四十丁 |
| 第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買廢却訴權 | 至 | 第七百八十三條 | 二百四十四丁 |
| 第四節 不分物ノ競賣 | 至 | 第七百八十四條 | 二百四十六丁 |
| 第四章 交換 | 至 | 第七百九十四條 | 二百四十七丁 |
| 第五章 和解 | 至 | 第七百九十九條 | 二百四十八丁 |
| 第六章 會社 | 至 | 第八百零四條 | 二百四十九丁 |
| 第一節 會社ノ性質及ヒ設立 | 至 | 第八百零五條 | 全 |
| 第二節 社員ノ權利及ヒ義務 | 至 | 第八百零六條 | 二百五十丁 |
| 第三節 會社ノ解散 | 至 | 第八百零七條 | 二百五十七丁 |
| 第四節 會社ノ清算及ヒ分割 | 至 | 第八百零八條 | 二百五十八丁 |
| 第七章 射倖契約 | 至 | 第八百一十條 | 二百六十一丁 |
| 總則 | 至 | 第八百一十條 | 全 |
| 第一節 博戲及ヒ賭事 | 至 | 第八百一十一條 | 全 |
| 第二節 終身年金權 | 至 | 第八百一十二條 | 二百六十二丁 |

| | | | |
|----------------------------|---|---------|--------|
| 第一款 終身年金權ノ設定 | 至 | 第八百一十三條 | 二百六十三丁 |
| 第二款 終身年金權ノ契約ノ效力 | 至 | 第八百一十四條 | 二百六十四丁 |
| 第三款 終身年金權ノ消滅 | 至 | 第八百一十五條 | 二百六十五丁 |
| 第八章 消費貸借及ヒ無期年金權 | 至 | 第八百一十六條 | 二百六十六丁 |
| 第一節 消費貸借 | 至 | 第八百一十七條 | 全 |
| 第二節 無期年金權ノ契約 | 至 | 第八百一十八條 | 二百七十丁 |
| 第九章 使用貸借 | 至 | 第八百一十九條 | 全 |
| 第一節 使用貸借ノ性質 | 至 | 第八百二十條 | 二百七十二丁 |
| 第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務 | 至 | 第八百二十一條 | 二百七十二丁 |
| 第十章 寄託及ヒ保管 | 至 | 第八百二十二條 | 二百七十三丁 |
| 第一節 寄託 | 至 | 第八百二十三條 | 全 |
| 第一款 任意寄託 | 至 | 第八百二十四條 | 二百七十四丁 |
| 第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託 | 至 | 第八百二十五條 | 二百七十六丁 |
| 第二節 保管 | 至 | 第八百二十六條 | 二百七十七丁 |
| 第十一章 代理 | 至 | 第八百二十七條 | 二百七十八丁 |
| 第一節 代理ノ性質 | 至 | 第八百二十八條 | 全 |
| 第二節 代理人ノ義務 | 至 | 第八百二十九條 | 二百八十一丁 |

| | | | | |
|------------------|----|----|-----|---|
| 第三節 委任者ノ義務 | 自第 | 二百 | 四十五 | 條 |
| 第四節 代理ノ終了 | 自第 | 二百 | 五十一 | 條 |
| 第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約 | 自第 | 二百 | 五十九 | 條 |
| 第一節 雇傭契約 | 自第 | 二百 | 六十五 | 條 |
| 第二節 習業契約 | 自第 | 二百 | 六十六 | 條 |
| 第三節 仕事請負契約 | 自第 | 二百 | 六十七 | 條 |
| 第十三章 相続 | 自第 | 二百 | 六十八 | 條 |
| 總則 | 自第 | 二百 | 六十九 | 條 |
| 第一節 家督相続 | 自第 | 二百 | 七十一 | 條 |
| 第一款 家督相続ノ通則 | 自第 | 二百 | 七十八 | 條 |
| 第二款 家督相続人ノ順位 | 自第 | 二百 | 八十一 | 條 |
| 第三款 隱居家督相続ノ特別規則 | 自第 | 二百 | 八十五 | 條 |
| 第二節 遺産相続 | 自第 | 二百 | 八十六 | 條 |
| 第三節 國ニ屬スル相続 | 自第 | 二百 | 八十七 | 條 |
| 第四節 相続ノ受諾及ヒ拋棄 | 自第 | 二百 | 八十八 | 條 |
| 第一款 單純ノ受諾 | 自第 | 二百 | 九十五 | 條 |
| 第二款 限定ノ受諾 | 自第 | 二百 | 九十八 | 條 |

| | | | | |
|-------------------------|----|----|-----|---|
| 第三款 拋棄 | 自第 | 二百 | 九十九 | 條 |
| 第四款 相続人ノ曠缺セル相続財産ノ處分 | 自第 | 二百 | 一百 | 條 |
| 第十四章 贈與及ヒ遺贈 | 自第 | 二百 | 一百一 | 條 |
| 總則 | 自第 | 二百 | 一百二 | 條 |
| 第一節 贈與及ヒ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力 | 自第 | 二百 | 一百三 | 條 |
| 第二節 贈與 | 自第 | 二百 | 一百四 | 條 |
| 第一款 贈與ノ方式 | 自第 | 二百 | 一百五 | 條 |
| 第二款 贈與ノ廢罷 | 自第 | 二百 | 一百六 | 條 |
| 第三節 夫婦間ノ贈與ノ特例 | 自第 | 二百 | 一百七 | 條 |
| 第四節 遺贈 | 自第 | 二百 | 一百八 | 條 |
| 第一款 遺言ノ方式 | 自第 | 二百 | 一百九 | 條 |
| 第二款 遺言ノ特別方式 | 自第 | 二百 | 二百 | 條 |
| 第三款 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ノ部分 | 自第 | 二百 | 二百一 | 條 |
| 第四款 遺言ノ效力及ヒ執行 | 自第 | 二百 | 二百二 | 條 |
| 第五款 遺言ノ廢罷及ヒ失効 | 自第 | 二百 | 二百三 | 條 |
| 第五節 包括ノ贈與及ヒ遺贈ニ基ク不分財産ノ分割 | 自第 | 二百 | 二百四 | 條 |

| | | | |
|------|-----------|------|--------|
| 第一款 | 分割 | 第四百七 | 三百十八丁 |
| 第二款 | 分割ノ效力及ヒ擔保 | 第四百六 | 三百二十丁 |
| 第三款 | 分割ノ銷除 | 第四百五 | 全丁 |
| 第十五章 | 夫婦財產契約 | 第四百四 | 全丁 |
| 第一節 | 總則 | 第四百三 | 全丁 |
| 第二節 | 法定ノ制 | 第四百二 | 三百二十一丁 |

民法
財產取得編

總則

第一條 物上及ヒ對人ノ權利ハ財產編ニ規定シタル原因ニ由ル外尙ホ本編ノ規定ニ從ヒ之ヲ取得スルコトヲ得

第一章 先占

第二條 先占ハ無主ノ動產物ヲ己レノ所有ト爲ス意思ヲ以テ最先ノ占有ヲ爲スニ因リテ其所有權ヲ取得スル方法ナリ

第三條 狩獵、捕漁ノ權利ノ行使及ヒ漂流物、遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

戰時ニ於ケル海陸ノ掠奪物ニ付テモ亦同シ

第四條 遺棄物ヲ先占シタリト主張スル者ハ原所有者ノ任意ノ遺棄ヲ證スル責ニ任

第五條 他人ニ屬スル物ノ中ニ於テ偶然ニ發見シタル埋藏物ハ所有者ノ知レサルトキハ其一半ヲ發見者ニ付與ス

埋藏物カ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者ノ權利ハ次章ノ規定ニ從フ

第六條 埋藏物ノ原所有者ハ發見後三ノ年間ニ非サレハ前條ノ付與ニ反シテ自己ノ權利ヲ

主張スルコトヲ得ス。

此期間ハ原所有者カ埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者タルニ於テハ其發見ヲ知
リタル後一箇年間ニ之ヲ短縮ス

然レトモ埋藏物ノ占有者カ惡意ナルトキハ通常ノ時效ヲ適用ス

第二章 添附

第七條 動産ト不動産トヲ問ハス或ル物ノ所有者ハ其物ニ附從トシテ合シタル物ヲ下ノ區
別ニ從ヒテ取得ス

第一節 不動産上ノ添附

第八條 建築其他ノ工作及ヒ植物ハ總テ其附著セル土地又ハ建物ノ所有者カ自費ニテ之ヲ
築造シ又ハ栽植シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

右建築其他ノ工作物ノ所有權ハ土地又ハ建物ノ所有者ニ屬ス但權原又ハ時效ニ因リテ第
三者ノ得タル權利ヲ妨ケス

植物ニ關スル場合ハ第十條ノ規定ニ從フ

第九條 土地又ハ建物ノ所有者カ他人ニ屬スル材料ヲ以テ建築其他ノ工作ヲ爲シタルトキ
ハ其工作物ヲ毀壞シテ材料ヲ返還スル強要ヲ受ケス又材料ノ本主ニ其取去ヲ強要スルコ
トヲ得ス

然レトモ右ノ所有者ハ財産編第三百八十五條ノ規定ニ從ヒテ材料ノ本主ニ償金ヲ拂フノ

責ニ任ス

第十條 他人ニ屬スル草木ノ栽植ニ付テハ其栽植ヲ爲シタル土地ノ所有者又ハ占有者
ハ一箇年内ニ其草木ヲ拔取り且之ヲ返還スル強要ヲ受ク尙ホ損害アルトキハ之ヲ賠償
ス

右草木ノ所有者カ其返還ヲ欲セス又ハ栽植ノ時ヨリ一箇年ヲ經過シタルトキハ其所有者
ハ償金ヲ受ク

第十一條 他人ノ土地又ハ建物ノ善意ノ占有者ニシテ其土地又ハ建物ニ自己ノ材料又ハ草
木ヲ以テ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者ハ所有者ヨリ不動産回復ノ請求ヲ受クルニ當リ其工
作物又ハ草木ヲ取拂フ責ニ任セス所有者ハ其選擇ヲ以テ占有者ニ材料及ヒ手間賃ヲ拂ヒ
又ハ不動産ノ増價額ヲ拂フ

築造又ハ栽植ヲ爲シタル者カ惡意ノ占有者タリシトキハ所有者ハ工作物及ヒ草木ヲ
除去シテ場所ヲ舊狀ニ復セシメ且損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得又所有
者ハ前項ノ規定ニ從ヒ占有者ニ償金ヲ拂ヒテ右ノ工作物及ヒ草木ヲ保存スルコトヲ
得

第十二條 舟筏ノ通ス可キト否トヲ問ハス河川ノ寄洲、中洲、干瀾ノ所有權又ハ水路ノ變換
ニ因リ生スル浸沒地及ヒ舊川床ノ所有權ノ歸屬ハ別ニ之ヲ定ム但海ノ干瀾ニ付テハ財産

編第二十三條ノ規定ニ從フ

第十三條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ヲ以テ誘引セラレ又ハ停留セラレタルニ非スシテ他ノ池又ハ鳩舎ニ移リタルトキ其所有者カ自己ノ所有ヲ證シテ一週日間ニ之ヲ要求セサレハ其魚又ハ鳩ハ現在ノ土地ノ所有者ニ屬ス
群ヲ爲シテ他ニ移轉シタル蜜蜂ニ付テハ一週日間之ヲ追求スルコトヲ得
飼馴サレタルモ逃ケ易キ野栖ノ禽獸ニ付テハ善意ニテ之ヲ停留シタル者ニ對シ一ヶ月間其回復ヲ爲スコトヲ得

第二節 動産上ノ添附

第十四條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ動産物カ所有者ノ意ニ非スシテ第三者ニ因リテ附合セラレ其各物共ニ著シキ毀損又ハ減價ヲ受ケスシテ容易ニ分タル可キトキハ所有者ノ各自ハ其分離ヲ請求スルコトヲ得但損害アルトキハ附合ヲ爲シタル者之ヲ賠償ス

附合ノ爲メニセル物ノ變換ハ之ヲ毀損ト看做ス

第十五條 二箇ノ物カ分ツ可カラサルカ又ハ之ヲ分ツカ爲メ著シキ毀損、減價ヲ爲シ若クハ過分ノ費用、時日ヲ要スルトキハ孰レノ所有者モ分離ヲ請求スルコトヲ得スシテ其物ハ附合ノ儘ニテ主タル物ノ所有者ニ歸屬ス但此所有者ハ從タル物ノ所有者ニ損害ヲ加ヘテ已レヲ利シタル限度ニ應シ賠償ヲ負擔ス

或ル物ノ便益、粧飾又ハ補完ノ爲メニ附合セラレタル物ハ之ヲ從タル物ト看做ス主從ノ

區別ニ付キ疑アルトキハ價格ノ低キ物ヲ以テ從タル物トス

此他ノ場合ニ於ケル物ノ主從ノ區別ハ之ヲ裁判所ノ査定ニ委ス

第十六條 附合カ主タル物ノ所有者ノ過失又ハ詐欺ニ因リテ成リ前條ノ規定ニ從ヒテ其分離ヲ爲ス可カラサルトキハ從タル物ノ所有者ノ受ク可キ賠償ハ財產編第二百七十條及ヒ第二百八十五條ニ依リテ其額ヲ定ム

從タル物ノ所有者カ附合ヲ爲シタルトキハ主タル物ノ所有者ノ利益ノ限度ニ應シテノミ其損失ノ賠償ヲ受ク

第十七條 不都合ナシニハ物ヲ分離スルコトヲ得サル右同一ノ場合ニ於テ其性質、品質又ハ價格ニ因ルモ主從ノ區別ヲ爲シ難キトキハ其物ハ平等ノ權利ニテ各所有者之ヲ共有ス但過失又ハ惡意アル者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ妨ケス

第十八條 前數條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル流動物、固形物又ハ金屬ノ混和ニモ亦之ヲ適用ス

然レトモ分離スルコトヲ得サル物カ其性質及ヒ品質ノ同シキニ因リテ共有ト爲ル可キトキハ各自ノ權利ハ已レヨリ出テタル物ノ數量ノ割合ニ應ス

第十九條 附合又ハ混和カ所有者ノ一人ノ所爲ヨリ生スル場合ニ於テハ他ノ所有者ハ專屬ノ所有權ヲモ共有權ヲモ承諾スル責ニ任セス添附ヲ爲シタル者ニ對シテ同品質ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 或人カ他人ノ物料ヲ以テ新ナル用方ノ物ヲ作りタルトキハ物料ノ所有者ハ手間賃ヲ拂フテ其物ノ所有權ヲ要求スルコトヲ得

然レトモ手間賃カ著シク物料ノ價額ヲ超ユルトキハ新ナル物ノ所有權ハ製作者ニ屬ス但製作者ハ物料ノ所有者ニ賠償スルコトヲ要ス

製作者カ物料ノ幾分ヲ供シタルトキハ其物料ノ價額ハ優先權ヲ定ムル爲メ之ヲ手間賃ニ合算ス

所有者ノ承諾ナクシテ物料ヲ用井タルトキハ其所有者ハ常ニ自己ノ優先權ヲ拋棄シテ同品質、同數量ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條 附合、混和又ハ製作カ所有者ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ以テ成ルトキハ所有權ハ合意ニ從ヒテ之ヲ定ム若シ疑アルニ於テハ分離カ容易ナリト雖モ其分離ヲ要求スルコトヲ得ス且優先權及ヒ共有權ニ關スル前數條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 前數條ニ定メサル動產物添附ノ場合ニ於テハ裁判所ハ前數條ノ規定ノ援引ス可キハ之ヲ援引シ且條理ニ基キテ所有權及ヒ賠償ノ論點ヲ審定ス

第二十三條 第五條ニ從ヒテ發見者ニ屬セサル埋藏物ノ部分ハ添附ニ因リテ其埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ動產又ハ不動產ノ所有者ニ屬ス

右動產又ハ不動產ノ所有者自身ニテ意外ニ發見シタル埋藏物ハ一半ハ先占ニ因リ一半ハ添附ニ因リテ全部其所有者ニ屬ス

所有者ノ所爲又ハ其指圖ヲ受ケ若クハ受ケサル第三者ノ所爲ニテ特ニ搜索ヲ爲スニ因リテ發見シタル埋藏物ハ添附ヲ以テ全部所有者ニ屬ス

原所有者ノ回復ニ對シ埋藏物ノ發見者ノ爲メ第六條ヲ以テ定メタル時効ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三章 賣買

第一節 賣買ノ通則

第一款 賣買ノ性質及ヒ成立

第二十四條 賣買ハ當事者ノ一方カ物ノ所有權又ハ其支分權ヲ移轉シ又ハ移轉スル義務ヲ負擔シ他ノ一方又ハ第三者カ其定マリタル代金ノ辨濟ヲ負擔スル契約ナリ

賣買契約ハ下ノ規定ニ從フ外有償且雙務ナル契約ノ一般ノ規則ニ從フ

第二十五條 賣買ハ當事者ノ承諾ノミヲ以テ完全ニ成立ス

然レトモ當事者ハ賣買ノ成立ヲ各自ノ證據ニ供スル公正證書又ハ私署證書ノ調製ノ條件ニ繫ラシムルコトヲ得

第二十六條 賣渡又ハ買受ノ一方ノミノ豫約アルトキハ要約者カ財産編第二百八條ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ契約ノ取結ヲ要求スル時ヨリ諾約者ハ其豫約ニ於テ定メタル代價及ヒ條件ヲ以テ契約ヲ取結フ義務ヲ負擔ス

第二十七條 諾約者カ契約ヲ取結フコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ賣買カ成立シタルトノ判決

ヲ爲ス

不動産權ノ賣買ニ關スルトキハ其判決ヲ登記ス

賣渡ノ豫約ヲ登記シタルトキハ右判決ハ登記ニ之ヲ附記ス其登記ハ賣主ノ承繼人ニ對シ
既往ニ遡リテ效力ヲ生ス

第二十八條 賣渡及ヒ買受ノ相互ノ豫約アルトキハ當事者ノ一方ハ前條ニ從ヒ他ノ一方ニ
對シテ契約ノ取結ヲ強要スルコトヲ得

裁判所ハ此場合ニ於テ當事者ノ意思ヲ解釋シ賣買ノ豫約カ即時ノ賣買ノ效ヲ有スルモノ
ト判決シ又期間ノ定アルトキハ其期間ハ履行ノミニ適用セララルモノト判決スルコトヲ
得

第二十九條 前四條ニ從ヒ當事者ノ雙方又ハ一方カ日後賣渡及ヒ買受ノ契約ヲ取結フ義務
又ハ單ニ證書ヲ作ル義務ヲ負擔シタル場合ニ於テ豫約ノ擔保トシテ手附ヲ授受シタルト
キハ契約ヲ取結フコト又ハ證書ヲ作ルコトヲ拒ム一方ハ其與ヘタル手附ヲ失ヒ又ハ其受
ケタル手附ヲ二倍ニシテ還償ス

第三十條 即時ノ賣買ニ於テハ手附ハ之ヲ與ヘタル者ノ利益ノ爲メニノミ解約ノ方法ト爲
ル但買主ノ與ヘタル手附カ金錢ナルトキハ其地ノ慣習ニテ之ニ解約ノ性質ヲ付スル場合
ノ外合意ニテ此性質ヲ明示スルコトヲ要ス
契約ノ全部又ハ一分ノ履行アリタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ解約ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 試験ニテ爲ス賣買ハ事情ニ隨ヒ買主ノ適意ノ停止條件又ハ拒絶ノ解除條件ヲ
帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

試味ノ慣習アル日用品ノ賣買ハ適意ノ停止條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト推定ス
第三十二條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ買主カ己レニ屬スル權能ノ行使ニ付キ期限
ヲ定メサルトキハ短キ期間ニ於テ決答ス可キ催告ヲ受ク若シ其決答ヲ爲サスシテ賣渡物
ノ引渡ヲ受ケタルトキハ買主ハ受諾シタリトノ推定ヲ受ケ反對ノ場合ニ於テハ拒絶シタ
リトノ推定ヲ受ク

第三十三條 賣買ノ代價ハ全額ヲ以テセサルモ其目安ヲ契約ニ定ムルコトヲ要ス
又其代價ハ或ハ同種類ノ商品ノ現時又ハ近日ノ市價ニ委子或ハ契約ヲ以テ指定シタル第
三者ノ評價ニ委ヌルコトヲ得
右評價カ錯誤ニ出テタルカ又ハ明カニ公平ニ反スルトキハ其評價ニ異議ヲ爲スコトヲ得
但其異議ハ損失ヲ受ケタリト主張スル一方カ評價ヲ知リタル時直チニ之ヲ爲スコトヲ要
ス

第三者ト當事者ノ一方トノ間ニ共謀ノ詐欺アルトキハ財産編第三百十二條及ヒ第五百四
十四條ノ規定ヲ適用ス

當事者ハ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ヲ以テ代價ヲ定ムルコトヲ得然レトモ第三者
ハ元本ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ定ムルコトヲ得ス但當事者カ明示ニテ一層廣キ權限ヲ

第三者ニ與ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 賣買契約ノ費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス但雙方カ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三十五條 配偶者ノ間ニ於テハ動産ト不動産トノ間ハス賣買ノ契約ヲ禁ス

配偶者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ負擔スル眞實且正當ナル債務ヲ消滅セシムルニハ相互ニ代物辨濟ヲ爲スコトヲ得

右代物辨濟ハ相當ノ疏明ヲ爲セル後裁判所ノ認許ヲ得タルニ非サレハ配偶者ノ間ニ於テ有效且完全ナラス

又此代物辨濟カ不動産物權ヲ目的トスルトキハ其代物辨濟ハ登記中ニ右認許ヲ附記シタルニ非サレハ第三者ニ對シテ效力ヲ有セス

第三十六條 前條ニ基キタル銷除ノ訴權ハ賣渡又ハ認許ナキ代物辨濟ヲ爲シタル配偶者、其相續人又ハ承繼人ノミニ屬ス但其訴權ハ財産編第五百四十四條以下ノ一般ノ規則ニ從フ

第三十七條 法律上、裁判上若クハ合意上ノ管理人ハ直接ニ自己ノ名ヲ以テスルモ間介人ニ依ルモ賣渡ノ任ヲ受ケタル財産ニ付キ協議上又ハ競賣上ノ取得者ト爲ルコトヲ得ス此制禁ハ競賣ヲ處理シ又ハ指揮スルコトヲ法律ニ依リテ任セラレタル公吏ニ之ヲ適用ス

第三十八條 前條ノ規定ニ背キタル賣買ノ銷除訴權ハ原所有者、其相續人及ヒ承繼人ノミニ屬ス

第三十九條 判事、檢事及ヒ裁判所書記ハ爭ニ係ル物權又ハ人權ニシテ其職務ヲ行フ裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノノ取得者ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ右同一ノ條件ヲ以テ辯護士及ヒ公證人ニ之ヲ適用ス

第四十條 前條ヨリ生スル銷除訴權ハ讓渡人、權利ヲ爭フ相手方、其雙方ノ相續人及ヒ承繼人ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

又權利ヲ爭フ相手方、其相續人又ハ承繼人ハ讓受人ニ讓渡ノ現價ト辨濟ノ日ヨリノ利息トヲ辨償シテ其權利ノ受戻ヲ爲スコトヲ得
右ノ規定ハ違背者ニ對スル懲戒ノ罰ヲ妨ケス

第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第四十一條 賣買カ性質ニ因リテ一般ニ融通スルコトヲ得サル物又ハ特別法ヲ以テ各人ニ處分ヲ禁シタル物ヲ目的トスルトキハ其賣買ハ無効ナリ

此賣買ノ無効ハ抗辯ニ依ルモ訴ニ依ルモ當事者各自ニ之ヲ援用スルコトヲ得
當事者ノ一方カ詐欺ヲ以テ賣買ノ制禁ナルコトヲ隱秘シタルトキハ損害賠償ノ責ニ任ス
第四十二條 他人ノ物ノ賣買ハ當事者雙方ニ於テ無効ナリ

然レトモ賣主ハ賣買ノ際其物ノ他人ニ屬スルコトヲ知ラサルニ非サレハ其無効ヲ援用ス

ルコトヲ得ス

第四十三條 賣買契約ノ當時ニ於テ物カ既ニ全部滅失シタルトキハ其賣買ハ無効ナリ但賣主カ此滅失ヲ知リタルトキ又ハ賣主ニ之ヲ知ラサル過失アルトキハ善意ノ買主ニ對スル損害賠償ヲ妨ケス

物ノ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ買主之ヲ知ラサリシトキハ買主ハ其選擇ヲ以テ或ハ殘餘ノ部分カ用方ニ不十分ナルコトヲ證シテ賣買ヲ銷除シ或ハ割合ヲ以テ代價ヲ減少シテ賣買ヲ保持スルコトヲ得但此二箇ノ場合ニ於テ賣主ニ過失アルトキハ其損害賠償ヲ妨ケス賣買銷除ノ請求ハ買主カ一分ノ滅失ヲ知リタル時ヨリ六個月ヲ過キ又代價減少ノ請求ハ此時ヨリ二個年ヲ過クレハ之ヲ受理セス

第二節 賣買契約ノ效力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第四十四條 賣買契約ハ賣渡物ノ所有權ノ移轉及ヒ其物ノ危險ニ付テハ財産編第三百三十一條 第三百三十二條 第三百三十五條及ヒ第四百十九條ニ定メタル如キ普通法ノ規則ニ從フ

第四十五條 賣買ノ目的カ不動産ナルトキハ其契約ヲ以テ賣主ノ特定且善意ノ承繼人ニ對抗スルニハ財産編第三百四十八條以下ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

財産編第三百四十六條及ヒ第三百四十七條ハ右同一ノ目的ヲ以テ有體動産及ヒ債權ノ賣

買ニ之ヲ適用ス

第二款 賣主ノ義務

第四十六條 賣主ハ定量物ノ所有權ヲ移轉スル義務ノ外尙ホ賣渡物ヲ引渡ス義務引渡ニ至ルマテ其物ヲ保存スル義務及ヒ妨碍追奪ニ對シテ買主ヲ擔保スル義務ニ任ス

第一則 引渡ノ義務

第四十七條 賣主ハ賣渡物ヲ其合意シタル時期及ヒ場所ニ於テ現存ノ形狀ニテ引渡ス責ニ任ス但其保存ニ付キ懈怠アルトキハ買主ニ對シテ賠償ヲ負擔ス

引渡ノ時期及ヒ場所ニ付キ合意ヲ爲ササリシトキハ財産編第三百二十三條第六項及ヒ第七項ノ規定ニ從フ

然レトモ買主カ代金辨濟ニ付キ合意上ノ期間ヲ得サリシトキハ賣主ハ其辨濟ヲ受クルマテ賣渡物ヲ留置スルコトヲ得

賣主ハ代金辨濟ノ爲メ期間ヲ許與シタルトキト雖モ買主カ賣買後ニ破産シ若クハ無資力ト爲リ又ハ賣買前ニ係ル無資力ヲ隱蔽シタルトキハ尙ホ引渡ヲ遅延スルコトヲ得

第四十八條 賣主ハ契約ニ定メタル數量ヲ過不足ナク引渡スコトヲ要ス

然レトモ下ノ數條ニ定メタル場合及ヒ區別ニ從ヒテ賣主又ハ買主ハ約シタル數量ヨリ多ク讓渡シ又ハ取得スル責ニ任ス

第四十九條 賣渡物カ特定不動産ニシテ契約ニ其全面積ヲ明言シ且各坪ノ代價ヲ指示シタ

民法 財産取得編

ル場合ニ於テ現實ノ面積カ指示ノ面積ニ不足アルトキハ賣主ハ面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタルトキト雖モ割合ヲ以テ代價減少ノ要求ニ服ス

現實ノ面積カ指示ノ面積ニ超過アルトキハ買主ハ割合ヲ以テ代價補足ノ要求ニ服ス

第五十條 全面積ヲ明言シ唯一ノ代價ヲ以テ不動産ヲ賣渡シ其面積ノ不足ノ場合ニ於テ賣主ハ惡意ナルトキ又ハ善意ナルモ面積ヲ擔保シタルトキ又ハ不足ノ坪數カ少ナクトモ二十分一ナルトキニ非サレハ代價減少ノ要求ニ服セス

面積ヲ擔保セス又ハ面積ハ概算ナリトノ附記ハ惡意ナル賣主ノ責任ヲ減セス
超過ノ場合ニ於テハ買主ハ其超過カ二十分一ニ及ヘルトキニ非サレハ代價補足ノ要求ニ服セス

第五十一條 建物ノ存スルト否トヲ問ハス數箇ノ土地ヲ一箇ノ契約ヲ以テ其各箇ノ面積ヲ指示シ唯一ノ代價ニテ賣渡シタル場合ニ於テ其面積カ一箇ノ土地ニ超過アリ一箇ノ土地ニ不足アルトキハ其坪ノ箇數ニ從ハス價格ニ從ヒテ相殺ス

此相殺ノ後猶ホ原價二十分一ノ過不足アルトキハ割合ヲ以テ代價ヲ増加シ又ハ之ヲ減少ス

此規定ハ一箇ノ土地内ニ於テ別異ノ性質アル各部分ノ面積ヲ指示シタル場合ニモ之ヲ適用ス

第五十二條 買主ハ面積不足ノ爲メ代價減少ニ付キ權利ヲ有スル場合ニ於テ尙ホ損害ノ賠償

價ヲ要求スルコトヲ得又買主ハ約シタル面積カ其用方ニ必要ナルコトヲ證シテ契約ノ銷

除ヲモ請求スルコトヲ得但面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタル賣買ハ此限ニ在ラス

超過ノ場合ニ於テ買主ハ二十分一以上ノ代價補足ヲ辨償スルコトヲ要スルトキハ單純ニ契約ヲ銷除スルコトヲ得

第五十三條 上ノ規則ハ目方員數及ヒ尺度ヲ以テ指示シタル數量カ買主ニ於テ容易且即時ニ調査スルコトヲ得サル日用品及ヒ動産物ノ賣買ニ之ヲ適用ス

第五十四條 前數條ヨリ生スル代價改正、損害賠償又ハ契約銷除ノ訴權ハ不動産ニ付テハ一个年動産ニ付テハ一个月ノ期間ニ之ヲ行フコトヲ要ス

右期間ノ經過ハ賣主ニ在テハ契約ノ日ヨリ買主ニ在テハ引渡ノ日ヨリ始マル

第五十五條 動産又ハ不動産ノ賣買ニ於テ錯誤カ其物ノ品質ニ存スルトキハ財産編第三百十條ノ規定ヲ適用ス

第二則 追奪擔保ノ義務

第五十六條 他人ノ物ヲ賣買シタル場合ニ於テ擔保ノ事ニ付キ何等ノ特別ナル合意モ有ラサリシトキハ買主ハ未タ追奪ノ恐アルニ至ラサルトキト雖モ賣買無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ得又買主カ契約ノ當時其物ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知り賣主カ之ヲ知ラサリシトキト雖モ亦同シ

第五十七條 買主カ惡意ナリシトキハ賣買ノ無効及ヒ追奪擔保ノ效果ハ買主ニ其猶ホ負擔

スル代金辨済ノ義務ヲ免カレシメ又ハ其既ニ辨済シタル代金ヲ取戻スコトヲ許スニ在ル
ノミ
買主ハ買受物ノ價格カ減少シタルトキト雖モ右取戻ニ於テ代金ノ減少ヲ受クルコト無シ
但價格ノ減少カ自己ノ詐欺ニ出テ又ハ自己ノ利益ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス
如何ナル場合ニ於テモ買主カ其辨済シタル代金ヲ取戻シタルトキハ物ノ占有ヲ賣主ニ返
還スルコトヲ要ス

第五十八條 買主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ右ノ外尙ホ左ノ諸件ノ辨償ヲ受ク

第一 買主ノ支拂ヒタル契約費用ノ部分

第二 買受物ニ付キ買主カ支拂ヒタル費用ニシテ所有者ヨリ其辨償ヲ受クルコトヲ得

サルモノ

第三 買受物ニ生シタル増價額但意外ノ事ニ因ルモ亦同シ

第四 所有者ノ請求後ニ收取シ之ニ返還スルコトヲ要スル果實

然レトモ買主ハ果實ニ換ヘテ之ニ對當スル時期間ノ賣買代金ノ法律上ノ利息ヲ受ク
ルコトヲ欲スルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得

又善意ナル買主ハ此他所有者ノ回復ノ訴ニ對スル答辯ノ費用及ヒ擔保請求ノ費用等總テ
ノ損害賠償ヲ普通法ニ從ヒテ請求スルコトヲ得

第五十九條 賣主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ財産編第二百八十五條ニ從ヒテ正當ニ豫

見スルコトヲ得ヘカリシ限度ニ非サレハ前條ノ第二號第三號及ヒ末項ニ定メタル賠償ヲ
負擔セス

第六十條 善意ナル賣主ハ契約後ニ賣渡物ノ他人ニ屬スルコトヲ覺知シタルトキハ買主ヨ
リ代金ヲ提供スト雖モ其物ノ引渡ノ請求ヲ受クルニ當リ賣買ノ無效ヲ申立テ且抗辯ノ方
法ニ依リテ擔保ノ定方ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但買主カ追奪ノ場合ニ於ケル求償權ヲ拋
棄スル旨ヲ明白ニ陳述シタルトキハ此限ニ在ラス

第六十一條 右覺知カ引渡後ニ在リタルトキハ賣主ハ買主カ即時ニ擔保訴權ヲ行フヤ又ハ
己レト立會ヒ第五十八條ニ從ヒテ現時負擔ノ賠償額ヲ評定スルヤニ付キ買主ヲ遲滯ニ付
スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テ賣主ハ其受取リタル代金ト共ニ右評價ノ金額ヲ提供シテ供託シタルト
キハ縱令擔保ノ請求アルモ此他ノ責任ヲ負擔セス

供託シタル金額ヲ引取ルノ權利ヲ財産編第四百七十八條ニ從ヒテ行使シタル賣主ハ再ヒ
本條ノ許與セル權能ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十二條 他人ノ物ノ賣主ハ日後其物ノ所有者ト爲リタルトキハ買主ヲシテ賣買ヲ認諾
スルヤ擔保訴權ヲ行フヤノ一ヲ擇マシムルコトヲ何時ニテモ催告スルコトヲ得
右同一ノ權利ハ他人ノ物ノ賣主ノ相續人ト爲リタル眞所有者ニ屬ス

第六十三條 買受物ノ分割ノ部分カ完全所有權又ハ虛有權ニテ第三者ニ屬スル場合ニ於テ

買主カ此部分ヲ取得スルヲ得サルコトヲ知レハ初ヨリ其物ヲ買ハサル可キ程ニ其性質又ハ廣狹ニ因リテ有益ナルコトヲ證スルトキハ全部追奪ノ爲メ定メタル如ク損害ノ賠償ヲ得テ契約ヲ解除スルコトヲ得

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ其受ケタル直接且現時ノ損失ノ限度ニ於テ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第六十四條 買受物ノ不分ノ部分カ第三者ニ屬スルトキハ其部分ノ重要ノ如何ニ拘ハラズ買主ハ損害賠償ヲ得テ契約ヲ解除スル權利ヲ有ス
買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ買受物ノ價格ノ減少シタルトキト雖モ常ニ此ニ對當スル買受代金ト契約費用トノ部分ヲ取戻シ又其價格ノ増加シタルトキハ其損害ノ賠償ヲ受ク

第六十五條 或ハ賣渡シタル土地ニ屬スルモノトシテ契約ニ於テ述ヘタル働方地役ノ追奪アリタルトキ或ハ契約ニ於テ述ヘサル人爲ヲ以テ設定シタル受方地役ニ關シ又ハ財產ノ一分ニ存スル利益權、賃借權ニ關シテ第三者ノ要求アリタルトキハ第六十三條ノ規定ヲ適用スル財產ノ全部ニ存スル利益權又ハ賃借權ニシテ其經過ス可キ殘餘時期カ建物ニ付テハ一今年土地ニ付テハ二今年ヲ超エサルモノニ關シテモ亦同シ
賣買ノ財產ノ全部ニ存スル利益權又ハ賃借權ノ繼續時期カ建物ニ付テハ一今年土地ニ付テハ二今年ヲ超ユ可キトキハ買主ハ尙ホ自己ニ殘存セル權利ノ不充分ナルヲ證スルコト

ヲ要セシテ前條ニ從ヒ賣買ヲ解除スルコトヲ得

第六十六條 契約ニ於テ述ヘタルト否トヲ問ハズ賣渡シタル土地ニ先取特權又ハ抵當權ノ負擔アリテ買主カ其代金ノ辨濟ノ前又ハ辨濟ノ時其土地ヲシテ此負擔ヲ免カレシムル爲メニ必要ナル方式ヲ履行セサルニ因リ賣主ノ債權者ノ爲メニ所有權ヲ取上ケラレタルトキハ買主ハ賣主ニ對シ第五十八條及ヒ第五十九條ノ規定ニ從ヒテ擔保ノ求償權ヲ有ス
第六十七條 差押ヘタル財產ノ競落人カ追奪ヲ受ケタルトキハ被差押人ニ對シテ代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得若シ被差押人カ無資力ナルニ於テハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

競落人ハ差押人カ差押ノ際ニ其財產ノ債權者ニ屬セサルコトヲ知リタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得又債權者カ其財產ニ存スル第三者ノ權利ヲ詐欺ヲ以テ隱秘シタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

競賣條件書ノ調製及ヒ競落ノ處理ニ任シタル公吏ハ其職分ヲ缺キタル爲メ買主ノ錯誤ヲ惹起シタルニ非サレハ損害賠償ノ責ニ任セス

第六十八條 債權ノ賣主ハ當然自己ノ債權ノ存立及ヒ其有效ノ擔保ノ責ニ任ス
又賣主ハ明示ニテ債務者ノ有資力ノ擔保ヲ諾約シタルニ非サレハ其擔保ノ責ニ任セス
有資力ノ擔保ニ任シタル場合ニ於テモ賣主ハ債權カ既ニ満期ト爲リタルトキハ讓渡ノ日ニ於ケル有資力ノミニ付キ且受取リタル代金ノ限度ニ從ヒテ其實ニ任ス但一層廣大ナル

擔保ノ明約ト裏書ヲ以テ讓渡ス商證券ノ特別規則トヲ妨ケス
未タ満期ト爲ラサル債權ノ讓渡ニ於テ讓渡人カ他ノ特約ナクシテ債務者ノ將來ノ有資力
ヲ擔保シタルトキハ其擔保ハ満期ヨリ一今年又無期年金權ニ付キテハ其讓渡ヨリ十今年
ニテ絶止ス

第六十九條 物權ト人權トヲ問ハス爭ニ係ル權利ノ讓渡ニ於テハ讓渡人ハ特別ノ合意ナク
且讓受人カ爭アルコトヲ知リタルトキハ其主張ノ虛構ナラサルコトヲ擔保スルノミニシ
テ讓渡シタル權利ノ眞ノ成立ヲ擔保セス

裁判上下裁判外トヲ問ハス本權ニ關スル明白ノ爭ノ目的タル權利ニ付テノミニ右ノ規定ヲ
適用ス

讓渡人ハ其主張ノ虛構ナリシ場合ニ於テハ讓渡代金ノ返還ノ外讓受人カ正當ニ期望シタ
ル利益ノ賠償ヲ負擔ス

第七十條 會社ニ於ケル自己ノ權利ヲ賣渡シタル者ハ其權利ノ存立及ヒ其賣買契約ニ示セ
ル權利ノ廣狹ニ付テノミニ擔保ノ責ニ任ス

會社ノ從前ノ營業ヨリ生シ既ニ清算濟ト爲リタル賣主ノ權利及ヒ義務ハ買主ニ利害ノ關
係ヲ及ホスコト無シ

賣主ト會社トノ間ニ於ケル特別ノ計算ニ付テモ亦同シ

第七十一條 上ノ場合ニ於テ無擔保ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルトキト雖モ買主カ追
奪ヲ受ケタルニ於テハ賣主ハ代金ヲ返還スル責ニ任ス但買主カ賣買ノ時ニ於テ追奪ノ危
險アルコトヲ了知シタルトキハ賣主ハ此返還ヲ負擔セス

賣主ハ買主ノ危險負擔ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルコトノミニ因リテ亦代金ヲ返還
スル責ヲ免カル

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約款ニ依ルモ賣主ハ賣買ノ前後ヲ問ハス第二
者ニ授與シタル權利ヨリ生スル妨礙又ハ追奪ノ擔保ヲ免カルコトヲ得ス

第七十二條 賣主カ擔保ノ義務ノ全部又ハ一分ヲ買主ノ惡意ノ故ヲ以テ免カレント主張ス
ルトキハ賣渡物ニ關スル行爲カ第三者ノ利益ノ爲メニ登記シ有リト雖モ其登記ノミニテ
ハ買主ノ惡意ヲ證スルニ足ラス尙ホ賣主ハ登記官吏ノ認證書ニ依リ又ハ其他ノ方法ヲ以
テ買主カ賣買ノ前ニ此行爲ヲ了知シタル直接ノ證據ヲ供スルコトヲ要ス

第七十三條 財産編第三百九十九條及ヒ第四百條ハ擔保ノ爲メニスル賣主ノ召喚ニ付キ及
ヒ追奪ヲ受ケタル買主カ擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメサル爲メニ生スル失權ニ付キ之ヲ適
用ス

第三款 買主ノ義務

第七十四條 買主ハ合意シタル時期ニ於テ代金ヲ辨濟スルコトヲ要ス又其時期ニ付キ特別
ノ合意ナキトキハ引渡ノ時ニ於テ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

引渡シ日後ニ延フルノ合意アルトキハ代金ノ辨濟ヲモ暗ニ日後ニ延フルモノト推定ス

賣主カ引渡ノ爲メ恩惠期限ヲ裁判所ヨリ得タルトキハ買主ハ代金辨濟ノ爲メ同一ノ期間ヲ享有ス

代金辨濟ノ恩惠期限ハ引渡ノ爲メ賣主亦之ヲ享有ス

第七十五條 代金辨濟ノ場所ヲ合意セサルトキハ其辨濟ハ有體動産ニ付テハ引渡ヲ爲ス場所不動産債權、等ニ係ル權利又ハ會社ニ於ケル權利ニ付テハ證書ノ交付ヲ爲ス場所ニ於テ之ヲ爲ス

引渡ノ前又ハ後ニ代金ノ辨濟ヲ要求スルコトヲ得ヘキトキハ其辨濟ハ買主ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

第七十六條 買受物カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ定期ノ利益ヲ生スルトキハ買主ハ引渡ノ時ヨリ當然代金ノ利息ヲ負擔ス

反對ノ場合ニ於テハ利息ハ特別ノ合意又ハ辨濟ノ催告ニ依ルニ非サレハ之ヲ負擔セス

第七十七條 買主カ物上訴權ニ因リテ妨礙ヲ受ケ又ハ妨礙ヲ受クル恐アル正當ノ事由ヲ有スルトキハ賣主カ其妨礙若クハ危險ヲ止マシムルマテ又ハ追奪アリタルニ於テハ代金ヲ返還スル爲メノ保證人ヲ立ツルマテ買主ハ此訴權ノ輕重ニ從ヒテ代金ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

此規定ハ買主カ買受物ノ他人ニ屬スルヲ直接ニ證スルコトヲ得ルトキハ賣買無効ノ判決ヲ求メ及ヒ擔保ノ訴權ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十八條 買受ケタル不動産ニ付キ抵當權又ハ先取特權ノ登記アルトキハ買主ハ濛除ノ方式ヲ行フタル後ニ非サレハ代金ヲ辨濟スル賣主ニ但法律上ノ期間ニ於テ濛除ヲ行フコトヲ要ス

第七十九條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ其先取特權及ヒ第三者ニ對スル濛除ノ權利ヲ保存スル爲メノ公示ヲ爲サカリシトキハ當事者雙方ノ名ヲ以テ買主ヲシテ猶豫ナク代金ヲ供託セシムルコトヲ得但其代金ハ當事者雙方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リ且諸手續ノ終了後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第八十條 動産物ノ買主カ代金ヲ辨濟シタルト否トヲ問ハス引渡ヲ受クル權利ヲ有スル時ニ於テ其引渡ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ財産編第四百七十四條乃至第四百七十八條ニ從ヒテ其賣渡物ノ提供及ヒ供託ヲ爲スコトヲ得然レトモ日用品其他速ニ敗損ス可キ物ニ付テハ賣主ハ買主ノ爲メ之ヲ轉賣スルコトヲ得ルトキハ其轉賣ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 賣買ノ濛除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル濛除

第八十一條 當事者ノ一方カ上ニ定メタル義務其他特ニ負擔スル義務ノ全部若クハ一分ノ履行ヲ缺キタルトキハ他ノ一方ハ財産編第四百二十一條乃至第四百二十四條ニ從ヒ裁判上ニテ契約ノ濛除ヲ請求シ且損害アレハ其賠償ヲ要求スルコトヲ得

當事者カ解除ヲ明約シタルトキハ裁判所ハ恩惠期限ヲ許與シテ其解除ヲ延ヘシムルコトヲ得ス然レトモ此解除ハ履行ヲ缺キタル當事者ヲ遲滞ニ付シタルモ猶ホ履行セサルトキニ非サレハ當然其效力ヲ生セズ

第八十二條 買主カ辨濟其他ノ義務ヲ缺キタル爲メノ解除ハ買主ノ猶ホ代金ノ全部若クハ一分ノ負擔又ハ他ノ負擔ヲ明示シタル賣買證書ニ依リ登記ヲ爲シタルニ非サレハ賣主ヨリ轉得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス但價權擔保編第百八十二條ノ規定ヲ妨ケス
第八十三條 辨濟期限ノ定アル動産ノ賣買ニ於テ其引渡ヲ實行シタルトキハ辨濟ヲ缺キタル爲メノ賣主ノ解除ノ權利ハ買主ノ他ノ債權者ヲ害シテ之ヲ行フコトヲ得ス
辨濟期限ノ定ナキ賣買ニ付テハ賣主ハ引渡ヨリ八日內ニ賣買ヲ解除スルコトヲ得然レトモ善意ナル第三者ノ既得ノ物權ヲ害スルコトヲ得ス

第二款 受戻權能ノ行使

第八十四條 賣主ハ賣買證書ニ明記シタル受戻ノ約款ニ依リ買主ノ辨濟シタル代金ト費用ノ部分トヲ指定ノ期間ニ買主ニ返還スルニ於テハ其賣買ヲ解除ス可キコトヲ要約スルヲ得

右期間ハ不動産ニ付テハ五ヶ年、動産ニ付テハ二ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス此ヨリ長キ時期ノ要約ハ當然之ヲ此期限ニ短縮ス
一旦期間ヲ定メタル以上ハ右制限內ト雖モ之ヲ伸長スルコトヲ得ス

然レトモ其伸長ハ之ヲ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得此場合ニ於テハ第二十六條及ヒ第二十七條ノ規定ニ從フ

賣買後ニ於テ爲シ又ハ別證書ヲ以テ爲シタル受戻ノ要約ニ付テモ亦同シ
賣主ハ代金ノ半額以上ノ辨濟ノ爲メ期限ヲ與ヘ且其期限カ受戻ノ爲メ定メタル期間ノ半以上ニ及ヘルトキハ有效ニ受戻ノ權能ヲ要約スルコトヲ得ス

第八十五條 不動産ニ付テハ法律ノ定メタル期間ニ其定メタル條件ヲ以テ爲シタル受戻權能ノ行使ハ買主カ第三者ニ授與シ又ハ第三者カ買主ノ權ニ基キテ取得シタル物權ヲ排除シテ其不動産ヲ賣主ニ復セシム但賃借權ニシテ殘期ノ一ヶ年ヲ超エサルモノハ此限ニ在ラス

動産物ニ付テハ受戻ノ權能ハ善意ニテ其動産物上ニ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十六條 賣主ノ債權者ハ賣主ニ代ハリテ受戻ノ權能ヲ行フコトヲ得然レトモ買主ハ右債權者カ豫メ其債務者ノ無資力ヲ證シ且財産編第三百二十九條ニ從ヒテ受戻權能ノ行使ノ爲メ裁判上ニテ賣主ニ代位スルヲ要求スルコトヲ得
買主ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價シタル買受物ノ現時ノ價額ト第八十八條ニ從ヒテ賣主ヨリ己レニ返還ス可キ金額トノ差額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シテ債權者ノ訴ヲ止ムルコトヲ得

第八十七條 賣主カ受戻ノ約款ニテ賣渡シタル物ヲ日後抵當トシ又ハ之ニ其他ノ物權ヲ負擔セシメタルトキハ其權利ノ效力ハ賣主又ハ其債權者ノ受戻權能ヲ行ヒタル後ニ非サレハ生セス

賣主カ受戻ニ服スル物ノ所有權ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ自己ノ名ヲ以テ受戻ヲ爲スコトヲ得然レトモ讓渡前ニ賣主カ他人ニ對シテ承諾シ且登記ヲ經タル此他ノ物權ヲ妨得スルコトヲ得ス但其擔保訴權ヲ失フコト無シ

第八十八條 賣主カ受戻ノ權能ヲ行ハントスルトキハ指定ノ期間ニ賣買代價及ヒ契約費用ノ外尙ホ物ノ保存費用ヲ買主ニ辨償スルコトヲ要ス

買主カ右金額ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ猶豫ナク之ヲ供託スルコトヲ要ス賣主ハ物ノ改良費用ヲモ辨償スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ此辨償ニ付テハ賣主ニ猶豫ヲ許スコトヲ得

買主ハ右金額ノ皆濟ヲ受クルマテ其物ノ上ニ留置權ヲ有ス
第八十九條 不動産ノ共有者ノ一人カ其不分ノ部分ヲ受戻約款ニテ賣リタル場合ニ於テ買主カ他ノ共有者ヨリ促カサレタル競賣ニ因リテ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ前條ニ掲ケタル金額ニ競賣ノ代金ヲ加ヘテ其不動産ノ全部ニ對スルニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス又買主ハ之ニ故障ヲ述フルコトヲ得ス

買主カ自ラ競賣ヲ促シタルトキハ賣主ハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ受戻ヲ爲スコトヲ得又買主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得

第九十條 孰レヨリ競賣ヲ促カシタルヲ問ハス買主ニ非サル共有者ノ一人又ハ外人ノ競落シタル場合ニ於テ賣主ハ競賣ニ召喚セラレサリントキハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ競落人ニ對シテ受戻ノ權利ヲ有シ之ニ反スルトキハ其權利ヲ失フ

第九十一條 現物ヲ以テ分割シタルトキ賣主カ其分割ニ召喚セラレタルニ於テハ賣主ハ孰レヨリ分割ヲ促カシタルヲ問ハス他ノ所有者ニ歸シタル部分ニ付キ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得ズシテ買主ニ歸シタル部分ノミヲ受戻スコトヲ得但買主ノ供與シ又ハ受取リタル補足代金ヲ賣主買主ノ間互ニ計算スルコトヲ妨ケス

賣主カ分割ニ召喚セラレサリントキハ賣主ハ選擇ヲ以テ或ハ其分割ヲ認諾シ買主ニ對シテ前項ニ示シタル權利ヲ行ヒ或ハ第八十八條ニ掲ケタル金額ヲ買主ニ辨償シ共有者ニ對シテ再分割ヲ促カスコトヲ得

第九十二條 不分物ノ共有者カ一箇ノ契約及ヒ唯一ノ代價ニテ其物ヲ受戻ノ約款ヲ以テ賣渡シタルトキハ買主ハ一分ニ付キ受戻ヲ受クル賣主ニ

又買主ハ賣主ノ一人ヨリ爲ス全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得之ニ反シテ數人ノ共有者カ各別ノ契約ヲ以テ各自ノ部分ヲ賣渡シタルトキハ各別ニ受戻ヲ爲スコトヲ得但第八十九條及ヒ第九十一條ノ規定ハ之ヲ此場合ニ適用スルコトヲ得

第九十三條 數人ノ買主カ一箇ノ契約又ハ各別ノ契約ヲ以テ一箇ノ財産ヲ受戻ノ約款ニテ

取得シタルトキ賣主カ買主ノ間ニ分割ヲ爲ササル前ニ受戻ヲ爲サント欲スルニ於テハ賣主ハ總買主ニ對シ又ハ一人若クハ數人ノ買主ニ對シテ其各自ノ部分ニ付キ受戻ヲ爲スコトヲ得

既ニ分割ヲ爲シタルトキハ賣主ハ各買主ニ對シ分割又ハ競賣ニ因リテ其各自ニ歸シタル部分ノミニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買廢却訴權

第九十四條 動産ト不動産トヲ問ハス賣渡物ニ賣買ノ當時ニ於テ不表見ノ瑕疵アリテ買主之ヲ知ラス又修補スルコトヲ得ス且其瑕疵カ物ヲシテ其性質上若クハ合意上ノ用方ニ不適當ナラシメ又ハ買主其瑕疵ヲ知レハ初ヨリ買受ケサル可キ程ニ物ノ使用ヲ減セシムルトキハ買主ハ其賣買ノ廢却ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ買主ハ辨濟代金ト契約費用トヲ取戻シ其代金ノ利息ハ請求ノ日ニ至ルマテノ物ノ收益又ハ使用ト之ヲ相殺ス

第九十五條 買主カ隠レタル瑕疵ノ賣買廢却訴權ヲ行フ可キ程ニ重大ナルヲ證スルコト能ハス又ハ物ヲ保有スルコトヲ欲スルトキハ買主ハ便益ヲ失フ割合ニ應シテ代價ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第九十六條 買主カ賣主ニ對シ賣買ノ廢却又ハ代價ノ減少ヲ得タルニ拘ハラズ賣主カ初ヨリ其瑕疵ヲ知リタルトキハ買主ハ尙ホ其受ケタル損害又ハ失ヒタル利益ニ付テノ賠償ヲ

要求スルコトヲ得

第九十七條 隠レタル瑕疵ヲ擔保セストノ要約ハ賣主ヲシテ初ヨリ自ラ了知シ且詐欺ヲ以テ隠秘シタル瑕疵ニ付テノ責任ヲ免カレシメス

第九十八條 賣買ノ當時ニ於テ物ニ瑕疵アリタルコト其瑕疵ヨリ買主ニ損害ヲ生シタルコト及ヒ買主又ハ賣主カ其瑕疵ヲ了知シタルコトハ人證、鑑定其他ノ法律上ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證ス

第九十九條 賣買廢却、代價減少及ヒ損害賠償ノ訴ハ左ノ期間ニ於テ之ヲ起スコトヲ要ス

第一 不動産ニ付テハ六個月

第二 動産ニ付テハ三個月

第三 動物ニ付テハ一個月

右期間ハ引渡ノ時ヨリ之ヲ起算ス

然レトモ此期間ハ買主カ瑕疵ヲ知レル證據アリタル日ヨリ其半ニ短縮ス但其殘期カ此半ヲ超ユルトキニ限ル

買主カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ右期間ニ隠レタル瑕疵ヲ覺知スル能ハサリシコトヲ證スルトキハ其期間ノ滿了後ニ於テモ訴ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ意外ノ事又ハ不可抗力ノ止ミタル時ヨリ通常期間ノ三分一ヲ以テ新期間ト爲ス

第一百條 隠レタル瑕疵ニ基キタル代價減少ノ訴權ハ買主カ買受物ヲ無償又ハ有償ニテ讓渡

民法 財産取得編

シタルモ之ヲ失ハス但有償ノ讓渡ノ場合ニ於テハ其瑕疵ノ爲メ買主カ損失ヲ受ケタルトキ又ハ讓受人ヨリ訴ヘラレ若クハ訴ヘラルルノ恐アルトキニ限ル

第百一條 賣渡物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ全部又ハ半以上減失シタルトキハ賣買廢却訴權ヲ行フコトヲ得ス

減失部分ノ多少ニ拘ハラズ代價減少ノ訴權ハ殘存部分ノ割合ニ應シテ存立ス
如何ナル場合ニ於テモ賣主ハ隠レタル瑕疵ヨリ生スル全部又ハ一分ノ減失ノ責ニ任ス

第百二條 合式ノ強制賣却ハ賣買廢却訴權ヲモ代價減少訴權ヲモ生セス

第百三條 或ル動物又ハ日用品ノ隠レタル瑕疵ニ付テハ特別法ヲ以テ其賣買上ノ效果ヲ定ムルニ至ルマテ本法ノ規定ヲ適用ス

第四節 不分物ノ競賣

第百四條 不分財產ノ分割ヲ爲スニ當リ共有者ノ一人タリトモ現物ノ分割ヲ拒ム者アルトキハ其財產ノ協議賣却又ハ競賣ヲ爲シ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シテ其代金ヲ配當ス

第百五條 共有者カ共一人若クハ第三者ニ協議賣却ヲ爲シ又ハ相互ノ間ニ競賣ヲ爲スニ付キ一致ヲ得ル能ハサルトキ又ハ共有者中ニ失踪者若クハ無能力者アルトキハ裁判所又ハ裁判所ノ指定シタル公吏ノ前ニ於テ不分物ノ競賣ヲ爲ス但民事訴訟法ニ定メタル競賣方式ニ從フコトヲ要ス
共同競賣人ノ各自ハ常ニ競賣ニ外人ノ參與ヲ許スヲ要求スルコトヲ得共有者ノ一人カ失

踪シ又ハ無能力ナルトキハ外人ノ參與ハ當然且必要ナリトス

第百六條 共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルトキハ其競賣又ハ協議賣却ハ共有者間ノ分割ノ行爲ト看做サレ會社ノ分割ニ關シ規定シタル效力ヲ生ス

第三者ニ競落又ハ協議賣却ヲ爲シタルトキハ其賣買ハ第三者ト原共有者トノ間ニ於テ本章ニ規定シタル賣買ノ效力ヲ生ス

第四章 交換

第百七條 交換ハ當事者ノ一方カ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ヨリ取得シ又ハ之ヲシテ諾約セシメ其對價トシテ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ諾約スル契約ナリ

相互ノ權利ノ價額カ均一ナラサルトキハ金錢其他ノ物ノ補足ヲ以テ之ヲ均一ニス
金錢ノ補足カ交換ニ供シタル物ノ價額ヲ超ユルトキハ其契約ハ之ヲ賣買ト看做ス

第百八條 當事者ハ交換ニ供シ又ハ諾約シタル物又ハ權利ニ對スル妨碍及ヒ追奪ノ擔保ヲ相互ニ負擔ス

當事者ノ一方カ他ノ一方ノ諾約シタル物又ハ權利ヲ取得スルコトヲ得サリシトキハ其選擇ヲ以テ或ハ金錢ノ對價ヲ要求スルコトヲ得或ハ契約ノ解除ヲ請求シテ自己ノ供與シタルモノヲ取戻スコトヲ得但孰レノ場合ニ於テモ損害アレハ其賠償ヲ受ク

右解除ノ權利ハ取戻ニ服スル不動産ニ付キ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フコ

トヲ得ス但財産編第三百五十二條第一項ニ從ヒテ請求ノ公示前ニ其第三者ノ權原ノ登記アリタルトキニ限ル

第九條 賣買ノ規則ハ左ノ例外ヲ以テ交換ニ之ヲ適用ス

交換ハ配偶者ノ間ニ之ヲ爲スコトヲ許ス但交換物ノ價額ノ差カ間接ノ利益ヲ成ストキハ贈與ヲ禁制シ又ハ之ヲ制限スル規則ニ從フ

當事者ノ一方又ハ雙方カ指定ノ期間ニ於テ任意ニ交換ヲ解除スルコトヲ要約シタルトキハ第二十七條ニ依リ賣買ノ豫約ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル條件ニ從フニ非サレハ其解除ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五章 和解

第十條 和解ハ當事者カ交互ノ讓合又ハ出捐ヲ爲シテ既ニ生シタル爭ヲ落著セシメ又ハ生スルコト有ル可キ爭ヲ豫防スル契約ナリ

和解ノ成立、有效、效力及ヒ證據ハ下ノ規定ヲ除ク外合意ニ關スル一般ノ規則ニ從フ

第十一條 和解ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但其錯誤カ相手方ノ詐欺ニ起因スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 和解ハ偽造ノ書類又ハ無効ノ行爲ニ依リ承諾シタルコトヲ理由トシテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但此等ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキ當事者ニ於テ其書類ノ偽造ヲ知ラス又ハ其行爲ヲ法律ニ於テ無効ナラシムル所ノ事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第十三條 定マリタル爭ニ付キ爲シタル和解ハ新ニ發見シタル證書ニ因リテ當事者ノ一方カ爭ノ目的ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス又ハ他ノ一方カ其目的ニ付キ完全且爭フ可カラサル權利ヲ有スルコトノ顯ハレタルトキハ事實ノ錯誤ノ爲メ亦之ヲ銷除スルコトヲ得確定シタル判決又ハ攻擧スルヲ得サル契約ニ因リ既ニ爭ノ落著シタル場合ニ於テ其判決又ハ契約ヲ知ラスシテ和解ヲ爲シタルトキモ亦同シ

然レトモ和解カ從前ノ原因ヨリ生スルコト有ル可キ總テノ爭ヲ落著セシメ又ハ之ヲ豫防スルヲ目的トシタルトキハ當事者ノ一方ノ利益タル確定證書ノ發見ハ其和解ノ銷除ヲ生セス但其證書カ相手方ノ所爲ニ因リテ控留セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第十四條 有效ノ和解ハ當事者ノ相互ニ追認シタル權利又ハ利益ニシテ既ニ生シ又ハ豫見シタル爭ノ目的タルモノニ付テハ當事者間ニ在テハ確定判決ノ權利ト均シキ認定ノ效カヲ生ス此場合ニ於テハ其權利又ハ利益ハ從前ノ原因ニ由リテ保持シタルモノト看做ス但當事者雙方ニ更改ヲ爲ス意思アリシトキハ此限ニ在ラス
之ニ反シテ相互ニ供與シ又ハ諾約シタル權利又ハ利益ノ全部若クハ一分ニシテ爭ノ目的タラサリシモノニ付テハ和解ハ物權又ハ人權ヲ生シ之ヲ移轉シ若クハ之ヲ消滅セシムル有償合意ノ規則ニ從フ

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

民法 財産取得編

第百十五條 會社ハ數人カ各自ニ配當ス可キ利益ヲ收ムル目的ニテ或ル物ヲ共通シテ利用スル爲メ又ハ或ル事業ヲ成シ若クハ或ル職業ヲ營ム爲メ各社員カ定マリタル出資ヲ爲シ又ハ之ヲ諾約スル契約ナリ

第百十六條 商事會社ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ定ム

第百十七條 社員ノ出資ハ或ハ動産又ハ不動産ノ所有權若クハ收益權或ハ金錢又ハ技術、勞力ヲ以テスルコトヲ得

出資ハ不均一ナルコトヲ得

第百十八條 民事會社ハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ會社ニ社名ヲ付シ且其契約ハ商事會社ノ公示ノ爲メ法律ニ規定シタル方式ニ從ヒテ之ヲ公示スルコトヲ要ス但社名ヲ付シ又ハ公示ヲ爲シタルトキハ其會社ヲ法人ト爲ス意思アリト推定ス

第百十九條 合意ノ一般ノ規則殊ニ當事者ノ承諾能力、合意ノ目的、原因及ヒ證據ニ關スルモノハ會社ニ之ヲ適用ス

第百二十條 會社ハ其目的ノ商事ニ在ラサルモ資本ヲ株式ニ分ツトキハ商法ノ規定ニ從フ

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第百二十一條 會社ハ契約ノ日ヨリ開始ス但明示又ハ默示ニテ他ノ期限ヲ定メ又ハ條件ヲ附シタルトキハ此限ニ在ラス

各社員ハ會社ノ開始スル時ニ於テ其諾約シタル出資ヲ差入ルルコトヲ要ス之ヲ差入レザルトキハ其社員ハ出資ニ生スル果實及ヒ利息ヲ當然負擔ス且遲延ノ爲メ損害ヲ生シタルトキハ出資ノ金錢ヲ以テスルトキト雖モ其賠償ヲ負擔ス

第百二十二條 技術又ハ勞力ノ出資ヲ諾約シタル社員カ其諾約ヲ缺キタルトキハ其社員ハ他ノ社員ノ選擇ニ從ヒ會社ニ對シテ或ハ其義務ノ履行ヲ缺キタル當時ヨリ會社ノ受ケタル損害ヲ賠償シ或ハ其勞力ヲ會社外ニ用非テ得タル利益ヲ分與スル責ニ任ス

第百二十三條 動産ト不動産トヲ問ハズ特定物ノ所有權ヲ出資ト爲スコトヲ諾約シタル社員ハ會社ニ對シ賣主ト同シク其物ノ妨碍、追奪又ハ面積、數量ノ不足及ヒ隠レタル瑕疵ニ付キ擔保ノ責ニ任ス

又社員カ物ノ收益權ノミヲ出資ト爲スコトヲ諾約シタルトキハ貸貸人ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第百二十四條 會社契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ業務擔當人ヲ選任シタルトキハ其各員ハ受任ノ權限ヲ踰ユルコトヲ得ス

權限ノ定マラサル業務擔當人ハ共同又ハ各別ニテ通常ノ管理行爲ヲ爲スニ止マル又業務擔當人ハ會社ノ目的中ノ重要ナル行爲ニ付テハ共同ニテ之ヲ爲スコトヲ得但異議アル場合ニ於テハ其行爲ヲ中止シ總社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第百二十五條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セサル場合ニ於テ總社員ノ一致ニテ之ヲ

選任セサル間ハ社員ノ各自ハ前條ニ規定シタル行爲ヲ其條件ニ從ヒテ爲ス。權ヲ有ス
第百二十六條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ニ選任セラレタル社員ハ正當ノ原因アルトキ又
ハ其承諾及ヒ總社員ノ同意ヲ得タルトキニ非サレハ委任ノ期限内ニ之ヲ解任スルコトヲ
得ス

會社設立以後ノ契約ヲ以テ選任シタル業務擔當人ハ之ヲ選任シタルト同一ノ方法ヲ以テ
其承諾ヲ要セスシテ之ヲ解任スルコトヲ得

第百二十七條 業務擔當人ヲ選任シタル方法ノ如何ヲ問ハス其中ノ一人又ハ數人ノ死亡、辭
任又ハ解任アリテ此等ノ事件ノ爲メニ會社ノ解散セサルトキハ總社員ノ過半數ヲ以テ其
補闕者ヲ選任ス

第百二十八條 右ノ外會社定款ノ執行ニ關スル總テノ處分ハ亦社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ定
定款ニ反スル行爲又ハ定款外ノ行爲ニ付テハ總社員ノ一致ヲ得ルヲ必要トス
本條ハ定款又ハ法律ノ之ニ反スル規定ヲ妨ケス

第百二十九條 第三者カ會社ト業務擔當社員ノ一人トニ對シテ同性質ノ債務ヲ負擔シタル
トキ其第三者カ二箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル金額又ハ有價物ヲ此社員ニ辨濟ス
ルニ於テハ其社員ハ會社ノ債權額ト自己ノ債權額トノ割合ニ應スルニ非サレハ自己ノ債
權ノ辨濟ニ之ヲ充當スルコトヲ得ス但債務者ノ爲シタル充當ヲ變更スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ正當ノ利益ナクシテ社員ノ債權額ノ全部ニ充當シタルトキハ社員ハ其
辨濟ノ額内ヨリ右ノ割合ニ應スル部分ヲ會社ニ分與スル責ニ任ス

債務者又ハ社員カ有效ナル充當ヲ爲ササルトキハ財産編第四百七十二條ニ從ヒテ法律上
ノ充當ノ規則ヲ適用ス

第百三十條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス社員ニシテ會社ノ債務者ヨリ會社ニ對スル債
務ノ一分ヲ受取リタル者ハ場合ノ如何ニ拘ハラズ會社ニ其利益ヲ得セシムルコトヲ要ス
但自己ノ持分トシテ受取證書ヲ與ヘタルトキト雖モ亦同シ

第百三十一條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス各社員ハ其過失又ハ懈怠ニ因リテ會社ニ加
ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

此損害ハ社員カ會社營業ノ他ノ事件ニ付キテ會社ニ得セシメタル利益ト相殺スルコトヲ
得ス但其事件ノ互ニ連絡シタルトキハ此限ニ在ラス

第百三十二條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セサルカ爲メニ業務ヲ取扱フ社員ハ自己
ノ業務ニ於ケルト同一ノ注意ヲ加ヘサルトキニ非サレハ其過失ノ責ニ任セス

第百三十三條 各社員ハ會社資本中ニ於テ使用スルコトヲ得ル金額ナキトキハ會社ノ所屬
物ニ關スル必要及ヒ保持ノ費用ヲ自己ノ權利ノ割合ニ應シテ分擔スル責ニ任ス

第百三十四條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス各社員ハ會社ヲシテ自己ノ出資外ニ會社ノ
爲メ有益ニ立替ヘタル金額ヲ返還セシメ又ハ會社ノ利益ノ爲メ善意ニテ負擔シタル義務

ヲ認諾セシメ又ハ會社ノ營業ノ爲メ自己ノ財産ニ受ケタル避クルヲ得サル損害ヲ賠償セシムルコトヲ得

第三百二十五條 會社營業ノ爲メ社員ノ立替ヘタル金額ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス之ニ反シテ各社員ハ自己ノ營業ノ爲メ會社資本中ヨリ引出シタル金額ニ付テハ當然會社ニ對シテ其利息ヲ負擔シ尙ホ損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

第三百二十六條 社員ハ會社解散ノ際ニ現在スル資本ニ於ケル各自ノ持分ヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ隨意ニ定ムルコトヲ得但第三百二十八條ニ掲ケタル二箇ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三百二十七條 社員ハ其一人又ハ數人ノ持分カ利益及ヒ損失ニ於テ同一ナラサルヲ合意スルコトヲ得

然レトモ利益ノミヲ豫見シテ右ノ持分ヲ定メタルトキハ損失ニ付テモ同一ノ定方ヲ合意シタリトノ推定ヲ受ク

如何ナル場合ニ於テモ受ケタル損失ヲ控除シ會社ノ貸方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ配當ス可キ利益ト看做サス又右貸方ヲ竭シタル後借方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ損失ト看做サス

然レトモ會社ノ存立中ニ詐害ナクシテ既ニ爲シタル利益又ハ損失ノ一分ノ配當ハ之ヲ變更セス

第三百二十八條 會社資本ノ全部又ハ會社ノ得タル利益ノ全部ヲ社員中ノ一人ニ歸ス可キ約款ハ無効ナリ

技術又ハ勞力ヲ出資ト爲シタル社員ニ非サル社員ニ全ク損失ノ負擔ヲ免レシム可キ約款モ亦同シ

會社契約ニ右ノ約款ヲ附記シタルトキハ其約款ハ契約ヲシテ全ク無効ナラシム又日後ニ右ノ約款ヲ追加シタルトキハ其約款ハ契約ノ存立ヲ妨ケスシテ會社ノ清算ハ第四百四十一條ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百二十九條 社員ハ自己ノ選任セシ又ハ選任ス可キ社員又ハ外人タル一人若クハ數人ノ仲裁人ヲシテ會社解散ノ際各自ノ持分ヲ定メシムルコトヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ合意スルコトヲ得

仲裁人ノ爲シタル定方ハ仲裁人カ仲裁ノ適法ノ方式又ハ仲裁契約ヲ以テ授ケラレタル條件ヲ履行セサルカ又ハ明カニ公平ヲ失シタルトキニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス右定方ノ無効ノ請求ハ此ニ因リテ害ヲ受ケタリト主張スル社員ニ在テハ其社員カ定方ノ執行ニ加ハリタルトキ又ハ其定方ヲ知りタルヨリ三個月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十條 會社契約ヲ以テ持分ノ定方ヲ仲裁人ニ委任ス可キコトヲ定メタル場合ニ於テ少ナクトモ社員ノ過半数カ仲裁人ヲ選任スルコトニ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ其選

民法 財産取得編

任ヲ爲ス

選任セラレタル仲裁人カ定方ヲ爲スコトヲ欲セス又ハ之ヲ爲スコト能ハサルニ當リ社員
カ其改選ニ付キ一致セサルトキモ亦同シ

第四百十一條 社員自身ニテ若クハ仲裁人ヲ以テ持分ノ定方ヲ爲サス又ハ仲裁人ノ定方ノ
無効ト爲リタルトキハ會社資本及ヒ利益又ハ損失ハ社員ノ出資額ノ割合ニ應シテ之ヲ配
當ス

社員ノ出資ト爲シタル技術又ハ勞力ノ評價ナキトキハ裁判所ハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ其
出資ノ價額ヲ定ム

技術又ハ勞力ト財産トヲ出資ト爲シタル社員ハ前項ニ定メタル價額ノ外尙ホ其財産ノ價
額ニ從ヒテ計算シタル持分ノ配當ヲ受ク

第四百十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムルコトヲ得又其持分ヲ質入シ又
ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス但會社
契約ヲ以テ社員ニ此權利ヲ認許シタルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ會社カ社員ノ讓
渡サント欲スル持分ヲ消却スル爲メ先買權ヲ留保シタルトキハ自己ノ持分ヲ讓渡サント
スル社員ハ會社カ其先買權ヲ行フカ拋棄スルカニ付キ之ヲ遲滯ニ付スルコトヲ要ス

第四百十三條 業務擔當人カ會社ノ名ヲ以テ又ハ會社ノ營業ノ爲メ有效ニ負擔シタル義務
ハ會社カ法人ヲ成セルトキハ各社員ノ一身上ノ債權者ニ先タテ會社資本ヲ以テ之ヲ擔保

ス

會社資本ノ不十分ナル場合又ハ訴追債權者ニ其資本ヲ示ササル場合ニ於テハ總社員ハ連
帶シテ會社ノ義務ヲ負擔ス會社カ法人ヲ成ササルトキモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ各社員間ノ決算ハ第三百二十六條乃至第四百十一條ニ規定シタル貸方及ヒ
借方ニ於ケル各自ノ持分ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三節 會社ノ解散

第四百十四條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ當然解散ス

- 第一 會社契約ヲ以テ指定シタル期間ノ滿了又ハ解除條件ノ成就
- 第二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
- 第三 會社資本ノ全部又ハ半額以上ノ損失
- 第四 社員ノ一人ノ技術勞力又ハ收益ヲ以テスル繼續ノ出資ヲ爲スノ不能
- 第五 社員ノ一人ノ死亡、禁治産、破産又ハ顯然ノ無資力但第四百十七條ノ規定ヲ妨ケ
ス

第四百十五條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ之ヲ解散スルコトヲ得

- 第一 如何ナル場合ヲ問ハス社員ノ一致ノ意思
- 第二 會社ニ明示又ハ默示ノ一定ノ期間ナキ場合ニ於テ惡意ニ非ス又不都合ノ時期ニ
非スシテ解散ノ請求ヲ爲ストキハ社員一人ノ意思

民法 財産取得編

第三 會社ニ一定ノ期間アルトキト雖モ社員ノ一人ノ義務不履行ニ基キタル解除ノ訴
又ハ正當ノ理由ニ基キタル解散ノ請求

第四百十六條 社員ハ會社ノ期間ノ滿了前ニ明示又ハ默示ニテ其期間ヲ伸長スルコトヲ得
默示ノ伸長ハ一定ノ期間ノ滿了後ニ於テ社員ノ一人タモ故障ヲ爲サスシテ會社營業ノ繼
續シタル事實ヨリ生スルコトヲ得此場合ニ於テ會社ハ前條第二號ニ從ヒ社員ノ一人ノ意
思ヲ以テ之ヲ解散スルコトヲ得

第四百十七條 社員ハ第四百四十四條第五號ニ掲ケタル原因ニ由リテ會社ヲ解散セス且闕員
ノ持分ヲ定メ他ノ社員ニテ之ヲ繼續スルヲ合意スルコトヲ得
又社員ハ死亡シタル社員ノ相續人又ハ無能力ト爲リタル社員ト共ニ會社ヲ繼續スルヲ合
意スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ相續人又ハ無能力者ノ合式ノ代人ノ新ナル承諾ヲ要ス

第四節 會社ノ清算及ヒ分割

第四百十八條 會社ノ解散シタルトキハ社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ清算ヲ請求スルコト
ヲ得

清算ハ分割前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但社員ノ多數カ全部又ハ一分ノ分割ヲ先ニスルコト
ヲ請求シタルトキハ此限ニ在ラス
又會社ノ各債權者ハ清算前ニ分割ヲ爲スコトニ付キ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第四百十九條 清算ハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一 著手シタル業務ノ成就

第二 會社ノ債務ノ辨濟及ヒ其債權ノ取立

第三 各社員ト會社トノ間ノ特別ナル計算

第四 分割ス可キ貸方又ハ負擔ス可キ借方ニ於ケル各社員又ハ其代人ノ持分ノ指定

第四百十條 會社契約ニ清算人ノ選任及ヒ其權限ニ關スル約款ナキトキハ清算ハ或ハ總社
員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ委任シタル一人若クハ數人ノ社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ
一致ヲ以テ選任シタル第三者之ヲ爲ス

社員カ清算人ノ選任ニ付キ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ選任ス
第四百十一條 清算人ハ如何ナル場合ヲ問ハス速ニ毀損又ハ滅盡ス可キ物ヲ讓渡スコトヲ
要ス

滿期ト爲リタル債務ノ辨濟ノ爲メ必要ナルトキハ此他ノ動産ヲ讓渡スコトヲ得
不動産ニ付テハ清算人ハ社員ノ特別ナル委任ヲ受クルニ非サレハ之ヲ抵當トシ又ハ讓渡
スコトヲ得ス

前項ノ讓渡ハ競賣競落ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但協議上ノ讓渡ヲ許シタル
場合ハ此限ニ在ラス孰レノ場合ニ於テモ社員ノ過半数ヲ以テ決スルコトヲ要ス
清算人ハ社員ノ名ヲ以テ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

清算人カ會社ノ債務又ハ債權ニ付キ承諾シタル和解及ヒ仲裁ハ第三者ト通謀シタル詐欺ノ爲メニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス

第五十二條 清算ニ於ケル總計算ハ社員ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

右ノ計算ヲ認可スルニハ社員ノ過半数ノ議決ヲ以テ足レリトス

此議決ハ總計算ニ付キ之ヲ爲シ又ハ計算ノ或ル部分ニ付キ各別ニ之ヲ爲スコトヲ得

認可ヲ得サル計算ニシテ仕直スコトヲ得ヘキモノナルトキハ清算人其費用ヲ以テ之ヲ爲

ス若シ仕直スコトヲ得サルトキハ清算人ハ代理ノ規則ニ從ヒ其過失ニ因リテ加ヘタル損

害ノ費ニ任ス

清算人ノ受任シタル權限ニ依リ又ハ前條ニ從ヒテ爲シタル行爲ハ善意ナル第三者ニ對シ

テ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五十三條 會社ノ清算後ハ不分ニテ存スル財産ノ分割ハ社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ

之ヲ請求スルコトヲ得但當事者カ財産編第三十九條ニ從ヒ不分ニテ存スルコトヲ會社ノ

解散後ニ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條 分割部分ノ定方又ハ其配付ニ付キ當事者ノ一致セサルトキハ財産共通ノ分

割ノ爲メ別ニ定メタル規則ニ從フ

第五十五條 會社資本中ノ物ニシテ分割ニ因リ各社員ニ歸シタルモノニ關スル其社員ノ

權利ハ會社解散ノ日ニ遡リテ效力ヲ有シ又清算中他ノ社員ヨリ其物ニ付キ第三者ニ授與

シタル權利ハ之ヲ解除ス

第五十六條 分割者ハ分割ニ因リテ取得ス可キ權利ノ上ニ受クルコト有ル可キ妨碍及ヒ

追奪ニ付キ其各自ノ部分ニ應シテ相互ニ擔保ヲ爲ス

分割者ノ一人カ無資力ナルトキハ其一人ノ負擔シタル賠償ノ部分ハ被擔保人ヲ併セテ他

ノ共同分割者ノ間ニ之ヲ分ツ

第七章 射倖契約

總則

第五十七條 射倖契約トハ當事者ノ雙方若クハ一方ノ損益ニ付キ其效力カ將來ノ不確定

ナル事件ニ繫ル合意ヲ謂フ

第五十八條 射倖契約ニハ其性質ニ因ルモノ有リ當事者ノ意思ニ因ルモノ有リ

博戲賭事終身年金權其他終身權利ノ設定陸上海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ性質ニ因ル射

倖ノモノナリ

此他成立又ハ效力ヲ停止又ハ解除ノ偶成ノ條件ニ繫ラシムル契約ハ當事者ノ意思ニ因ル

射倖ノモノナリ

第五十九條 陸上海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一節 博戲及ヒ賭事

第六十條 博戲ハ博戲者ノ勇氣、力量、巧技ヲ發達ス可キ性質ナル體軀運動ヲ目的トスル

民法 財産取得編

ニ非サレハ其義務履行ノ爲メ訴權ヲ許サス
賭事ニ基ク訴權ハ右ノ如キ體驅運動ヲ爲ス人ノ爲メ又ハ賭者ノ直接ニ關係スル農工商業
ノ進歩ノ爲メニ非サレハ亦之ヲ許サス

右ノ博戲又ハ賭事ニ於テ諾約シタル金額又ハ有價物カ事情ニ照シテ過度ナリト見ユルト
キハ裁判所ハ之ヲ減少スルコトヲ得シテ全ク其請求ヲ棄却スルコトヲ要ス

第六十一條 前條ノ場合ノ外博戲及ヒ賭事ハ自然義務ヲモ生セス且其債務ノ追認、更改
又ハ保證ハ總テ無効ナリ

然レトモ右博戲又ハ賭事ニ因ル有能力者ノ任意ノ辨濟ハ之ヲ取戻スコトヲ許サス但勝者
ニ於テ詐欺又ハ欺瞞アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六十二條 官許ヲ得サル富講ハ訴權ナキ博戲及ヒ賭事ト同視ス

商品又ハ公ノ證券ノ投機ノ定期賣買ニ付テモ初ヨリ當事者カ諾約シタル金額又ハ有價物
ノ引渡及ヒ辨濟ヲ實行スルニ意ナク單ニ相場昂低ノ差額ヲ計算スルノミヲ目的トシタル
コトヲ被告ノ證スルトキモ亦同シ

第六十三條 前二條ノ場合ニ於テ被告ヨリ無効ノ抗辯ヲ申立テサルトキハ判事ハ職權ヲ
以テ其無効ヲ言渡スコトヲ得但契約又ハ請求ニ於テ博戲、富講又ハ相場差額ノ賭事カ債
務ノ原因タルコトヲ明言セシトキニ限ル

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第六十四條 終身年金權ハ動産若クハ不動産ナル元本ノ讓渡ノ報酬又ハ既往若クハ將來
ノ勤勞ノ報酬トシテ有償ニテ之ヲ設定スルコトヲ得

又贈與又ハ遺贈ヲ以テ無償ニテ之ヲ設定スルコトヲ得

又終身年金權ハ有償又ハ無償ニテ讓渡シタル元本ノ上ニ留存シテ之ヲ設定スルコトヲ得
第六十五條 終身年金權ハ對價物ノ供與者ニ非サル人ノ利益ノ爲メ之ヲ要約スルコトヲ

得

此場合ニ於テハ要約者ト諾約者トノ間ニ在テハ有償契約ノ規則ニ從ヒ要約者ト得益者ト
ノ間ニ在テハ贈與ノ規則ニ從フト雖モ贈與ノ方式ニ從フトコトヲ要セス

第六十六條 終身年金權ハ債權者若クハ債務者ノ終身ヲ期シ又ハ第三者ノ終身ヲ期シテ
之ヲ設定スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テ契約カ有償ナルトキハ其成立ニ付キ第三者ノ承諾ヲ必要トス然レトモ
此承諾前ニ辨濟シタル年金ハ之ヲ取戻スコトヲ得ス

第六十七條 終身年金權ハ同時又ハ順次ニ數人ノ債權者ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコ
トヲ得

此場合ニ於テハ財産編第百條ノ用益權ニ關スル期定ヲ適用ス

第六十八條 有償ノ終身年金權ノ契約ハ其設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ合意ノ當

時ニ於テ既ニ死亡シタルトキハ當事者雙方其死亡ヲ知ラスト雖モ無効ナリ
右ノ人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ罹レル疾病ノ爲メ六十日內ニ死亡シタルトキハ其契約ハ
當然之ヲ解除ス

第六十九條 無償ノ終身年金權ハ設定者ニ於テ之ヲ讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ
得サルモノト定ムルコトヲ得

右約款ハ設定證書ニ記入シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
養料トシテ無償ニテ設定シタル終身年金權ハ當然讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ得
サルモノナリ

本條ノ規定ハ贈與者ノ利益ノ爲メ贈與財産ノ上ニ留存シタル終身年金權及ヒ支拂時期ノ
至リタル年金ニ之ヲ適用セス

第七十條 終身年金權ノ讓渡及ヒ差押ノ禁止ハ其一事ノミヲ要約シタルトキト雖モ二事
共ニ存立ス

第二款 終身年金權ノ契約ノ效力

第七十一條 債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人ノ生存中ハ其年金權ノ
年金ヲ支拂フコトヲ要シ且買戻ヲ爲スコトヲ得ス但其買戻ニ付キ特別ノ合意アルトキハ
此限ニ在ラス

第七十二條 年金ハ毎月又ハ此ヨリ長キ時期ニ於テ其支拂ヲ爲スコトキト雖モ債權者

日割ヲ以テ之ヲ取得ス

然レトモ年金ヲ前拂ス可キトキハ債務者ハ既ニ支拂時期ノ始マリタル全一期分ヲ負擔ス
第七十三條 債權者ハ解除ノ權利ヲ留保セサルトキハ年金支拂ノ欠缺ノ爲メ契約ノ解除
ヲ請求スルコトヲ得ス只其債務者ノ財産中ニ於テ年金ヲ受クルニ足ル可キ部分ヲ差押ヘ
之ヲ賣却セシメ其賣却代金ヨリ生スル利息ヲ以テ年金ノ支拂ニ充ツルコトヲ得但他ノ債
權者ノ競取ヲ拒ムコトヲ得ス

終身年金權ヲ無償ニテ設定シ又ハ贈與若クハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタルトキモ亦右ト
同一ニ處辨ス

第七十四條 終身年金權ノ債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ支拂ノ
時期ニ生存セシコトヲ債權者ヨリ生存認證書ヲ以テ證セサルトキハ其年金ノ支拂ヲ拒ム
コトヲ得

此認證書ハ其人ノ現住地ノ受持公證人又ハ身分取扱人之ヲ交付ス

第三款 終身年金權ノ消滅

第七十五條 有償ノ終身年金權ノ債務者カ年金支拂ノ爲メ諾約シタル擔保ヲ供セス又ハ
供シタル擔保ヲ減少スルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得但既ニ取得シタ
ル年金ヲ返還スル責ナシ

贈與又ハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタル終身年金權ノ債權者モ亦右ト同一ノ權利ヲ有ス

右ノ解除ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ確定判決前ニ死亡シタルトキハ之ヲ宣告セス

第七十六條 普通法ニ於テ許シタル銷除及ヒ廢罷ノ原因ハ終身年金權ニ之ヲ適用ス

終身年金權ハ此他尙ホ更改合意上ノ免除混同時効及ヒ要約シタル受戻ニ因リテ消滅ス

然レトモ終身年金權カ第六十九條及ヒ第七十條ニ從ヒ法律又ハ人爲ニ依リテ讓渡ス

コトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サルモノナルトキハ其年金權ハ時効ニ罹ラス

如何ナル場合ニ於テモ年金ハ支拂時期後五今年ニシテ時効ニ罹ル

第七十七條 終身年金權ハ其設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人ノ死亡ニ因リテ消滅ス但

第六十八條ノ規定ヲ妨ケス

然レトモ終身ヲ期セラレタル人カ債務者ノ責ニ歸ス可キ不正ノ原因ニ由リテ死亡シタル

場合ニ於テ其年金權ヲ有償ニテ又ハ贈與若クハ遺贈ノ負擔トシテ設定シタルトキハ其

契約又ハ惠與ハ之ヲ解除ス且債務者ハ既ニ支拂ヒタル年金ヲ取戻サスシテ其取得シタル

財産ヲ返還スルコトヲ要ス

右ト同一ノ死亡ノ場合ニ於テ其年金權ヲ直接ニ贈與シ又ハ遺贈シタルトキハ年金ノ支

拂ハ裁判所カ終身ヲ期セラレタル人ノ生命ノ繼續期ト推測スル期間之ヲ繼續セシム

第八章 消費貸借及ヒ無期年金權

第一節 消費貸借

第七十八條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方ニ移轉シ他ノ一方カ或ル時期後ニ同數量及ヒ同品質ノ物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ

第七十九條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ裁判所ハ當事者ノ意思ヲ推測シ且事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

返還ノ場所ノ定マラサリシトキハ無利息ノ貸借ニ付テハ貸主ノ住所又利息附ノ貸借ニ付テハ借主ノ住所ニ於テ其返還ヲ爲ス

第八十條 不可抗力ニ因リテ借用物ヲ返還スルコト能ハサルトキハ借主ハ其物ノ不可抗力ニ罹リシ日及ヒ場所ノ相場ニ從ヒテ算定シタル其物ノ價額ヲ負擔ス

第八十一條 貸主ニ屬セサル物ノ貸借ハ無効ナリ其貸借カ利息附ニシテ且借主カ善意ナリシトキハ貸主ハ借主ニ對シテ擔保ノ責ニ任ス

然レトモ此貸借ハ左ノ場合ニ於テハ有效ナリ

第一 借主カ善意ニテ借用物ヲ消費シタルトキ

第二 借主カ時効ニ因リ眞所有者ノ回復ノ請求ヲ排却シタルトキ

第三 眞所有者カ貸借ヲ認諾シタルトキ

第八十二條 貸借物ニ借主ノ了知セスシテ貸主ノ了知シタル隠レタル瑕疵アリテ借主爲

メニ損害ヲ受ケタルトキト雖モ貸主ハ無利息ノ貸借ニ付テハ其損害ノ責ニ任セス但貸主

ニ詐欺アリ又ハ加害ノ意思アリタルトキハ此限ニ在ラス

此貸借カ利息附ナルトキハ貸主ノ了知セサリシ隠レタル瑕疵ト雖モ之ヲ了知スルコトヲ得ヘキトキハ其責ニ任ス

此他賣買廢却訴權ニ關スル第九十四條乃至第一百一條ノ規定ハ之ヲ消費貸借ニ適用スルコトヲ得

第八十三條 財産編第四百六十三條乃至第四百六十六條ハ正貨又ハ強制通用ノ紙幣ニテ爲シタル消費貸借ニ之ヲ適用ス

然レトモ貸主カ財産編第四百六十五條ノ許セル金貨若クハ銀貨ヲ以テ指定シタル價額ノ辨濟ヲ受ケ又ハ此等ノ正貨ノ一ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ要約スルニハ同性質ノ正貨又ハ他ノ正貨若クハ紙幣ヲ以テ對當ノ價額ヲ實際ニ貸付スルコトヲ要ス

第八十四條 貸借ヲ金銀塊ニテ爲シタルトキハ借主ハ他ノ商品ノ貸借ノ如ク同一ノ性質、重量及ヒ品格ノ金銀塊ヲ返還スルコトヲ要ス

第八十五條 金錢、日用品又ハ商品ノ借主ハ使用ノ報酬トシテ元本ノ外ニ利息ノ名目ヲ以テ借用物ノ割合ニ應スル金額又ハ有價物ノ辨濟ヲ約スルコトヲ得

第八十六條 利息ハ要約シタルニ非サレハ借主ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス
借主ヨリ利息ヲ辨濟ス可キノ合意アリテ其額ノ定ナキトキハ其割合ハ法律上ノ利息ニ從フ

要約セラレサル利息ヲ法律ノ制限内ニテ任意ニ辨濟シタル借主ハ之ヲ取戻シ又ハ之ヲ元

本ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得ス

第八十七條 合意上ノ利息ハ法律上ノ利息ヲ超ユルコトヲ得但法律ヲ以テ特ニ定メタル合意上ノ利息ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

法律ノ制限ヲ超エテ顯然ニ利息ヲ定メタルトキハ之ヲ法律ノ制限ニ減却シ此制限ヲ超エテ爲シタル辨濟ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當シ又ハ之ヲ取戻スコトヲ得

債權者ガ實際ニ貸付シタル元本ヲ超ユル元本ヲ認メシメ又ハ其他ノ方法ヲ以テ不正當ノ利息ヲ隱秘シタルトキハ債務者ハ其不正當ノ利息ヲ辨濟スルコトヲ要セス若シ辨濟シタルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得

第八十八條 貸主ハ支拂時期ノ至リタル利息ニ付キ異議ヲ爲サスシテ元本ノ全部又ハ一分ヲ受取リタルトキハ其利息ヲ受取リ又ハ之ヲ拋棄シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第八十九條 十個年ヲ超ユル期間ヲ以テ利息附ノ貸借ヲ爲シタルトキハ借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ十個年後ハ常ニ辨濟ヲ爲ス權能ヲ有ス
然レトモ年賦金ヲ以テ利息ノ外尙ホ元本ノ幾分ヲ漸次ニ辨濟ス可キトキハ其取越辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第九十條 第八十六條乃至第八十九條ノ規定ハ消費貸借ヨリ生スル義務ヲ除ク外金錢又ハ定量物ノ義務及ヒ合意上、法律上ノ利息ニ之ヲ適用ス

第二節 無期年金權ノ契約

第百九十一條 貸主ハ元本ノ要求ヲ爲スコトヲ自ラ禁止シ年金ノミヲ受取ルコトヲ要約スルコトヲ得之ヲ無期年金權ノ設定ト謂フ

此禁止ハ明示ナルカ又ハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス

第百九十二條 無期年金ノ債務ヲ負擔スル借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ常ニ其受取リタル元本ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得

然レトモ借主ハ十個年ヲ超エサル或ル時期前ニ辨濟ヲ爲ササルヲ約スルコトヲ得右期間ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ亦十個年ヲ超エルコトヲ得ス若シ之ヲ超ユルトキハ十個年ニ短縮ス

辨濟ハ反對ノ合意アラサルトキハ全部タルコトヲ要ス

債務者ハ六個月前ニ辨濟ヲ爲ス意思ヲ債權者ニ豫告スルコトヲ要ス但當事者ニ於テ他ノ期間ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

債務者ハ自己ノ定メタル時期ニ於テ辨濟ヲ爲ササルトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス然レトモ辨濟ノ強要ヲ受クルコト無シ但更改アリタルトキハ此限ニ在ラス

第百九十三條 債務者ハ財産編第四百五條第一號乃至第三號ニ依リテ尋常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合又ハ合式ノ付滯滞ヲ受ケタル後引續キ二個年間年金ノ辨濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ元本辨濟ノ強要ヲ受ク

此末ノ場合ニ於テ裁判所ハ財産編第四百六條ニ從ヒ債務者ニ恩惠上ノ期限及ヒ分割辨濟ヲ許與スルコトヲ得

第百九十四條 前二條ノ規定ハ不動産讓渡ノ代價若クハ條件トシテ設定シ又ハ無償ニテ設定シタル無期年金權ニ之ヲ適用ス

右孰レノ場合ニ於テモ辨濟ハ當事者ノ評定シタル元本ヲ以テ之ヲ爲シ又元本ノ評定ナキトキハ法律上ノ利息ノ割合ニ從ヒテ計算シタル年金ヲ生ス可キ元本ヲ以テ之ヲ爲ス

日用品ヲ以テ年金ニ充ツルトキハ辨濟ハ特別ノ合意アルニ非サレハ前十個年間ノ其平均代價ニ基キ計算シタル元本ヲ以テ之ヲ爲ス

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質

第百九十五條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ爲メ之ニ動産又ハ不動産ヲ交付シ明示又ハ默示ニテ定メタル時期ノ後他ノ一方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ

此貸借ハ本來無償ナリ

第百九十六條 借主ハ使用ノ物權ヲ取得セズ單ニ貸主及ヒ其相續人ニ對シテ人權ヲ取得ス借主ノ權利ハ其相續人ニ移轉セズ但其相續人カ當事者ノ意思ノ之ニ異ナルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス又其相續人カ他ヨリ同種ノ物ノ使用ヲ得ル爲メ裁判所ヨリ返還猶豫

ノ期限ヲ受クルコトヲ妨ケス

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第九十七條 借主ハ借用物ノ性質又ハ合意ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ且貸借期間ニ非サレハ其物ヲ使用スルコトヲ得ス

借主ハ此他ノ使用又ハ期限後ノ使用ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ勿論又其使用ニ際シ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル滅失又ハ毀損ニ付テモ其實ニ任ス

第九十八條 借主ハ自己ノ物ヲ用非テ借用物ノ滅失又ハ毀損ヲ免カレシムルコトヲ得ヘキトキ又ハ自己ノ物ト借用物トカ同時ニ危険ヲ受クルニ際シ自己ノ物ノミヲ救護シタルトキモ亦意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ノ責ニ任ス

第九十九條 借主ハ借用物保持ノ通常費用ヲ負擔シ貸主ニ對シテ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第二百條 借主ハ合意セシ時期ニ於テ借用物ヲ返還スルコトヲ要ス其時期前ト雖モ許サレタル使用ヲ終リシトキハ亦同シ但第二百二條第二項ノ規定ヲ妨ケス

返還ノ時期ヲ定メス且物ノ使用ヲ繼續ス可キモノナルトキハ裁判所ハ貸主ノ請求ニ因リテ返還ノ爲メ相應ナル時期ヲ定ム

第二百一條 借主カ借用物ノ第三者ニ屬スルコトヲ了知スルトキト雖モ貸主又ハ其代人ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス但第三者カ其返還ニ付キ合式ニ故障ヲ爲シタルトキハ此限ニ在

ラス

此末ノ場合ノ外返還ハ貸主又ハ其代人ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

第二百二條 數人連合シテ同時又ハ交互ニ用ユル爲メ一箇ノ物ヲ借用シタルトキハ各自連帶ニテ上ノ義務ヲ負擔ス

第二百三條 貸主ハ明示又ハ默示ニテ借主ニ許シタル期限前ニ貸付物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ス

然レトモ其物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セサル費用ノ生シタルトキハ貸主ハ裁判所ニ請求シテ期限前ニ一時又ハ永久ノ返還ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四條 貸主ハ借主カ借用物保存ノ爲メ支出シタル必要且急迫ナル費用ヲ之ニ辨償スル責ニ任ス

又貸主ハ貸付物ノ瑕疵ノ爲メニ借主ノ受ケタル損害ニ付テハ第九十二條第一項ノ規定ヲ適用ス

第二百五條 借主ハ前條ニ依リテ自己ノ受ク可キ賠償ヲ得ルマテ借用物ニ付キ留置權ヲ行フコトヲ得

第十章 寄託及ヒ保管

第一節 寄託

第二百六條 寄託ハ一人カ動産ヲ交付シ他ノ一人カ之ヲ看守シ要求次第直チニ原物ヲ返還

民法 財産取得編

スル契約ナリ

寄託ハ本來無償ナリ

寄託ニハ任意ノモノ有リ急迫ノモノ有リ

第一款 任意寄託

第二百七條 任意ノ寄託ハ寄託者カ寄託ノ時日場所及ヒ受寄者ヲ自由ニ選擇スルコトヲ得ル場合ニ於テ成ルモノナリ

第二百八條 寄託ハ所有者ノミナラス尙ホ物ノ看守及ヒ保存ニ付キ利害ノ關係アル人又ハ其代理人之ヲ爲スコトヲ得

又寄託ハ無能力者ノ法律上ノ代人之ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 寄託ハ契約ヲ爲ス完全ノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス然レトモ無能力者ハ猶ホ自己ノ手ニ存スル寄託物ノ返還又ハ寄託ニ因リテ得タル利益ノ返還ニ付キ民事上其責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

第二百十條 受寄者ハ受寄物ノ看守及ヒ保存ニ付テハ自己ノ財産ニ加フルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

然レトモ受寄者カ自ラ求メテ寄託ヲ受ケ又ハ單ニ自己ノ利益ヲ目的トシ要用ニ從ヒ受寄物ヲ使用スルノ許諾ヲ得テ寄託ヲ受ケタルトキハ受寄者ハ善良ナル管理人ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス但此末ノ場合ニ於テ受寄者カ其物ヲ使用シタルトキハ第九十八條ノ規定ヲ適

用ス

第二百十一條 受寄物返還ノ遲滯ニ付セラレタル受寄者ハ普通法ニ從ヒ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル滅失ノ責ニ任ス

第二百十二條 寄託者カ受寄者ニ寄託物ノ性質ヲ隱秘シタルトキハ受寄者之ヲ知ラント探求スルコトヲ得ス又其性質ヲ受寄者ノミニ知ラシメタル場合ニ於テモ受寄者之ヲ他人ニ漏泄スルコトヲ得ス若シ之ヲ漏泄シタル爲メ損害アルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第二百十三條 受寄者ハ受寄物ヲ使用シ又ハ其果實ヲ消費スルコトヲ得ス但此カ爲メ寄託者ノ明示又ハ黙示ノ許諾アリタルトキハ此限ニ在ラス

此許諾ハ寄託ニ使用貸借ノ性質ヲ與フルニ足ラス
第二百十四條 受寄者ハ其收取シタル果實及ヒ產出物ト又之ヲ金錢ニ換ヘサルヲ得サリシトキハ其代金ト共ニ原物ヲ返還スルコトヲ要ス但前條ノ規定ヲ妨ケス

受寄者カ受寄物ニ付キ或ル償金又ハ或ル權利若クハ利益ヲ取得シタルトキハ之ヲ寄託者ニ移轉スルコトヲ要ス

又受寄者カ故意ニテ受寄物ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱匿シタルトキハ遲滯ニ付セラル、コト無クシテ當然損害賠償ノ責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

第二百十五條 受寄者ノ相續人カ受寄物ナルコトヲ知ラスシテ其物ヲ消費シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ其相續人ハ此ニ因リテ得タル利益ノ額ニ滿ツルマテ賠償ノ責ニ任ス

右ノ規定ハ遺忘又ハ錯誤ニ因リ自己ノ物トシテ受寄物ヲ處分シタル受寄者ニ之ヲ適用ス
第二百十六條 寄託物ノ返還ハ寄託者又ハ其法律上若クハ合意上ノ代人ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十七條 返還ニ付キ場所ヲ定メサリシトキハ受寄者カ受寄物ヲ移置シタルモ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還ス但寄託者ヲ詐害スル意思アルトキハ此限ニ在ラス

第二百十八條 寄託者ノ要求次第物ヲ返還ス可キ受寄者ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 受寄者カ其物ノ自己ニ屬スルコトヲ證スルコトヲ得ルトキ

第二 受寄者カ次條ニ從ヒテ留置權ヲ行フコトヲ得ルトキ

第三 受寄者カ拂渡差押ノ合式ノ告知ヲ受ケタルトキ

第四 受寄者カ受寄物ノ盜品ナルコトヲ覺知シ且其所有者ヲ知りタルトキ但此場合ニ於テ受寄者ハ所有者ニ其寄託ヲ受ケタルコトヲ通知シ且指定セル相應ノ期間ニ寄託者ト立會ノ上ニテ其物ヲ要求ス可ク若シ此期間ヲ過クルモ立會ハサルトキハ寄託者ニ返還ヲ爲ス可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第二百十九條 寄託者ハ寄託物ノ保存ノ爲メ受寄者ノ支出シタル必要ノ費用ト其物ノ爲メニ受寄者ノ受ケタル損害トヲ賠償スルコトヲ要ス

右賠償ノ皆濟ヲ受クルマテ受寄者ハ受寄物ノ上ニ留置權ヲ行フコトヲ得

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二百二十條 寄託者カ火災、洪水、難船、地震又ハ暴動ノ如キ不測ニシテ且不可抗ノ事變ニ因リ止ムヲ得ス寄託ヲ爲ストキハ之ヲ急迫ノ寄託ト謂フ

急迫ノ寄託ハ諸般ノ方法ニ依リ又ハ事情ヨリ生スル事實ノ推定ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ得

此他急迫寄託ハ任意寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十一條 旅店及ヒ下宿屋ノ主人ハ其止宿セシムル旅人ノ携帶シタル手荷物ノ受託ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

舟車運送人其他水陸運送ノ營業人モ亦其運送ヲ任セラレタル荷物ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

然レトモ本條ノ受寄者ハ有價合意ヨリ生スル通常ノ義務ヲ負擔ス

第二節 保管

第二百二十二條 保管トハ數人ノ間ニ於テ爭論ノ目的タル物ヲ第三者ニ寄託スルヲ謂フ

保管ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルコトヲ得

保管ニハ合意上ノモノ有リ裁判上ノモノ有リ

第二百二十三條 合意上ノ保管ハ其保管ニ付テモ保管人ノ選定ニ付テモ當事者ノ承諾アルコトヲ要ス

裁判上ノ保管人ハ當事者カ其選定ニ付キ一致セサルトキニ非サレハ裁判所ハ職權ヲ以テ

之ヲ選定スルコトヲ得ス

裁判所ハ當事者ノ一人ヲ保管人ニ選任スルコトヲ得

第二百二十四條 合意上ト裁判上トヲ問ハス保管人ハ報酬ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テ

保管人ハ善良ナル管理人ノ通常ノ注意ヲ保管物ニ加フル責ニ任ス

第二百二十五條 裁判上ノ保管人ハ財産編第百十九條ニ從ヒテ保管物ヲ質貸スルコトヲ得

然レトモ合意上ノ保管人ハ當事者ノ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ質貸スルコトヲ得ス

裁判上又ハ合意上ノ保管人ハ其占有ヲ保持シ又ハ之ヲ回收スル爲メ占有訴權ヲ行フコト

ヲ得

保管人ノ占有ハ争訟ニ於テ確定ニ勝ヲ得タル當事者ヲ利ス

第二百二十六條 保管ニ付シタル物ハ勝ヲ得タル當事者ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス

然レトモ保管人ハ自己ノ責任ヲ免カルル爲メ當事者ノ許諾又ハ裁判所ノ命令ヲ求ムルコ

トヲ得

第二百二十七條 右ノ外合意上及ヒ裁判上ノ保管ハ尋常ノ寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十八條 差押物ニ於ケル裁判上ノ保管及ヒ債務者カ辨濟ニ提供シテ債權者ノ受取

ルコトヲ拒ミタル金錢若クハ有價物ノ供託ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二百二十九條 代理ハ當事者ノ一方カ其名ヲ以テ其利益ノ爲メ或ル事ヲ行フコトヲ他ノ一方ニ委任スル契約ナリ

代理人カ委任者ノ利益ノ爲メニスルモ自己ノ名ヲ以テ事ヲ行フトキハ其契約ハ仲買契約ナリ

仲買契約ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百三十條 代理ハ默示ニテ之ヲ委任シ及ヒ之ヲ受諾スルコトヲ得

第二百三十一條 代理ハ無償ナリ但反對ノ明示又ハ默示ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十二條 代理ニハ總理ノモノ有リ部理ノモノ有リ

總理代理ハ爲ス可キ行爲ノ限定ナキ代理ニシテ委任者ノ資産ノ管理ノ行爲ノミヲ包含ス

代理カ或ハ管理或ハ處分或ハ義務ニ關シテ一箇又ハ數箇ノ限定セル行爲ヲ目的トスルト

キハ其代理ハ部理ナリ

第二百三十三條 凡ソ代理ハ總理ナルト部理ナルトヲ問ハス其目的タル行爲ヨリ必然ニ生

ス可キ事柄ヲ暗ニ包含ス

然レトモ元本ヲ諾約スル委任ハ其辨濟ヲ爲ス委任ヲ包含セス

元本ヲ要約スル委任ハ其辨濟ヲ受クル委任ヲ包含セス

訴訟ヲ爲ス委任ハ仲裁人ヲ選任シ請求ニ承服シ訴訟ヲ取下ケ又ハ和解ヲ爲ス委任ヲ包含

セス

和解ヲ爲ス委任ハ仲裁人又ハ裁判所ヲシテ爭論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含セス
仲裁人ヲ選任スル委任ハ和解ヲ爲シ又ハ裁判所ヲシテ其爭論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含
セス

第二百二十四條 代理ハ無能力者ニモ有效ニ之ヲ委任スルコトヲ得然レトモ其代理人ハ委
任者ニ對シテハ無能力者ノ制限アル責任ノミヲ負擔ス

第二百二十五條 代理人ハ其管理行爲ノ全部又ハ一分ニ付キ他人ヲシテ自己ニ代ハラシム
ルコトヲ得但此ヲ明示ニテ禁止セサルトキ又ハ事件ノ性質ニ因リテ專ラ代理人ノミニ委
任シタリト看做ス可カラサルトキニ限ル此場合ニ於テ代理人ハ自己ノ管理ニ於ケル如ク
其復代人ノ管理ノ責ニ任ス

委任者カ復代人ヲ指定シタルトキハ代理人ハ其指定ニ從フコト能ハサル場合ニ於テモ他
人ヲ選任スルコトヲ得ス代理人カ其指定ニ從ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ代理人ハ其
復代人ノ無能又ハ不誠實ニ付キ委任者ニ之ヲ告知スルコトヲ怠リ又ハ復代人ヲ解任スル
コトヲ怠リタルニ非サレハ其實ニ任セス

委任者ノ禁止シタルニ拘ハラス復代人ヲ選任シ又ハ其許諾セサル人ヲ選任シタル場合ニ
於テハ代理人ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル損害ニ付テモ其實ニ任ス但此復代
人ノ選任ヲ爲ササレハ其損害ノ生セサル可カリシトキニ限ル

第二百三十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ委任者ハ復代人ニ對シ其管理ニ關ス

ル訴權ヲ直接ニ行フコトヲ得又之ニ對シ直接ニ責任ヲ負擔ス

同條第三項ノ場合ニ於テ委任者ハ直接訴權ト代理人ノ名ヲ以テスル間接訴權トノ間ニ選
擇權ヲ有ス然レトモ直接訴權ヲ行ヒタルトキハ其復代人ノ選任ヲ認諾シタルモノト看做
ス

第二節 代理人ノ義務

第二百二十七條 代理ノ終了セサル間ハ代理人ハ委任ノ本旨ニ從ヒ且明示ナキモ自己ノ了
知シタル委任者ノ意思ヲ斟酌シテ委任事件ヲ成就スル責ニ任ス此ニ違フトキハ損害賠償
ヲ負擔ス

全部ノ履行ヲ爲スヲ得サルトキハ委任者ニ有益ナルニ非サレハ代理人ハ一分ノ履行ヲ爲
ス責ナク且之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十八條 指定ノ代價ニテ物ヲ買入ルル委任ヲ受ケタル代理人カ其指定ヲ超ユル代
價ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ得ル能ハサリシトキハ代理人ハ其超過額ヲ拋棄シテ買入ノ
認諾ヲ委任者ニ要求スルコトヲ得又委任者ハ代理人ノ辨濟シタル代價ヲ以テ物ノ引渡ヲ
要求スルコトヲ得

物ヲ賣却スル委任ヲ受ケタル場合ニ於テ代理人カ指定ノ代價以下ニテ之ヲ賣却シタルト
キハ代理人ハ代價ノ差額ヲ補足シテ其賣却ヲ認諾セシムルコトヲ得

第二百二十九條 代理人ハ委任事件ヲ成就セシムルコトニ付テハ善良ナル管理人タルノ注

意ヲ爲ス責ニ任ス

然レトモ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ過失ハ較ヤ寛大ニ之ヲ査定ス

第一 代理人カ無償ニテ代理ヲ爲ストキ

第二 代理人カ自ラ求メテ代理ヲ爲シタルニ非サルトキ

第三 委任者カ代理人ノ不熟練ナルコトヲ了知シ又ハ之ヲ推量シタルトキ

第四 代理人カ管理ノ或ル行爲ニ付キ委任者ヲシテ其豫期セサリシ利益ヲ得セシメタルトキ

ルトキ

第二百四十條 代理人ハ代理ノ終了シタルトキハ證據書類ヲ添ヘテ其計算ヲ爲ス責ニ任ス

其終了前ト雖モ委任者ノ之ヲ求メタルトキハ亦同シ

第二百四十一條 代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ又ハ管理ニ關シ自己ノ名ヲ以テ受取リタル金額若クハ有價物ヲ委任者ニ返還スルコトヲ要ス又委任者カ正當ニ受取ルコトヲ得ス又ハ

代理人ニ受取ルコトヲ託セサリシ金額若クハ有價物ト雖モ之ヲ受取リタルトキハ亦同シ

然レトモ次節ニ從ヒテ委任者ヨリ受取ル可キ金額ヲ控除ス

代理人ハ自己ノ收取スルコトヲ怠リ又ハ自己ノ過失ニ因リテ減失セシメタル金額若クハ

有價物ノ價額ヲ前數條ニ依リテ負擔スル損害賠償ト共ニ前項ノ返還中ニ附加ス

第二百四十二條 委任者ノ許諾ヲ受ケスシテ其元本ヲ自己ノ利益ニ用非タル代理人ハ其使

用ノ日ヨリ當然利息ヲ負擔ス其他損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

計算殘餘ノ金額ニ付テハ代理人ハ其遲滞ニ付セラレタル日ヨリ利息ヲ負擔ス

第二百四十三條 一箇ノ事件ニ付キ數人ノ代理人アルトキハ唯一ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シ

タルト各別ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルトヲ問ハス各代理人ハ自己ノ過失ニ付テノミ其

實ニ任シ連帶ヲ要約シタルトキ又ハ過失ノ連合ナルトキニ非サレハ其間ニ連帶ヲ成サス

第二百四十四條 代理人カ委任者ノ爲メ委任者ノ名ヲ以テ第三者ト爲シタル行爲ノ履行ニ

付テハ代理人ハ其第三者ニ對シテ責ニ任セス但代理人カ明示ニテ履行ノ責ニ任シ又ハ第

三者ニ對シテ已レノ有セサル權限ヲ有スルモノノ如ク示シタルトキハ此限ニ在ラス

第三節 委任者ノ義務

第二百四十五條 委任者ハ代理人ニ對シテ左ノ義務ヲ負擔ス

第一 代理人カ代理ノ履行ノ爲メ支出シタル立替金又ハ正當ノ費用ノ辨償及ヒ其支出シタル日以來ノ法律上ノ利息ノ辨償

第二 合意シタル謝金ノ辨償

第三 代理人カ其管理ニ因リ又ハ其管理ヲ爲スニ際シ自己ノ過失ニ非スシテ受ケタル損害ノ賠償但豫見シタル損害ニシテ其全部又ハ一分ニ付キ特ニ謝金ヲ諾約スル理由

ト爲リタルモノハ此限ニ在ラス

第四 代理人カ其管理ニ因リテ負擔シタル一身上ノ義務ノ解脫又ハ其賠償

第二百四十六條 代理人ハ前條ニ掲ケタル支出ヲ爲スコトヲ約セサルトキハ其實ニ任セス

民法 財産取得編

然レトモ委任者ヨリ必要ナル資金ヲ供スルコトヲ拒絕シ又ハ遲延セシコトノ證據ナキニ於テハ支出ヲ約セサル爲メ代理ノ履行ヲ遲延スルコトヲ得ス

第二百四十七條 謝金ハ代理ノ全部履行アリタル後ニ非サレハ委任者之ヲ負擔セス但一分ツツ辨濟ス可キコトヲ諾約シタルトキハ此限ニ在ラス

代理人ノ責ニ歸セサル原因ニ由リテ全部ノ履行ニ妨碍アリタルトキハ謝金ハ其履行ノ割合ニ應シテ委任者之ヲ負擔ス

第二百四十八條 委任者カ義務ヲ辨濟スルニ至ルマテ代理人ハ代理ニ依リテ所持シ且債權者ト爲レル原因タル物ノ上ニ留置權ヲ有ス

第二百四十九條 數人カ唯一ノ證書又ハ各別ノ證書ヲ以テ共同事件ノ爲メ代理ヲ委任シタルトキハ委任者ノ各自ハ連帶シテ上ノ義務ヲ負擔ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

第二百五十條 委任者ハ代理人カ委任ニ從ヒ委任者ノ名ニテ約束セシ第三者ニ對シテ負擔シタル義務ノ實ニ任ス

委任者ハ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ權限外ニ爲シタル事柄ニ付テモ亦其實ニ任ス

第一 委任者カ明示又ハ默示ニテ代理人ノ行爲ヲ認諾シタルトキ

第二 委任者カ代理人ノ行爲ニ因リテ利益ヲ得タルトキ但其利益ノ限度ニ從フ

第三 第三者カ善意ニシテ且代理人ニ權限アリト信スル正當ノ理由ヲ有シタルトキ

第四節 代理ノ終了

第二百五十一條 代理ノ履行又ハ其履行ノ不能及ヒ代理ニ付シタル期限ノ到來又ハ條件ノ成就ノ外尙ホ代理ハ左ノ諸件ニ因リテ終了ス

第一 委任者ノ爲シタル廢罷

第二 代理人ノ爲シタル拋棄

第三 委任者又ハ代理人ノ死亡破産無資力若クハ禁治産

第四 委任者カ代理ヲ委任シ又ハ代理人カ之ヲ受諾セシ原因タル資格ノ絶止

第二百五十二條 委任者ノミノ利益ノ爲メニ委任セシ代理ノ廢罷ハ謝金ヲ諾約シタルトキト雖モ委任者ハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十三條 廢罷ハ將來ニ向ヒテノミ有效ナリ且其廢罷前ニ有效ニ爲シタル事柄ヲ害セス

第二百五十四條 數人ノ委任者アルトキハ其中ノ一人ノ爲シタル廢罷ハ他ノ人ノ代理ヲ終了セシメス

第二百五十五條 代理ノ廢罷ハ默示タルコトヲ得默示ノ廢罷ハ同一ノ事件ニ付キ新代理人ノ選任又ハ委任者ノ管理ノ回復其他ノ事情ヨリ生スルモノナリ

第二百五十六條 代理ノ拋棄カ委任者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ代理人ハ其賠償ノ責ニ任ス但正當又ハ已ムヲ得サル原因ニ基キタルトキハ此限ニ在ラス

代理ノ拋棄モ亦默示ニテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十七條 代理終了ノ原因ハ委任者ヨリ出テタルト代理人ヨリ出テタルトヲ問ハス當事者カ其告知ヲ受ケタルカ又ハ確實ニ之ヲ知リタルトキニ非サレハ當事者互ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

當事者ノ一方ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人ヨリ告知スルコトヲ要ス

第二百五十八條 委任者カ代理人ヨリ委任狀ヲ取戻シタルトキト雖モ懈怠ナシニ代理ノ終了ヲ知ラスシテ代理人ト約束シタル第三者ニハ代理終了ノ原因ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二百五十九條 代理カ上ニ掲ケタル原因ノ一ニ由リテ終了セシトキハ代理人又ハ其相續人ハ委任者又ハ其相續人カ既ニ生シタル利益ヲ自ラ處理シ又ハ新代理人ヲシテ之ヲ處理セシムルコトヲ得ルニ至ルマテ其利益ヲ處理スルコトヲ要ス

此規定ハ代理ノ終了カ代理人ノ拋棄ニ因レルトキハ委任者ノ廢罷ニ因レルトキヨリモ一層嚴ニ之ヲ適用ス

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約

第一節 雇傭契約

第二百六十條 使用人、番頭、手代、職工其他ノ雇傭人ハ年、月、又ハ日ヲ以テ定メタル給料又ハ賃銀ヲ受ケテ勞務ニ服スルコトヲ得

雇傭ハ地方ノ慣習ニ因リ定マリタル時期ニ於テ又ハ確定ノ慣習ナキトキハ何時ニテモ一方ヨリ豫メ解約申入ヲ爲スニ因リテ終了ス但其解約申入ハ不利ノ時期ニ於テ之ヲ爲サス又惡意ニ出テサルコトヲ要ス

第二百六十一條 雇傭ノ期間ハ使用人、番頭、手代ニ付テハ五ヶ年職工其他ノ雇傭人ニ付テハ一ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス但習業契約ニ關スル下ノ規定ヲ妨ケス

此ヨリ長キ時期ヲ約シタルニ於テハ當事者ノ一方ノ隨意ニテ右ノ時期ニ之ヲ短縮ス但更新ヲ爲ス權能ヲ妨ケス

第二百六十二條 雇傭ハ時期ヲ定メタルトキト雖モ當事者ノ一方ノ義務不履行ニ因ル解除ノ爲メ又ハ一方ヨリ出テタル正當ニシテ且已ムヲ得サル原因ノ爲メ其定期前ニ於テ終了ス

如何ナル場合ニ於テモ主人ノ一身ニ關スル雇傭ハ其死亡ノ爲メ當然終了ス

第二百六十三條 雇傭ヲ終了セシムル正當ノ原因カ主人ヨリ出テ且地方ノ慣習ニ從ヒ雇傭ノ新契約ヲ爲スニ困難ナル季節ニ生シタルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ定ムル償金ヲ雇傭人ニ付與セシムルコトヲ得

第二百六十四條 如何ナル場合ニ於テモ雇傭人ノ死亡ハ契約ヲ終了セシム但其相續人ハ給料又ハ賃銀ノ取越額ヲ返還ス

第二百六十五條 上ノ規定ハ角力、俳優、音曲師其他ノ藝人ト座元興行者トノ間ニ取結ヒタ

ル雇傭契約ニ之ヲ適用ス

第二百六十六條 醫師、辯護士及ヒ學藝教師ハ雇傭人ト爲ラス此等ノ者ハ其患者、訴訟人又ハ生徒ニ諾約シタル世話ヲ與ヘ又ハ與ヘ始メタル世話ヲ繼續スルコトニ付キ法定ノ義務ナシ又患者、訴訟人又ハ生徒ハ此等ノ者ノ世話ヲ求メテ諾約ヲ得タル後其世話ヲ受クル責ニ任セス

然レトモ實際世話ヲ與ヘタルトキハ相互ノ分限ト慣習及ヒ合意トヲ酌量シテ其謝金又ハ報酬ヲ裁判上ニテ要求スルコトヲ得
此等ノ者ノ世話ヲ受クルコトヲ諾約シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒絕シタル者ハ其拒絕ヨリ此等ノ者ニ金錢上ノ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス之ニ反シテ世話ヲ與フルコトヲ諾約シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ拒絕シタル者ハ因リテ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第二節 習業契約

第二百六十七條 工業人、工匠又ハ商人ハ習業契約ヲ以テ習業者ニ自己ノ職業上ノ知識ト實驗トヲ傳授シ習業者ハ其人ノ勞務ニ助力スルヲ約スルコトヲ得

未成年者ハ其父、後見人其他自己ニ對シテ權力ヲ有スル人ノ保佐又ハ名代ニ依ルニ非サレハ習業契約ヲ取結フコトヲ得ス

第二百六十八條 合式ニ保佐ヲ受クル未成年者又ハ其代人ノ取結ヒタル習業契約ハ其未成

年ノ時期ヲ超ユルコトヲ得ス但習業者ガ成年ニ達シタル後其契約ヲ更新シ又ハ之ヲ伸長スルコトヲ妨ケス

第二百六十九條 習業契約ハ當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣狹ヲ定ム
習業契約ノ不備ハ師匠又ハ親方ノ其職業ヲ行フ地方ノ慣習ニ從ヒテ之ヲ補完スルコトヲ得

第二百七十條 師匠又ハ親方ハ習業者ニ衣食及ヒ職業ノ器具ヲ與ヘ且日常ノ使用ヲ足ラシムルコトヲ要ス但反對ノ合意ナク且地方ノ慣習ノ此ニ異ナラサルトキニ限ル
師匠又ハ親方ハ習業者ニ其習業契約ノ目的タル職業ヲ學フコトヲ得セシムル爲メ必要ナル時間ヲ與ヘ世話ヲ爲シ及ヒ諸般ノ便利ヲ圖ルコトヲ要ス

未成年ノ習業者カ未タ算筆ヲ知ラサルトキハ師匠又ハ親方ハ何等ノ反對ノ合意アルモ習業者ニ算筆修習ノ爲メ休憩時間外ニ於テ毎日少ナクトモ一時間ヲ與フルコトヲ要ス

第二百七十一條 習業者ハ其習ハント欲スル職業ニ關シ日日ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供スルコトヲ要ス

第二百七十二條 習業者カ自己又ハ其親屬ノ疾病其他不可抗ノ原因ニ由リテ一个月以上引續キ勞務ヲ供スルコト能ハサルトキハ習業者ハ其成年ニ達シタル後ト雖モ習業契約ノ期限滿了後ニ於テ前契約ニ同シキ相互ノ條件ヲ以テ休業シタル時間ヲ補足スルコトヲ要ス

第二百七十三條 習業契約ハ左ノ諸件ニ因リテ當然終了ス

- 第一 師匠、親方又ハ習業者ノ死亡
 - 第二 師匠、親方又ハ習業者ノ陸海軍ノ現役
 - 第三 師匠、親方又ハ習業者ノ重罪又ハ三ヶ月ヲ超ユル禁錮ノ處刑
 - 第四 合意又ハ法律ヲ以テ定メタル期間ノ滿了
- 第二百七十四條 左ノ原因アルトキハ解除ノ利益ヲ得ル一方ノ當事者ノ請求ニ因リ裁判所ハ契約ノ解除ヲ宣告スルコトヲ得

- 第一 相互ノ義務ノ不履行但不可抗ノ原因ニ由ルトキモ亦同シ
 - 第二 習業者ニ對スル師匠又ハ親方ノ苛酷ナル取扱
 - 第三 習業者ノ平常ノ不品行
 - 第四 前條ニ掲ケタル場合ノ外師匠、親方又ハ習業者ノ犯罪
 - 第五 契約ヲ履行ス可キ土地外ニ師匠又ハ親方ノ轉居
- 本條ニ依リテ解除ノ宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方ハ自己ニ過失アルトキハ他ノ一方ニ對シテ尙ホ其損害ヲ賠償ス可キノ言渡ヲ受ク前條ニ掲ケタル處刑言渡ノ場合ニ於テモ亦同シ

第三節 仕事請負契約

第二百七十五條 工技又ハ勞力ヲ以テスル或ル仕事ヲ其全部又ハ一分ニ付キ豫定代價ニテ

爲スノ合意ハ注文者ヨリ主タル材料ヲ供スルトキハ仕事ノ請負ナリ若シ請負人ヨリ主タル材料ト仕事トヲ供スルトキハ仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買ナリ

第二百七十六條 前條ニ掲ケタル二箇ノ場合ニ於テ物ノ全部又ハ一分ニ付キ既ニ仕事ヲ爲シタル後ニ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ其物ノ滅失セシトキハ材料ノ滅失ハ其材料ノ屬スル者之ヲ負擔シ請負人ハ仕事賃ヲ損失ス
當事者ノ一方カ其所爲ニ因リテ滅失ヲ來タシタルカ又ハ引渡若クハ受取ニ付キ遲滞ニ在ルトキハ其一方ノミ材料及ヒ仕事賃ニ付キ其滅失ヲ負擔ス但損害アルトキハ其賠償ノ實ニ任ス

請負人ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ一分ノ滅失又ハ單一ナル毀損カ物ニ其價額ノ半以上ヲ失ハシムルトキハ之ヲ全部ノ滅失ト同視ス又其減價カ半以下ニ在ルトキハ財産編第百四十六條第四百十九條第二項及ヒ第四百二十條ノ規定ヲ適用ス
注文者ヨリ材料ヲ供シタルトキハ注文者ハ滅失又ハ毀損ノ後存在スル材料ノ部分ノ増價シタル限度ニ從ヒテ仕事賃ヲ辨濟スル責ニ任ス

第二百七十七條 注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テハ仕事完成ノ後ニ非サレハ引渡ヲ實行セサル可キトキト雖モ一分宛仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ルヲ合意スルコトヲ得
此場合ニ於テ注文者カ既成ノ仕事ヲ調査シテ受取リタルトキ又ハ之ヲ調査スルコトノ遲滞ニ在ルトキハ請負人ハ既成ノ仕事ニ付キ其危險ノ責ヲ免カル

仕事中ニ注文者ヨリ前金又ハ内金ヲ供シタルモ此ヲ以テ既成ノ仕事ヲ受取リタリト看做サス然レトモ物カ注文者ノ明白ナル受取又ハ其付遅滞ノ以前ニ減失シタルトキハ注文者ハ既成ノ仕事ヲ超ユル部分ニ非サレハ前金又ハ内金ヲ取戻スコトヲ得ス

第二百七十八條 注文者カ異議ヲ留メスシテ工作物ヲ受取リタルモ後日其物ノ使用ニ不適當ナル隠レタル瑕疵ヲ發見スルトキハ注文者ハ其受取ヲ取消シテ代價ノ減殺又ハ其一分ノ返還ヲ請求スル權利ヲ失ハス

此權利ニ基キタル訴權ハ注文者ニ屬スル動産又ハ不動産ノ上ニ施シタル仕事ニ付テハ全部ノ工作物ヲ受取リタル後ノ三ヶ月ニテ消滅ス

職工ヨリ材料ヲ供シタル製作物ニ付テハ第九十九條ノ規定ヲ適用ス

第二百七十九條 建物、牆壁其他地上ニ於ケル大ナル工作物ヲ請負ニテ築造シタルトキハ請負人ハ築造ノ瑕疵又ハ地盤ノ瑕疵ヨリ生シタル其工作物ノ全部若クハ一分ノ減失又ハ重大ナル損壞ノ實ニ任ス但請負人カ他人ノ土地ニ築造シタルト自己ノ土地ニ築造シタルト材料ヲ供シタルト否トヲ區別セス

右責任ハ左ノ時期ノ間繼續ス

第一 牆壁其他土工ニ付テハ其受取後二個年

第二 木造ノ建物ニ付テハ三個年

第三 石又ハ煉瓦ノ建物及ヒ土藏ニ付テハ十個年

第二百八十條 右ノ責任ニ基キタル賠償訴權ハ左ノ時期ヲ以テ時効ニ罹ル

第一 物ノ全部ノ減失ノ場合ニ於テハ其減失ノ時ヨリ一個年

第二 物ノ一分ノ減失又ハ重大ノ毀損ノ場合ニ於テハ請負人ノ實ニ任ス可キ期間ノ満了ノ時ヨリ六個月

第二百八十一條 經畫ノ變更ヨリ代價ノ増減ヲ生ス可キモ書面ヲ以テ之ヲ定メサルトキハ其變更ヲ口實トシテ請負人ハ原代價ノ増加ヲ請求シ注文者ハ其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

請負中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ爲シ又ハ請負中ノ區分アル建築ヲ廢セシトキハ此規定ヲ適用セス此場合ニ於テ當事者ノ間ニ一致ヲ得サルトキハ裁判所原代價ノ増減ヲ定ム

請負人ハ經畫又ハ其變更カ注文者ノ指圖ニ出テタルコトヲ口實トシテ第二百七十九條ニ定メタル責任ヲ免カルルコトヲ得ス但請負人カ書面ヲ以テ此責任ヲ免カルルコトヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十二條 請負人カ仕事ノミヲ供スルト材料ヲ併セ供スルトヲ問ハス注文者ハ常ニ自己ノ意思ノミヲ以テ契約ヲ解除スルコトヲ得然レトモ注文者ハ請負人ノ既成ノ仕事ノ賃銀及ヒ準備ノ材料ニ受ケタル損失其他ノ損害ヲ賠償シ且其契約ニ因リテ得ヘキ正當ナル利益ノ全部ヲ辨濟スル義務ヲ負擔ス

第二百八十三條 他人ノ材料ヲ以テ仕事ノ全部ニ供シタルト一分ニ供シタルト又其仕事ヲ實行シタルト契約ヲ解除シタルト問ハス請負人ハ仕事ノ爲メ又ハ解除ノ賠償ノ爲メ自己ノ受ク可キ金額ノ皆濟ニ至ルマテ其材料ヲ留置スルコトヲ得但此留置權ハ動産物ノミニ之ヲ適用ス

第二百八十四條 注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ主眼トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ其契約ハ請負人ノ死亡又ハ其仕事ノ不能ニ因リテ之ヲ解除スルコトヲ得

右二箇ノ場合ニ於テ注文者ハ自己ノ期望セシ目途ニ付キ利シタル仕事又ハ材料ノ價額ノミヲ請負人又ハ其相續人ニ辨濟スル實ニ任ス

第二百八十五條 仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト請負人トノ關係ニ付テハ上ノ規定ニ從フ

請負人カ下請負人ニ對シ負擔スル金額ヲ辨濟セサルトキハ下請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ注文者ニ對シ其注文者ノ猶ホ請負人ニ辨濟ス可キ債務ノ限度ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

職工モ亦已レヲ雇ヒタル者カ賃銀ヲ辨濟セサルトキハ注文者ニ對シテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

第十三章 相續

總則

第二百八十六條 相續ニ二種アリ家督相續及ヒ遺産相續是ナリ

第一節 家督相續

第二百八十七條 家督相續トハ戸主ノ死亡又ハ隱居ニ因ル相續ヲ謂フ

第一款 家督相續ノ通則

第二百八十八條 家督相續ヲ爲スハ一家一人ニ限ル

何人ト雖モ二家以上ノ家督相續ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リ他家ニ入りテ其家ニ在ル者ハ實家其他ノ家ノ家督相續ヲ爲スコトヲ得ス

第二百九十條 一人ニシテ數家ノ家督相續人ニ指定セラレ又ハ選定セラレタル者ハ其中ノ一ヲ選擇スルコトヲ得

第二百九十一條 推定家督相續人ハ他家ノ家督相續人ニ指定セラレ又ハ選定セラレタル者ハ其指定又ハ選定ハ無効トス

第二百九十二條 被相續人ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者ハ相續ヨリ除斥セラル但過失ニ因ルモノハ此限ニ在ラス

民注 財産取得編

第二百九十三條 相續除斥ノ訴權ハ被相續人ノ明示ノ宥免ニ因リテ消滅ス

第二百九十四條 家督相續人ハ姓氏系統貴號及ヒ一切ノ財産ヲ相續シテ戸主ト爲ル
系譜世襲財産祭具墓地商號及ヒ商標ハ家督相續ノ特權ヲ組成ス

第二款 家督相續人ノ順位

第二百九十五條 法律ニ於テ家督相續人ト爲ル可キ者ノ順位ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 被相續人ノ家族タル身屬親中親等ノ最モ近キ者

第二 身屬親中同親等ノ男子ト女子ト有ルトキハ男子

第三 男子數人アルトキハ其先ニ生マレタル者但嫡出子ト庶子又ハ私生子ト有ルトキハ嫡出子

ハ嫡出子

第四 女子ノミ數人アルトキハ其先ニ生マレタル者但嫡出子ト庶子又ハ私生子ト有ルトキハ嫡出子

トキハ嫡出子

然レトモ右ノ規定ニ從ヒテ家督相續人タル可キ者カ被相續人ニ先タチテ死亡シ又ハ第二百九十七條ニ掲ケタル原因ニ由リテ廢除セラレタル場合ニ於テ其者ニ身屬親アルトキハ其身屬親ハ法定ノ順位ニ依リテ家督相續人ト爲ル

第二百九十六條 被相續人ハ正當ノ原因アルニ非サレハ法定ノ推定家督相續人ヲ廢除スルコトヲ得ス

第二百九十七條 法定ノ推定家督相續人ヲ廢除スルコトヲ得ヘキ正當ノ原因ハ左ノ如シ

第一 失踪ノ宣言

第二 民事上禁治産及ヒ准禁治産

第三 重禁錮一年以上ノ處刑

第四 家政ヲ執ルニ堪ヘサル不治ノ疾病

第五 祖父母父母ニ對スル罪ノ處刑

第六 重罪ニ因レル處刑

第二百九十八條 推定家督相續人ノ廢除ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ身分取扱吏ニ申述シテ之ヲ爲スコトヲ得

申述ニ基ク家督相續人ノ廢除ハ被相續人之ヲ取消スコトヲ得

廢除ノ取消ハ身分取扱吏ニ申述シテ之ヲ爲ス

第二百九十九條 法定ノ家督相續人アルトキハ被相續人ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ得ス但此規定ニ違ヒタル指定ト雖モ被相續人ノ死亡ノ日ニ法定ノ家督相續人アラサルトキハ有效トス

第三百條 家督相續人ノ指定ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲スコシ

第三百一條 法定又ハ指定ノ家督相續人アラサル場合ニ於テ其家ニ死亡者ノ父アルトキハ父、父アラサルトキハ母ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

第一 兄弟

第二 姊妹

第三 兄弟姊妹ノ身屬親中親等ノ最モ近キ男子若シ男子アラヌ又ハ拋棄シタルトキハ

女子

第三百二條 前條ノ場合ニ於テ父母アラサルトキハ家督相續人選定ノ權利ハ親族會ニ屬ス

但親族會ハ前條ニ定メタル選定ノ順序ヲ變更スルコトヲ得ス

第三百三條 第三百一條ノ規定ニ從ヒ選定ス可キ家督相續人アラサルトキ又ハ皆拋棄シタルトキハ其家ニ在ル尊屬親中親等ノ最モ近キ者任意ニ家督相續ヲ爲スコトヲ得

第三百四條 前條ノ家督相續人アラサルトキハ配偶者家督相續ヲ爲スコトヲ得

第三百五條 親族會ハ前數條ニ記載シタル相續人アラサルトキ又ハ皆拋棄シタルトキニ非サレハ他人ヲ選定スルコトヲ得ス

第三款 隱居家督相續ノ特別規則

第三百六條 隱居ヲ爲スニハ左ノ條件ノ具備スルコトヲ要ス

第一 滿六十年以上ナルコト

第二 任意ニ出タルコト

第三 成年ニシテ且實際家政ヲ執ルノ能力アル家督相續人カ單純ノ受諾ヲ爲シタルコト

第四 配偶者ノ承諾シタルコト

第三百七條 隱居者カ重病其他ノ原因ノ爲メニ實際家政ヲ執ル能ハサルトキ又ハ分家ノ戶主カ本家ヲ承繼スルノ必要アルトキハ本人ノ申立ニ因リ區裁判所ハ年齢ノ條件ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百八條 隱居者ノ配偶者、親族及ヒ檢事ハ左ノ原因ノ一ニ基キ隱居届出ノ日ヨリ六十

日内ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第一 第三百六條第一號乃至第三號ノ條件ニ違ヒタル事實

第二 家督相續ヲ爲ス者カ推定家督相續人ニ非サル事實

又隱居カ任意ニ出テサリシ場合ニ於テハ隱居者モ亦故障ヲ申立ツルコトヲ得

第三百九條 隱居カ第三百六條第四號ノ條件ニ違ヒタル事實アルトキハ隱居者ノ配偶者ニ限り故障ヲ申立ツルコトヲ得

又隱居者カ債權者ヲ詐害スルノ意思ヲ以テ隱居ヲ爲サントスルトキハ債權者ハ故障ヲ申立ツルコトヲ得

前條ノ期間ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第三百十條 隱居ヲ爲ストキハ當事者ヨリ其旨ヲ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第三百十一條 隱居家督相續ハ届出前ノ利害關係人ニ對シテハ第三百八條ニ定メタル期間滿限ノ日ヨリ又故障アリタルトキハ其故障ノ棄却確定シタル日ヨリ死亡ニ因ル相續ト同

一ノ效力ヲ生ス但隱居者ノ終身ヲ限度トスル權利及ヒ義務ヲ消滅セシメス

第二節 遺産相續

第三百十二條 遺産相續トハ家族ノ死亡ニ因ル相續ヲ謂フ

第三百十三條 家族ノ遺産ハ其家族ト家ヲ同フスル身屬親之ヲ相續シ身屬親ナキトキハ配偶者之ヲ相續シ配偶者ナキトキハ戸主之ヲ相續ス

第三百十四條 身屬親カ遺産ヲ相續スル場合ニ於テハ第二百九十五條ノ規定ヲ適用ス

第三節 國ニ屬スル相續

第三百十五條 相續人アラサル財産ハ當然國ニ屬ス

國ハ限定ノ受諾ヲ以テ相續ス

第三百十六條 國ニ屬ス可キ相續財産ハ其領收ヲ爲スニ至ルマテ相續人曠缺ノ財産ヲ管理スル如ク之ヲ管理ス

第四節 相續ノ受諾及ヒ拋棄

第三百十七條 相續人ハ相續ニ付キ單純若クハ限定ノ受諾ヲ爲シ又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス又隱居家督相續人ハ限定ノ受諾ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十八條 隱居家督相續ヲ除ク外相續人ハ相續財産ヲ調査スル爲メ相續ノ日ヨリ二ヶ月ノ期間ヲ有ス但裁判所ハ情況ニ因リ更ニ三ヶ月内ノ延期ヲ許スコトヲ得

受諾又ハ拋棄ヲ決定スル爲メ一ヶ月ノ期間ヲ有ス此期間ハ調査期間滿限ノ日又ハ其前ニ實際ノ調査ヲ終了シタル日ヨリ之ヲ算ス

第三百十九條 相續人ハ調査又ハ決定ノ期間内相續財産ニ關スル一切ノ訴訟手續ヲ停止セシムルコトヲ得

第三百二十條 相續財産ニ關スル訴訟ニ要セシ費用ハ法律上ノ期間内ニ係ルモノト裁判所ノ許シタル延期内ニ係ルモノト問ハス總テ相續財産ノ負擔トス但相續人ノ所爲又ハ過失ニ因リテ要セシ費用ハ此限ニ在ラス

第三百二十一條 相續財産中ニ損敗シ易ク又ハ保存スルニ著シキ費用ヲ要スル物品アルトキハ調査又ハ決定ノ期間内ト雖モ區裁判所ノ許可ヲ得テ其物品ヲ競賣ニ付スルコトヲ得但日用品ハ裁判所ノ許可ヲ經スシテ之ヲ處分スルコトヲ得

第一款 單純ノ受諾

第三百二十二條 相續人カ被相續人ノ財産ニ關シ明示又ハ默示ニテ其代表者ト爲ルノ意思ヲ顯ハストキハ單純ノ受諾トス

第三百二十三條 左ノ如キ場合ニ於テハ默示ノ受諾アリトス

第一 相續財産ノ一箇又ハ數箇ニ付キ他人ノ爲メニ所有權ヲ讓渡シ又ハ其他ノ物權ヲ設定シタルトキ但財産編第百十九條以下ノ制限ニ從ヒタル賃借權ノ設定ハ此限ニ在

ラス

第二百二十八條ノ期間内ニ限定受諾又ハ拋棄ヲ爲ササルトキ
右ノ外尙ホ第三百二十七條第二號ノ場合ハ單純ノ受諾ヲ成ス

第三百二十四條 受諾ハ左ノ原因ノ一アルニ非サレハ之ヲ銷除スルコトヲ得ス

第一 身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ受諾シタルトキ

第二 詐欺ノ爲メニ受諾シタルトキ

第三 無能力者又ハ後見人カ方式ニ違ヒテ受諾シタルトキ

第四 受諾ノ時成立セルコトヲ知ラサル債務ノ爲メ破産又ハ無資力ト爲ルニ至ル可キ
トキ

此銷除訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル銷除訴權ノ期間及ヒ條件ニ從フ

第二款 限定ノ受諾

第三百二十五條 相續人カ相續財産ノ限度マテニ非サレハ債務ノ辨償ノ責ニ任セサルトキ
ハ限定ノ受諾トス

第三百二十六條 相續人ニシテ限定ノ受諾ヲ爲スノ意思ヲ有スル者ハ第三百十八條ノ期間
内ニ調査シタル財産ノ目錄ヲ相續地ノ區裁判所ニ差出タシ其申述ヲ爲シ裁判所ハ別段ニ
備ヘタル帳簿ニ之ヲ記載ス可シ

第三百二十七條 左ノ場合ニ於テハ相續人ハ限定受諾ヲ爲スノ權利ヲ失フ

第一 單純ノ受諾ヲ爲シタルトキ

第二 相續財産ヲ私取シ若クハ隱匿シ又ハ惡意ヲ以テ財産目錄中ニ相續財産ノ幾分ヲ
記載セサリシトキ

第三百二十八條 限定受諾者ハ其特有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理シ
債權者及ヒ受遺者ニ其計算ヲ爲ス可シ但此計算ハ債務及ヒ遺贈ノ辨償ノ爲メ相續財産ヲ
拂盡シタル後一个月内ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

第三百二十九條 限定受諾者ハ動産ト不動産トヲ問ハス總テ相續財産ノ賣却ヲ要スルトキ
ハ區裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣ニ付ス可シ

第三百三十條 限定受諾者ハ適法ニ賣却シタル財産ノ各箇ニ付テ得タル代價ヲ混同セス其
各箇ニ付テ優先權ヲ有スル債權者ニ順次ニ辨償ス可シ

第三百三十一條 相續ノ負擔スル債務又ハ遺贈ノ辨償ヲ差押ヘ又ハ其辨償ニ付キ異議ヲ述
フル債權者又ハ受遺者アルトキハ限定受諾者ハ裁判ヲ以テ定メタル順次及ヒ方法ニ從フ
ニ非サレハ其辨償ヲ爲スコトヲ得ス

第三百三十二條 前條ノ差押又ハ異議アラサルトキハ債權者又ハ受遺者ノ要求ニ從ヒテ辨
償ヲ爲ス

辨償ノ爲メニ相續財産ヲ拂盡シタル後ト雖モ第三百二十八條ニ規定シタル計算ヲ完了セ
サル前ニ要求ヲ爲ス債權者又ハ受遺者ハ左ノ區別ニ從ヒ既ニ辨償ヲ得タル債權者及ヒ受
遺者ニ對シテ求償權ヲ行フコトヲ得

第一 債權者ハ先ツ受遺者ニ對シ次ニ債權者ニ對スルコト

第二 受遺者ハ單ニ受遺者ニ對スルコト

第三百二十三條 相續人カ計算ノ完了ヲ遲延シタル場合ニ於テハ債權者中未タ辨濟ヲ得サル者ヨリ既ニ辨濟ヲ得タル受遺者及ヒ債權者ニ求償スルコトヲ得ヘキ額ヲ直チニ相續人ノ特有財産ニ付キ求償スルコトヲ得

第三百二十四條 相續財産ヲ拂盡シ計算ヲ完了シタル後ニ要求ヲ爲ス債權者ハ單ニ辨濟ヲ得タル受遺者ニ對スルニ非サレハ求償權ヲ行フコトヲ得ス

第三百二十五條 前三條ノ求償權ハ三ヶ年之間之ヲ行フコトヲ得但此期間ハ計算ノ完了前ニ係ルトキハ初メ相續人ニ要求シタル日又完了後ニ係ルトキハ其完了ノ日ヨリ之ヲ算ス

第三款 拋棄

第三百二十六條 相續ヲ拋棄セントスル相續人ハ相續地ノ區裁判所ニ其旨ヲ申述シ裁判所ハ別段ニ備ヘタル帳簿ニ之ヲ記載ス可シ

第三百二十七條 拋棄シタル相續ハ他ニ受諾シタル相續人アラサル間ハ拋棄者更ニ之ヲ受諾スルコトヲ得然レトモ此受諾ハ第三百十八條ノ期間内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但相續財産ニ付キ第三者ノ有效ニ得タル權利ヲ害スルコト無シ

第三百二十八條 相續ヲ拋棄シタル者ハ他ニ受諾シタル相續人アリト雖モ左ノ場合ニ於テハ其拋棄ヲ銷除スルコトヲ得

第一 身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ拋棄シタルトキ

第二 詐欺ノ爲メニ拋棄シタルトキ

第三 無能力者又ハ後見人カ方式ニ違ヒテ拋棄シタルトキ

此銷除訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル期間及ヒ條件ニ從フ

第三百二十九條 債權者ヲ詐害スル意思ニ出テタル拋棄ハ財産編第三百四十一條以下ニ定メタル區別及ヒ期間ニ從ヒ債權者自己ノ利益ノ爲メ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百四十條 適法ニ受諾シ又ハ受諾者ト推定セラレタル者ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十一條 相續ニ包含スル物ヲ私取シ又ハ隱匿シタル相續人ハ其相續ヲ拋棄スル權利ヲ失フ

第四款 相續人ノ曠缺セル相續財産ノ處分

第三百四十二條 相續人現出セス相續人ノ有無分明ナラス又ハ相續人相續ヲ拋棄シタルトキハ相續人ノ曠缺セルモノト看做ス

第三百四十三條 相續地ノ區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ相續財産ノ管理人ヲ命ス可シ

第三百四十四條 管理人ハ利害關係人ヲ召喚シテ相續財産ヲ調査シ其目錄ヲ作り財産ノ形狀ヲ檢證セシム可シ

管理人ハ此手續ヲ終了シタル後相續ニ屬スル權利ヲ行使シ之ヲ認求シ又其相續ニ對スル

請求ニ答辯ス可シ

金錢ハ相續財産中ニ存スルモノト其賣却ヨリ得タルモノトヲ問ハス供託所ニ之ヲ供託ス可シ

相續ノ負擔スル債務ハ區裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ辨濟スルコトヲ得ス

第三百四十五條 限定受諾者ノ義務及ヒ責任ニ關シ第二百二十八條以下ニ定メタル規則ハ

管理人ニ之ヲ適用ス

第三百四十六條 管理人ハ計算ヲ完了シテ尙ホ相續財産ノ存スルニ於テハ區裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣ニ付シ其得タル金額ヲ供託所ニ供託ス可シ

管理人ハ其領收證ヲ區裁判所ニ差出タシ區裁判所ハ之ヲ保存ス可シ

第三百四十七條 相續人現出スルトキハ其相續人ハ區裁判所ヨリ供託所ノ領收證及ヒ相續人タル身分ノ證明書ヲ得テ之ヲ供託所ニ提出シ供託金額ヲ領收ス可シ

第三百四十八條 相續人アラサルコト確實ニ至リタルトキハ國ハ特別法ニ從ヒ供託金額ヲ領收ス可シ

第十四章 贈與及ヒ遺贈

總則

第三百四十九條 贈與トハ當事者ノ一方カ無償ニテ他ノ一方ニ自己ノ財産ヲ移轉スル要式ノ合意ヲ謂フ

第三百五十條 贈與ハ單純有期又ハ條件附ナルコト有リ

贈與ハ法律ノ認メタル原因アルニ非サレハ之ヲ廢罷スルコトヲ得ス

第三百五十一條 贈與者ハ贈與物ノ妨礙及ヒ追奪ヲ擔保セス但其贈與以後ニ係ル贈與者ノ所爲ヨリ生シタル妨礙及ヒ追奪ハ此限ニ在ラス

第三百五十二條 遺贈トハ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ無償ニテ自己ノ財産ヲ遺言ニ因リテ死亡ノ時ニ移轉スル行爲ヲ謂フ

遺贈ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百五十三條 遺言書中ニ存スル不能又ハ不法ノ條件ハ之ヲ記セサルモノト看做ス
贈與書中ニ不能又ハ不法ノ條件アルトキハ其贈與ヲ無効ト爲ス

第一節 贈與又ハ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力

第三百五十四條 法律上特ニ無能力者ト定メタル者ヲ除ク外何人ニ限ラス贈與及ヒ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力ヲ有ス

第三百五十五條 左ニ掲クル者ハ贈與ヲ爲ス能力ヲ有セス

第一 贈與ヲ爲ス時ニ於テ喪心シタル者

第二 禁治產者

第三 瘋癲ノ爲メ病院又ハ監置ニ在ル者

第四 未成年者但夫婦財産契約ノ爲メ法律ノ特ニ許ス場合ハ例外トス

第三百五十六條 准禁治産者ハ財産讓渡ノ爲メ法律ノ要スル方式ニ從フニ非サレハ贈與ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五十七條 左ニ掲クル者ハ遺贈ヲ爲ス能力ヲ有セス

第一 遺贈ヲ爲ス時ニ於テ喪心シタル者

第二 民事上ノ禁治産者

第三 瘋癲ノ爲メ病院又ハ監置ニ在ル者

第四 未成年者但自治産者ハ此限ニ在ラス

第二節 贈與

第一款 贈與ノ方式

第三百五十八條 贈與ハ分家ノ爲メニスルモノト其他ノ原因ノ爲メニスルモノトヲ問ハス普通ノ合意ノ成立ニ必要ナル條件ヲ具備スル外尙ホ公正證書ヲ以テスルニ非サレハ成立セス

然レトモ慣習ノ贈物及ヒ單一ノ手渡ニ成ル贈與ニ付テハ此方式ヲ要セス

第三百五十九條 贈與ハ贈與者ノ現有ノ財産ノミヲ包含ス若シ將來ノ財産ヲ包含シタルト

キハ其財産ニ付テハ贈與ハ無効トス

然レトモ數額ノ定マリタル金錢又ハ定量物ノ贈與ハ贈與者ノ現有スルト否トヲ問ハス有効トス

第三百六十條 贈與ノ性質又ハ諾約ニ因リテ受贈者カ贈與者ノ債務ヲ辨濟スル義務ヲ負ヒタルトキハ其義務ハ贈與ノ時既ニ存在シタル債務ニ非サレハ包含セス

受贈者カ贈與者ノ將來ノ債務ヲ辨濟ス可キノ諾約ヲ爲シタルトキハ其諾約ハ無効トス

第三百六十一條 贈與者ハ自己ノ利益ニ於テスルニ非サレハ自己ニ先タチテ受贈者ノ死亡スルトキ其贈與ヲ解除ス可キ條件ヲ要約スルコトヲ得ス

若シ贈與者カ其相續人又ハ第三者ノ利益ニ於テ此解除條件ヲ要約シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三百六十二條 前條第一項ノ規定ニ從ヒテ有效ニ要約シタル解除條件ノ成就ハ受贈者ノ相續人ニ對スルト第三者ニ對スルトヲ問ハス普通ノ合意ニ於テ要約シタル解除條件ト同一ノ效力ヲ生ス

然レトモ受贈者ノ婦ハ解除ニ拘ハラヌ左ノ二箇ノ條件具備スルトキハ贈與財産ニ付キ法律上ノ抵當權ヲ保有ス

第一 贈與カ夫婦財産契約ヲ以テ夫ノ爲メ爲サレタルモノナルトキ

第二 贈與財産ノ外ナル夫ノ財産ヲ以テ婦ノ特有財産ノ返還ヲ擔保スルニ足ラサルト

第二款 贈與ノ廢罷

第三百六十三條 贈與ハ合意ヲ無効ト爲ス普通ノ原因ノ外尙ホ贈與者ノ要約シタル條件ノ

不履行ノ爲メ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百六十四條 條件ノ不履行ニ基ク贈與ノ廢罷ハ贈與者又ハ其承繼人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

第三百六十五條 條件ノ不履行ニ基キ贈與ヲ廢罷シタル場合ニ於テハ受贈者ニ對スルト第三者ニ對スルトヲ問ハス未必條件ノ成就ニ因リテ合意ヲ解除シタルトキト同一ノ效力ヲ生ス

第三節 夫婦間ノ贈與ノ特例

第三百六十六條 未成年ノ夫又ハ婦ハ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ人ノ許諾及ヒ立會ヲ得且夫婦財産契約ヲ以テスルニ非サレハ贈與ヲ爲スコトヲ得ス

第三百六十七條 夫婦間ノ贈與ハ何等ノ約款アルニ拘ハラヌ婚姻中贈與者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得

贈與ノ廢罷ハ第三者ニ對シテ效力ヲ有セス但贈與ノ登記ニ廢罷ノ訴狀ヲ附記シタル後ニ受贈者ノ遺産所持者ヨリ贈與財産ニ付キ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラズ

第四節 遺贈

第一款 遺言ノ方式

第三百六十八條 遺言ハ遺言者ノ自筆ノ證書、公正證書又ハ祕密ノ方式ニ依リテ之ヲ爲ス

コトヲ得

然レトモ二人以上ノ人ハ一箇ノ證書ヲ以テ遺言ヲ爲スコトヲ得ス

第三百六十九條 自筆ノ遺言書ハ遺言者カ其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シテ捺印シタルニ非サレハ其效ヲ有セス

第三百七十條 公正證書ニ依ル遺言ハ公證人一人及ヒ證人二人ノ前ニ於テ遺言者カ遺言ノ旨趣ヲ口授シ公證人之ヲ筆記シ朗讀シタル後遺言者及ヒ證人各其氏名ヲ自書シテ捺印シタルニ非サレハ其效ヲ有セス

然レトモ氏名ヲ自書スル能ハサル者アルトキハ其事由ヲ證書ニ記載スルヲ以テ足ル

第三百七十一條 祕密ノ方式ニ依ル遺言書ハ遺言者ノ自書シタルト他人ノ之ヲ書シタルトヲ問ハス左ノ諸件ヲ具備スルニ非サレハ其效ヲ有セス

陳述シタルコト

- 第一 遺言者カ氏名ヲ自書シテ捺印シタルコト
- 第二 遺言書ヲ封シテ遺言者カ之ニ封印シタルコト
- 第三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書タル旨ヲ陳述シタルコト
- 第四 公證人カ遺言者ノ陳述ト之ヲ聽キタル日附トヲ封紙ニ記シテ遺言者及ヒ證人ト共ニ各其氏名ヲ自書シテ捺印シタルコト但此場合ニ於テ氏名ヲ自書スル能ハサル證人アルトキハ公證人其事由ヲ封紙ニ記スルヲ以テ足ル

公證人ハ遺言者ノ死亡ノ後其相續人ノ立會ノ上ニ非サレハ開封セサル旨ヲ記シタル領收書ヲ遺言者又ハ其指定シタル證人中ノ一人ニ授付ス可シ

第三百七十二條 祕密ノ方式ニ依ル遺言トシテ有效ナル爲メ前條ニ定メタル條件ニ缺クルモノ有リト雖モ其全文、日附及ヒ氏名共ニ遺言者ノ自書ニ係ルトキハ自筆ノ遺言書トシテ有效トス

第三百七十三條 受遺者、遺言ニ立會フ公證人ノ筆生其他普通ノ無能力者ハ證人ト爲ルコトヲ得ス

第二款 遺言ノ特別方式

第三百七十四條 軍人及ヒ軍屬ニシテ遠征中ニ在ル者又ハ内地ト雖モ交戰中若クハ合圍中ニ在ル者ハ將校一人證人二人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十五條 遠征中、交戰中又ハ合圍中ニ在ル軍人及ヒ軍屬ニシテ疾病又ハ傷痕ノ爲メ病院ニ在ル者ハ其院ノ醫官及ヒ事務官ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十六條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル地方ニ在ル者ハ其疾病中ナルト否トヲ問ハス警察官一人及ヒ證人一人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十七條 航海中ニ在ル者ハ軍艦ニ在テハ將校一人其他ノ船舶ニ在テハ事務員一人及ヒ證人二人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十八條 海上ニテ遺言書ヲ作リタルトキハ其旨ヲ航海日誌ニ記載ス可シ

第三百七十九條 本款ノ規定ニ從ヒテ作リタル遺言書ニハ遺言者代書者及ヒ立會人各其氏名ヲ自書シテ捺印ス可シ

氏名ヲ自書シ又ハ捺印スル能ハサル者アルトキハ其事由ヲ遺言書ニ記載スルヲ以テ足ル

第三百八十條 外國ニ在ル日本人ハ第二百六十九條ニ定メタル自筆ノ方式ニ依リ又ハ其地ニ用ユル公正ノ方式ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得

第三百八十一條 外國ニ於テ作リタル遺言書ハ遺言者ノ日本國內ニ有スル住所ノ區裁判所ノ帳簿ニ之ヲ登錄シ若シ住所ノ知レサルトキハ最終居所ノ區裁判所ノ帳簿ニ之ヲ登錄シタル後ニ非サレハ日本國內ニ在ル財産ニ付キ其遺言ヲ執行スルコトヲ得ス

又其遺言書ニ日本國內ニ在ル不動産ノ處分ヲ包含スルトキハ其不動産所在地ノ區裁判所ニ登記ヲ求メタル後ニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百八十二條 日本ニ在ル外國人ハ日本ノ法律ニ從ヒ又ハ其本國ノ法律ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得

第三款 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ノ部分

第三百八十三條 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ト相續人ニ貯存ス可キ財産トノ部分ヲ定ムルニハ家督相續ノ特權ヲ組成スルモノヲ控除ス

第三百八十四條 法定家督相續人アルトキハ被相續人ハ相續財産ノ半額マテニ非サレハ他人ノ爲メ遺贈ヲ爲スコトヲ得ス

家族ノ遺産ヲ相續スル身屬親アルトキモ亦同シ

第三百八十五條 用益權ノ如キ其存立時間ノ不確實ナル權利ハ相續ノ時ニ於ケル價額ヲ査定シテ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ定ム

其權利ノ價額カ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ超過スルトキハ相續人ハ或ハ被相續人ノ遺贈ヲ履行シ或ハ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ノ完全ナル所有權ヲ與ヘテ其權利ヲ受戻スコトヲ得

第三百八十六條 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ超過スル遺贈ハ之ヲ其部分マテニ減殺ス

第三百八十七條 減殺ス可キ分量ハ相續ノ時ニ現存スル總テノ財産ノ評價額ヨリ被相續人ノ債務額ヲ控除シタル剩餘額ニ付キ之ヲ算定ス

第三百八十八條 遺贈ノ幾分ヲ減殺シテ貯存ス可キ財産ノ分量ヲ組成ス可キトキハ包括ノ遺贈ト特定ノ遺贈トヲ問ハス其價額ノ割合ヲ以テ總テノ遺贈ヲ減殺ス可シ

第三百八十九條 總テ贈與ニシテ贈與者ノ死亡ノ後執行ス可キモノハ遺贈ト其效力ヲ同フス

第四款 遺言ノ效力及ヒ執行

第三百九十條 單純又ハ有期ノ遺贈ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ受遺者ノ知ルト否トヲ問ハス包括ノ遺贈ニ付テハ其包含スル財産及ヒ債務ヲ受遺者ニ移轉シ特定ノ遺贈ニ付テハ其遺贈物ノ權利ヲ受遺者ニ移轉ス然レトモ有期ノ遺贈ハ滿期ニ至ルマテ其執行ヲ止ム

停止又ハ解除ノ條件附ニ於ケル遺贈ノ效力ハ合意ノ事項ニ關シテ規定シタル如ク其條件ノ成就如何ニ從フ

遺贈ノ目的物カ代替物ナルトキハ其所有權ハ財産編第三百三十二條ノ規定ニ從ヒテ移轉ス如何ナル場合ニ於テモ受遺者ハ遺贈ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百九十一條 遺言者カ不分ノ權利ヲ有スル物ヲ遺贈シタルトキハ受遺者ハ遺言者ト同一ナル權利ヲ取得ス

第三百九十二條 受遺者ハ遺贈物ノ引渡ヲ要求シタル時ヨリ後ニ非サレハ遺贈物ノ果實ヲ收受スル權利ヲ有セス但期限ノ到來シ又ハ未必條件ノ成就シタルコトヲ要ス

然レトモ左ノ三箇ノ場合ニ於テハ受遺者ハ遺言者ノ死亡滿期又ハ條件成就ノ時ヨリ要求ヲ待タスシテ直チニ果實ヲ收受スル權利ヲ有ス

第一 遺言者カ果實ヲ收受スル權利ヲ明示シタルトキ

第二 遺贈カ養料ノ性質ヲ有スルトキ

第三 相續人カ惡意ヲ以テ遺言ヲ隱蔽シタルトキ

第三百九十三條 遺贈物ハ其遺贈ノ單純ナルトキハ當然ノ附從物ト共ニ遺言者ノ死亡ノ時ニ於ケル現狀ニテ之ヲ引渡ス可シ其遺贈ノ有期又ハ未必條件附ナルトキハ引渡ヲ請求スルコトヲ得ヘキ時ニ於ケル現狀ニテ之ヲ引渡ス可シ

相續人カ遺贈物ニ加ヘタル改良又ハ毀損ハ相續人ト受遺者トノ間相互ニ賠償ヲ請求スル

權利ヲ生ス

解除ノ未必條件ヲ以テ遺贈ヲ爲シタル場合ニ於テ其條件ノ成就シタルトキハ受遺者又ハ其相續人ヨリ遺贈物ヲ現狀ニテ返還ス可シ但人爲ニ因ル改良又ハ毀損ニ付キ雙方ノ間ニ於ケル相互ノ賠償ヲ妨ケス

第三百九十四條 遺言者カ遺言ノ後ニ取得シタル土地又ハ建物ハ遺贈ノ不動産ニ接著シ又ハ其不動産ノ利用ヲ改良スル爲メニ供ヘタルモノト雖モ其不動産ノ受遺者ヲ利セス

第三百九十五條 遺言書ハ公正證書ヲ除ク外相續地ノ區裁判所ノ檢認ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

封印アル遺言書ハ區裁判所ニ於テスルニ非サレハ開封スルコトヲ得ス
前二項ノ規定ニ違フ者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第三百九十六條 遺言ノ執行及ヒ遺贈物ノ引渡ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但貯存財産ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第三百九十七條 不動産物權ノ遺贈ハ遺言者ノ死亡ノ後受遺者カ其遺贈ヲ知リタル時ヨリ三十日內ニ之ヲ登記シタルニ非サレハ遺言者ノ死亡ノ日ニ遡リテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登記ノ費用ハ受遺者ノ負擔トス

第三百九十八條 遺言者ハ合意又ハ遺言ヲ以テ遺贈ノ執行ヲ一人又ハ數人ニ委託スルコト

ヲ得

遺言執行者ハ代理人ノ普通義務ニ服ス

第五款 遺言ノ廢罷及ヒ失効

第三百九十九條 遺言ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得廢罷ハ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百條 遺言者カ遺言ノ方式ニ從ヒ遺言ノ全部又ハ一分ヲ廢罷スル意思ヲ證書ニ記載シタルトキハ其廢罷ハ明示ノモノトス

第四百一條 後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ニ包含スル特定物ヲ處分シタルトキハ其物ニ付テハ前ノ遺言ヲ默示ニテ廢罷シタルモノトス

遺言者カ生存中遺言ニ包含スル特定物ヲ有償又ハ無償ニテ處分シタルトキモ亦同シ

第四百二條 廢罷ニ歸シタル遺言ハ前條ノ處分ノ無効ト爲ルトキト雖モ有效ニ復セス

第四百三條 遺言ハ受遺者ノ條件不履行ノ爲メ又ハ遺言者ヲ死ニ致シタル原因ノ爲メ相續人ヨリ廢罷ヲ請求スルコトヲ得

第四百四條 遺言ハ方式上完全ノモノト雖モ左ノ場合ニ於テハ其效ヲ失フ

第一 受遺者カ遺言者ヨリ先ニ死亡シタルトキ

第二 停止條件附ノ遺言ニ付キ其條件ノ成就前ニ受遺者ノ死亡シタルトキ

第四百五條 廢罷又ハ失効ニ歸シタル遺言ノ部分ニ付テハ曾テ遺言アラサリシモノト看做

ス但遺言者カ明示ヲ以テ其部分ヲ利得ス可キ者ヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第五節 包括ノ贈與又ハ遺贈ニ基ク不分割ノ分割

第四百六條 包括ノ贈與又ハ遺贈ヲ爲シタルニ因リ贈與者又ハ相續人ト受贈者又ハ受遺者トノ間ニ不分割ノ財産ヲ生シタルトキハ下ノ規定ニ從ヒ之ヲ分割ス受贈者又ハ受遺者數人アルトキモ亦同シ

第一款 分割

第四百七條 不分割ノ財産ノ所有者ノ各自ハ其財産ノ分割ヲ要求スルコトヲ得但財産編第三十九條ノ規定ニ從ヒテ分割セサルコトヲ約シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百八條 分割ハ明示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス財産ヲ區別シテ收益スル事實ハ分割トセズ

第四百九條 不分割ノ財産ノ所有者各自ノ合意ヲ以テ自由ニ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ左ノ場合ニ於テハ裁判ヲ以テスルニ非サレハ其分割ヲ爲スコトヲ得ス

第一 所有者中ニ未成年者、禁治産者又ハ瘋癲者アリテ其後見人又ハ假管理人アラサルトキ

第二 所有者中ニ不在者アリテ有效ニ分割ヲ承諾スル權限ヲ有スル合意上ノ代理人アラサルトキ

第三 所有者中ニ合意上ノ分割ヲ承諾セサル者アルトキ

第四百十條 裁判上ノ分割ヲ要スルトキハ相續地ノ區裁判所ハ相續人、債權者又ハ檢事ノ請求ニ因リ封印ヲ爲シ及ヒ目錄ヲ作ラシム可シ

第四百十一條 裁判上ノ分割ヲ要セサルトキト雖モ債權者ハ區裁判所ノ許可ヲ得テ封印及ヒ目錄調製ヲ請求スルコトヲ得但執行力アル證書ヲ有スルトキハ此許可ヲ要セス

封印ノ除去ニ付テハ總テノ債權者異議ヲ述フルコトヲ得

第四百十二條 所有者ノ各自ハ不分割ノ現物ニテ其部分ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得但債權者其引渡ヲ差押ヘタルトキ又ハ所有者ノ多數ヲ以テ其財産ノ負擔スル債務及ヒ費用ヲ豫メ辨濟スル爲メ賣却ヲ必要ト決シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十三條 未成年者、禁治産者、瘋癲者又ハ不在者ノ爲メ定メタル規則ニ違ヘル分割ハ其者ノ利益ニ於テノミ假定ノモノトス

第四百十四條 分割ノ際利益ノ相反スル無能力者又ハ不在者ノ數人アルトキハ其各自ノ爲メ臨時保佐人又ハ管理人ヲ指定ス可シ

第四百十五條 分割ノ終了シタルトキハ各所有者ハ其領收シタル物ノ證書ヲ保有ス所有者ノ總體又ハ數人ニ分割シタル一箇ノ物ノ證書ハ其最大ノ部分ヲ領收シタル者之ヲ保有ス最大ノ部分ヲ領收シタル者ナキトキハ各所有者ノ協議ヲ以テ其保有者ヲ定ム若シ協議ハサルトキハ裁判所之ヲ指定ス

何レノ場合ニ於テモ證書ノ保有者ハ他ノ所有者ノ求メニ應シテ之ヲ使用セシム可シ

第四百十六條 所有者ハ各自ニ受クル部分ノ割合ヲ以テ債務ヲ分擔ス

第二款 分割ノ效力及ヒ擔保

第四百十七條 分割ノ效力ニ付テハ第五百五十五條ノ規定ヲ適用ス

第四百十八條 各所有者ハ分割前ノ原因ニ基ク分割物ノ妨礙及ヒ追奪ニ付キ互ニ擔保ノ責ニ任ス但別段ノ合意ヲ以テ擔保ヲ免除シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十九條 債權ニ付テハ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ノ限度マテニ非サレハ各所有者擔保ノ責ニ任セス

第三款 分割ノ銷除

第四百二十條 分割ハ財産編第三百四條以下ニ定メタル區別ニ從ヒ不成立又ハ無効タル外

尙ホ所有者ノ一人カ其領收シタル部分ニ付キ四分一以上ノ缺損ヲ被フリタルトキハ其缺損ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得

缺損ノ査定ハ分割ノ時ニ於ケル物ノ價格ニ從ヒタ之ヲ爲ス可シ

第四百二十一條 分割銷除ノ訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ定メタル時効及ヒ認諾ニ因リテ消滅ス

第十五章 夫婦財産契約

第一節 總則

第四百二十二條 夫婦財産契約ハ婚姻ノ儀式前ニ之ヲ爲シ及ヒ公證人ヲシテ其證書ヲ作ラ

シタルニ非サレハ成立セズ

婚姻ノ儀式後ハ契約ヲ變更スルコトヲ得ズ

第四百二十三條 婚姻ヲ爲スコトヲ得ル未成年者ハ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ尊屬親又ハ後見人ノ立會ニテ財産契約ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條 財産契約ヲ爲サシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ財産ノ關係ハ法定ノ制ニ從フ

第四百二十五條 日本ニ於テ財産契約ヲ爲サシテ婚姻ヲ爲シタル外國人ハ夫タル者ノ本國ニ行ハルル普通ノ制ニ從ヒタルモノト看做ス

第二節 法定ノ制

第四百二十六條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ現ニ所有シ又ハ將來ニ所有ス可キ特有財産ヨリ婚姻中ニ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因リテ婚姻中ニ得タル所得ハ婚姻中ノ費用分擔ノ爲メニ之ヲ配偶者ニ供出シタルモノト看做ス

第四百二十七條 夫又ハ戸主タル婦カ配偶者ノ特有財産ニ付テ有スル權利ハ用益者ノ權利ニ同シ

又配偶者ノ特有財産ニ關シテ收益ヲ爲ス夫又ハ戸主タル婦ハ用益者ノ負擔スル修繕其他收益ヲ以テ辨濟ス可キ義務ヲ負フ

第四百二十八條 夫ハ婦ノ特有財産入夫ハ戸主タル婦ノ財産ヲ管理ス

第四百二十九條 夫又ハ入夫ハ婦又ハ戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ婦ノ特有財産又

ハ戸主タル婦ノ財産ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但人事編第二百二十九條
及ヒ第二百七十五條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百三十條 入夫ハ戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ婚姻中ノ所得ヲ讓渡シ又ハ之ヲ
擔保ニ供スルコトヲ得ス但其特有財産ヨリ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因リテ得タル所
得ハ此限ニ在ラス

第四百三十一條 夫カ婦ノ特有財産ニ付キ入夫カ戸主タル婦ノ財産ニ付キ其承諾ヲ得スシ
テ爲ス質貸借ニ關シテハ財産編第一百九條以下ノ規定ヲ適用ス

第四百三十二條 管理ノ失當ニ因リ夫又ハ入夫カ婦ノ特有財産又ハ戸主タル婦ノ財産ヲ危
險ニ置クトキハ婦又ハ戸主タル婦ハ自ラ其財産ヲ管理セント請求スルコトヲ得

第四百三十三條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ負ヘル債務及ヒ婚姻中ニ生スル債務
ニ付テハ債權者ハ婦又ハ入夫ノ特有財産ニ對シテ權利ヲ行フコトヲ得

第四百三十四條 婦ノ名ヲ以テ生セシメタル債務ニ付テハ債權者ハ其債務カ家事管理ノ爲
メニ生シタルコトヲ證スルトキニ限リ夫ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得

入夫ノ名ヲ以テ生セシメタル債務ニ付テハ債權者ハ其債務ノ財産管理ノ爲メニ生シタル
コトヲ證スルトキニ限リ戸主タル婦ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十五條 婦又ハ入夫ノ特有財産タルコトヲ證セサル財産ハ總テ夫又ハ戸主タル婦
ニ屬スルモノト看做ス

○債權擔保編

民法債權擔保編目錄

| | |
|------------------------|---------|
| 總則 | 第三百二十九條 |
| 第一部 對人擔保 | 第三百二十九條 |
| 第一章 保證 | 第三百二十九條 |
| 第一節 保證ノ目的及ヒ性質 | 第三百二十九條 |
| 第二節 保證ノ效力 | 第三百二十九條 |
| 第一款 保證人債權者間ノ保證ノ效力 | 第三百二十九條 |
| 第二款 保證人債務者間ノ保證ノ效力 | 第三百二十九條 |
| 第三款 共同保證人間ノ保證ノ效力 | 第三百二十九條 |
| 第三節 保證ノ消滅 | 第三百二十九條 |
| 第四節 法律上及ヒ裁判上ノ保證ニ特別ナル規則 | 第三百二十九條 |
| 第二章 債務者間及ヒ債權者間ノ連帶 | 第三百二十九條 |
| 總則 | 第三百二十九條 |
| 第一節 債務者間ノ連帶 | 第三百二十九條 |
| 第一款 債務者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因 | 第三百二十九條 |
| 第二款 債務者間ノ連帶ノ效力 | 第三百二十九條 |

| | | | |
|--------------------|-------|---|---|
| 第三款 債務者間ノ連帶ノ終了 | 第七十二條 | 全 | 丁 |
| 第四款 全部義務 | 第七十三條 | 全 | 丁 |
| 第二節 債權者間ノ連帶 | 第七十四條 | 全 | 丁 |
| 第一款 債權者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因 | 第七十五條 | 全 | 丁 |
| 第二款 債權者間ノ連帶ノ效力 | 第七十六條 | 全 | 丁 |
| 第三款 債權者間ノ連帶ノ終了 | 第七十七條 | 全 | 丁 |
| 第三章 任意ノ不可分 | 第七十八條 | 全 | 丁 |
| 第二章 物上擔保 | 第七十九條 | 全 | 丁 |
| 第一章 留置權 | 第八十條 | 全 | 丁 |
| 第二章 動產質 | 第八十一條 | 全 | 丁 |
| 第一節 動產質契約ノ性質及ヒ成立 | 第八十二條 | 全 | 丁 |
| 第二節 動產質契約ノ效力 | 第八十三條 | 全 | 丁 |
| 第三章 不動產質 | 第八十四條 | 全 | 丁 |
| 第一節 不動產質ノ目的、性質及ヒ組成 | 第八十五條 | 全 | 丁 |
| 第二節 不動產質ノ效力 | 第八十六條 | 全 | 丁 |
| 第四章 先取特權 | 第八十七條 | 全 | 丁 |
| 總則 | 第八十八條 | 全 | 丁 |

| | | | |
|-------------------------|---------|---|---|
| 第一節 動產及ヒ不動產ニ係ル一般ノ先取特權 | 第三百三十七條 | 全 | 丁 |
| 第一款 一般ノ先取特權ノ原因 | 第三百三十七條 | 全 | 丁 |
| 第一則 訟事費用ノ先取特權 | 第三百三十八條 | 全 | 丁 |
| 第二則 葬式費用ノ先取特權 | 第三百三十九條 | 全 | 丁 |
| 第三則 最後疾病費用ノ先取特權 | 第三百四十條 | 全 | 丁 |
| 第四則 雇人給料ノ先取特權 | 第三百四十一條 | 全 | 丁 |
| 第五則 日用品供給ノ先取特權 | 第三百四十二條 | 全 | 丁 |
| 第二款 一般ノ先取特權ノ效力及ヒ順位 | 第三百四十三條 | 全 | 丁 |
| 第二節 動產ニ係ル特別ノ先取特權 | 第三百四十四條 | 全 | 丁 |
| 第一款 動產ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的 | 第三百四十六條 | 全 | 丁 |
| 第一則 不動產質貸人ノ先取特權 | 第三百四十七條 | 全 | 丁 |
| 第二則 種子及ヒ肥料ノ供給者ノ先取特權 | 第三百四十八條 | 全 | 丁 |
| 第三則 農業稼人及ヒ工業職工ノ先取特權 | 第三百四十九條 | 全 | 丁 |
| 第四則 動產物保存者ノ先取特權 | 第三百五十條 | 全 | 丁 |
| 第五則 動產物賣主ノ先取特權 | 第三百五十一條 | 全 | 丁 |
| 第六則 旅店主人ノ先取特權 | 第三百五十二條 | 全 | 丁 |

| | | |
|-------------------------------|---------|--------|
| 第七則 舟車運送營業人ノ先取特權 | 第三百六十條 | 三百七十二丁 |
| 第八則 職務上ノ所爲ニ對スル債權者ノ先取特權 | 第三百六十一條 | 全丁 |
| 第九則 保證金貸主ノ先取特權 | 第三百六十二條 | 全丁 |
| 第二款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位 | 第三百六十三條 | 三百七十三丁 |
| 第三款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權 | 第三百六十四條 | 三百七十四丁 |
| 第一款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的 | 第三百六十五條 | 全丁 |
| 第一則 讓渡人ノ先取特權 | 第三百六十六條 | 三百七十五丁 |
| 第二則 共同分割者ノ先取特權 | 第三百六十七條 | 三百七十六丁 |
| 第三則 工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權 | 第三百六十八條 | 三百七十七丁 |
| 第四則 金錢貸主ノ先取特權 | 第三百六十九條 | 三百七十八丁 |
| 第二款 質押者間ニ於ケル不動産ノ特別先取特權ノ效力及ヒ順位 | 第三百七十條 | 全丁 |
| 第三款 第三所持者ニ對スル不動産先取特權ノ效力 | 第三百七十一條 | 三百八十三丁 |
| 第五章 抵當 | 第三百七十二條 | 三百八十四丁 |

| | | |
|--------------------|---------|--------|
| 第一節 抵當ノ性質及ヒ目的 | 第三百九十五條 | 全丁 |
| 第二節 抵當ノ種類 | 第三百九十六條 | 三百八十六丁 |
| 第一款 法律上ノ抵當 | 第三百九十七條 | 全丁 |
| 第二款 合意上ノ抵當 | 第三百九十八條 | 三百八十七丁 |
| 第三款 遺言上ノ抵當 | 第三百九十九條 | 三百八十九丁 |
| 第三節 抵當ノ公示 | 第四百條 | 全丁 |
| 第一款 登記ノ條件及ヒ期間 | 第四百一條 | 全丁 |
| 第二款 登記ノ抹消、減少及ヒ正誤 | 第四百二條 | 三百九十二丁 |
| 第四節 債權者間ノ抵當ノ效力及ヒ順位 | 第四百三條 | 三百九十五丁 |
| 第五節 第三所持者ニ對スル抵當ノ效力 | 第四百四條 | 三百九十七丁 |
| 總則 | 第四百五條 | 全丁 |
| 第一款 抵當債務ノ辨濟 | 第四百六條 | 三百九十九丁 |
| 第二款 滌除 | 第四百七條 | 全丁 |
| 第三款 財産檢索ノ抗辯 | 第四百八條 | 四百四丁 |
| 第四款 委棄 | 第四百九條 | 四百五丁 |
| 第五款 競賣及ヒ所有權徵收 | 第五百條 | 四百六丁 |
| 第六節 登記官吏ノ責任 | 第五百一條 | 四百九丁 |

民法

債權擔保編

總則

第一條 債務者ノ總財産ハ動産ト不動産ト現在ノモノト將來ノモノトヲ問ハス其債權者ノ共同ノ擔保ナリ但法律ノ規定又ハ人ノ處分ニテ差押ヲ禁シタル者ハ此限ニ在ラス
債務者ノ財産カ總テノ義務ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハ其價額ハ債權ノ目的原因、體様ノ如何ト日附ノ前後トニ拘ハラズ其債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ各債權者ニ分與ス但其債權者ノ間ニ優先ノ正當ナル原因アルトキハ此限ニ在ラス
財産ノ差押、賣却及ヒ其代價ノ順序配當又ハ其分配方式ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス
第二條 義務履行ノ特別ノ擔保ハ對人ノモノ有リ物上ノモノ有リ

第一 保證

第二 債務者間又ハ債權者間ノ連帶

第三 任意ノ不可分

物上擔保ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 留置權

第二 動産質權

第三 不動産質權

民法 債權擔保編

第四 先取特權
第五 抵當權
第一部 對人擔保
第一章 保證

第三條 保證ハ任意ノモノ有リ法律上ノモノ有リ又裁判上ノモノ有リ
下ノ第一節乃至第三節ノ規定ハ右三種ノ保證ニ共通ナリ

第一節 保證ノ目的及ヒ性質

第四條 保證ハ或人カ債務者ノ其義務ヲ履行セサルニ於テハ之ヲ履行スルコトヲ諾約スル
契約ナリ此約務ハ債務者ノ過失ニ歸ス可キ不履行ノ場合ニ於テハ債權者ニ賠償スル約務
ヲ暗ニ包含ス

第五條 保證ハ主タル義務ノ目的ト異ナルモノヲ目的ト爲ストキハ保證トシテハ無効ナリ
然レトモ保證人ハ主タル債務者ノ諾約シタル物又ハ所爲ノ對價トシテ不履行ヲ豫見シタ
ル過怠金額ヲ有效ニ諾約スルコトヲ得

第六條 保證人ノ義務ハ主タル義務ヨリ一層大ナルコトヲ得ス又一層重キ體様ニ服スルコ
トヲ得ス若シ保證人ノ義務カ一層大ナルトキ又ハ一層重キトキハ主タル義務ノ限度及ヒ
體様ニ之ヲ減ス

第七條 前條ノ禁止ノ規定ハ債務者ヨリ其主タル義務ノ爲メ物上擔保ヲ供セサルトキ保證
人ヨリ其從タル義務ノ物上擔保ヲ供スルコトヲ妨ケス又保證人カ主タル債務者ヨリ一層
嚴ナル執行方法ニ服スルコトヲモ妨ケス

保證人ハ亦第三者ヲ引受人トシテ己レヲ保證セシムルコトヲ得此引受人ニ對シテハ保證
人ハ主タル債務者ノ地位ヲ有ス

第八條 金額又ハ定マリタル物ニ制限シタル保證ハ其利息ニモ果實ニモ其他ノ附從物ニモ
及フコト無シ

然レトモ主タル義務ノ無限ノ保證ハ填補ノ利息遲延ノ利息其他此債務ノ天然上、法律上
又ハ合意上ノ附從物ニ及ヒ又主タル債務者ニ對シテ爲シタル最初ノ訴ノ費用ト其訴ヲ保
證人ニ告知シタル以後ノ費用トニモ及フ

第九條 總テ有效ナル義務ハ之ヲ保證スルコトヲ得
無能力者ノ取消スコトヲ得ヘキ義務ト雖モ亦有效ニ之ヲ保證スルコトヲ得其義務カ裁判
上ニテ取消サレタル後ト雖モ保證ハ其效力ヲ存ス但保證人カ其保證ノ際債務者ノ無能力
ヲ知リタルトキニ限ル

第十條 何人ニテモ將來ノ債務ヲ保證スルコトヲ得又債權者又ハ債務者ノ方ニ於テ隨意ノ
條件ニ繫ル債務ヲモ保證スルコトヲ得但保證人ニ於テ其債務ノ性質及ヒ廣狹ヲ査定スル
コトヲ得ルトキニ限ル

第十一條 何人ニテモ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ其不知ニテ又ハ其意ニ反シテモ其保證人ト
爲ルコトヲ得

辨濟シタル保證人ノ其債務者ニ對スル求償ハ第二節第二款ニ於テ之ヲ規定ス

第十二條 有效ニ保證人ト爲ルニハ一般ナルト債務者ニ對スルトヲ問ハス無償ニテ義務ヲ負擔スル能力ヲ有スルコトヲ要ス

然レトモ主タル契約カ有償ナルトキハ保證人ノ債務者ニ對スル無能力ハ債權者カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ保證人ヨリ債權者ニ其無能力ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 債務ヲ保證スル意思ハ之ヲ明示セサルトキハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス然レトモ其意思ハ契約者ノ一方ヲ他ノ一方ニ勸メ又ハ其一方ノ現在若クハ將來ノ有資力ヲ確言シタル事實ノミヨリ之ヲ推測スルコトヲ得ス

若シ證書ノ署名者中ノ一人カ共同債務者ナルカ又ハ保證人ナルカニ付キ疑アルトキハ之ヲ保證人ト看做ス

第十四條 保證人ノ義務ハ其相續人ノ負擔ニ歸シ又債權者ノ相續人ノ利益ニ歸ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

第十五條 債務者カ保證人ヲ立ツ可キ合意ヲ以テ義務ヲ負ヒタルトキハ其債務者ハ債務ノ性質及ヒ大小ニ應シ有資力ノ人ニ非サレハ保證人トシテ之ヲ立ツルコトヲ得ス

若シ右ノ保證人カ無資力ト爲リタルトキハ債務者ハ前項ト同一ノ條件ヲ具備スル他ノ者ヲ立ツルコトヲ要ス

此他保證人ハ義務ヲ履行ス可キ控訴院ノ管轄地内ニ於テ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定ムルコトヲ要ス

債權者ヨリ人ヲ指定シテ保證人ヲ要約シタルトキハ本條ノ條件ヲ要セス

第十六條 債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ十分ナル物上擔保ヲ與フルコトヲ得

第十七條 商證券ノ保證及ヒ仲買人カ委託者ニ對シテ諾約シタル擔保ノ特例ハ商法ニ於テ之ヲ規定ス

第二節 保證ノ效力

第一款 保證人債權者間ノ保證ノ效力

第十八條 債權者ハ債務者ニ義務履行ノ催告ヲ爲シタルモ其效果アラサリシコトノ證據ヲ保證人ニ示サスシテ之ヲ訴追スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ行方知レス又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ顯然タル無資力ノ形狀ニ在ルトキハ右ノ催告ヲ必要トセス

第十九條 保證人ハ右ノ外下ノ制限及ヒ條件ニ從ヒ債權者カ豫メ債務者ノ財産ヲ檢索シテ之ヲ賣ラシムルコトヲ債權者ニ要求スルコトヲ得

第二十條 保證人ハ明示又ハ默示ニテ財産檢索ノ利益ヲ拋棄シ又ハ主タル債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔シタルトキハ檢索ノ利益ヲ享ケス

總テノ場合ニ於テ保證人ハ主タル債務ノ基本ヲ爭フ前ニ檢索ノ利益ヲ以テ債權者ニ對抗セサリシトキハ其利益ヲ失フ

第二十一條 檢索ヲ要求スル保證人ハ債務者ノ不動産ニシテ義務ヲ履行ス可キ控訴院ノ管轄地内ニ在ルモノヲ債權者ニ指示スルコトヲ要ス

保證人ハ爭ニ係ル不動産ヲモ他ノ債權者ニ優先ニテ抵當ト爲リタル不動産ヲモ訴追債權者ニ抵當ト爲リタル不動産ニシテ第三所持者ノ手ニ存スルモノヲモ指示スルコトヲ得ス
債務者ニ屬スル動産ニ付テハ債務者之ヲ物上擔保トシテ既ニ債權者ニ供シタルトキニ非サレハ保證人其檢索ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十二條 債權者檢索ノ有效ナル對抗ヲ受ケ其檢索ヲ爲スコトヲ忘リテ債務者其後無資カト爲リタルトキハ保證人ハ債權者ノ檢索ニ因リ得ヘカリシ金額ニ滿ツルマテ其義務ヲ免カル

第二十三條 一人ノ債務者ノ爲メ數人ノ保證人アルトキハ債務ハ均一ニテ當然其間ニ分タル但不均一ニテ分別スルコトヲ定メ又ハ其保證人カ或ハ債務者ト共ニ或ハ各自ノ間ニ連帶シテ義務ヲ負擔シ若クハ其他ノ方法ニテ分別ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス
保證ノ義務カ各別ノ證書ヨリ生スルトキト雖モ分別ノ利益ハ存在ス

第二十四條 保證人ハ檢索ノ利益ヲ用非タルト否ト分別ノ利益ヲ享クルト否トヲ問ハス訴追ヲ受ケタルトキハ第二十九條ニ明示シタル目的ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムル爲メ基本ニ付テノ答辯前ニ民事訴訟法ニ定メタル方式及ヒ條件ニ從ヒ延期抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第二十五條 保證人カ基本ニ付テ答辯スルトキハ主タル債務ノ組成又ハ其消滅ヨリ生スル抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得
保證人ハ債務ヲ保證スルニ當リ債務者ノ無能力又ハ其承諾ノ瑕疵ヲ知ラサリシトキハ此等ノ事項ヨリ生スル無効ノ理由ヲ以テモ對抗スルコトヲ得

第二十六條 右ノ抗辯ニ付キ債權者ト保證人トノ間ニ有リタル判決ハ債務者ヲ害スルコトヲ得ス然レトモ之ヲ利スルコトヲ得但其判決ノ牽連シタル箇條ハ債務者ニ利ナルモノト不利ナルモノトヲ分ツコトヲ得ス

第二十七條 債務者ニ對シテ時效ヲ中斷シ又ハ債務者ヲ遲滯ニ付スル行爲ハ保證人ニ對シテ同一ノ效力ヲ生ス
保證人ニ對シタル右同一ノ行爲ハ保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔シタルトキニ非サレハ債務者ニ對シテ效力ヲ生セス

第二十八條 主タル債務者ノ爲シタル債務ノ自白ハ保證人ヲ害ス
保證人ノ爲シタル自白ハ委任又ハ連帶アル場合ニ非サレハ債務者ヲ害セス

第二款 保證人債務者間ノ保證ノ效力

第二十九條 債權者ヨリ訴追ヲ受ケタル保證人ハ第二十四條及ヒ財産編第三百九十九條ニ掲ケタル如ク主タル請求ニ對シテ債務者ノ答辯ヲ要ス可キ場合ニ於テハ其答辯ヲ爲サシムル爲メ又債務者ノ敗訴ノ言渡ヲ受ク可キ場合ニ於テハ債務者ニ對シテ次條ニ定メタル

賠償ノ言渡ヲ得ル爲メ擔保附帶ノ請求ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ召喚スルコトヲ得

右擔保附帶ノ請求ハ債務者ノ委任ヲ受ケタル保證人ノミニ屬ス

第三十條 主タル債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務者ニ義務ヲ免カレシメタル保證

人ハ債務者ヨリ賠償ヲ受クル爲メ之ニ對シテ擔保訴訟ヲ有ス但左ノ區別ニ從フ

第一 保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタルトキハ其債務者ニ義務ヲ免カ
レシメ又ハ債務者ノ名ニテ辨濟シタル元利其擔當シタル費用立替ヲ爲シタル時ヨ
リ其利息其他損害アルトキハ其賠償ノ金額ヲ債務者ヨリ償還セシムルコトヲ得又此
委任ノ場合ニ於テ保證人ハ其分限ヲ以テ言渡ヲ受ケタルトキハ債務者ニ對シ直チニ
其賠償ヲ受クル爲メ訴ヲ爲スコトヲ得

第二 保證人カ債務者ノ不知ニテ義務ヲ負擔シタルトキハ債務者ノ義務ヲ免カレシメ

タル日ニ於テ之ニ得セシメタル有益ノ限度ニ從ヒ右ノ賠償ヲ受ク

若シ保證人カ債務者ノ意ニ反シテ義務ヲ負擔シタルトキハ保證人ノ求償ノ日ニ於テ

債務者ノ爲メ存在スル有益ノ限度ニ非サレハ右ノ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

第三十一條 連帶又ハ不可分ニテ責ニ任スル數人ノ債務者ヨリ保證人ニ委任ヲ爲シタル場

合ニ於テハ其債務者ハ財產取得編第二百四十九條ニ從ヒ保證人ニ對シテ連帶ノ擔保人タ

第三十二條 債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルコトヲ怠リタル保證人ハ其債務者カ債權者ニ對

リ

抗ス可キ排訴抗辯ヲ有シタルコトヲ證スルトキハ第三十條ニ定メタル求償權ヲ有セス

若シ債務者カ債權者ニ對抗ス可キ延期抗辯ノミヲ有シタルトキハ右ノ懈怠アル保證人ノ

求償ニ對シ之ヲ以テ對抗スルコト得

第三十三條 保證人ハ有效ニ辨濟シタルモ債務者ニ其旨ヲ有益ニ通知スルコトヲ怠リ爲メ

ニ債務者カ善意ニテ再ヒ辨濟シ此他有償ニテ自己ノ免責ヲ得タルトキモ亦其求償權ヲ失

フ

右ニ反シテ債務者カ自ラ債務ヲ消滅セシメタルコトヲ保證人ニ通知スルコトヲ怠リタル

トキハ債務者ハ場合ニ從ヒ其債務ノ消滅後保證人ノ爲シタル辨濟ニ付キ責任アリトノ宣

告ヲ受クルコト有リ

孰レノ場合ニ於テモ利害ノ關係アル當事者ハ受取ルコトヲ得サルモノヲ受取リタル債權

者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第三十四條 委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタル保證人ハ辨濟ヲ爲ス前又訴追ヲ受クル前ニテ

モ債務者ヨリ豫メ賠償ヲ受クル爲メ又ハ未定ノ損失ヲ擔保セシムル爲メ左ノ三箇ノ場合

ニ於テ之ニ對シ訴ヲ爲スコトヲ得

第一 債務者カ破産シ又ハ無資力ト爲リ且債權者カ清算ノ配當ニ加入セサルトキ

第二 債務ノ満期ノ到リタルトキ

第三 満期ノ不定ナル債務カ其日附ヨリ十ヶ年ヲ過キタルトキ

第三十五條 債權者カ完全ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ前條及ヒ第二十九條ニ依リ債務者ヨリ豫メ保證人ニ供ス可キ賠償ハ債務者其債權者ニ對スル自己ノ免責ヲ保スル爲メ債權者ノ名ヲ以テ之ヲ供託シ又ハ其他ノ方法ニテ之ヲ留存スルコトヲ得

第三十六條 主タル債務ヲ辨濟シ其他ノ方法ニ因リ義務ヲ消滅セシメタル總テノ保證人ハ己レノ權利ニ基キテ有スル訴權ノ外債務者又ハ第三者ニ對シ債權者ノ有シタル總テノ權利ニ付キ財産編第四百八十二條第一號ニ從ヒテ代位ス但第三十二條及ヒ第三十三條ノ制限ニ從フコトヲ要ス

債權者カ債務者ノ不動産ニ付キ先取特權又ハ抵當權ヲ有シ其登記ヲ爲シタルトキハ保證人ハ代位ヲ目的トシテ自己ノ條件附ノ債權ヲ此登記ニ附記スルコトヲ得又讓渡ノ場合ニ於テハ其不動産ヲ所持スル第三者ハ滌除ノ爲メ債權者ノ外保證人ニ對シテモ又提供ヲ爲スコトヲ要ス

債權者カ有益ナル時期ニ於テ右ノ登記ヲ爲ササリシトキハ保證人ハ第四十五條及ヒ財産編第五百十二條ニ從ヒ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 連帶又ハ不可分ナル義務ノ數人ノ債務者アルトキハ保證人ハ其中ノ或ル者ヲ保證シ他ノ者ヲ保證セサルトキト雖モ右ノ代位ニ依リ債務者ノ各自ニ對シテ全部ニ付キ求償スルコトヲ得

第三款 共同保證人間ノ保證ノ效力

第三十八條 一箇ノ債務ニ付キ數人ノ保證人アリテ其中ノ一人カ任意ナルト否トヲ問ハス債務ノ全部ヲ辨濟シタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對スル求償ニ關シ上ニ記載シタル條件、制限及ヒ區別ニ從ヒ或ハ事務管理ノ訴權ニ因リ或ハ債權者ノ訴權ニ因リ他ノ保證人ノ各自ニ對シテ均一部分ニ付キ求償スルコトヲ得
右ノ保證人カ債務ノ全部ヲ辨濟セスシテ自己ノ部分ヨリ多ク辨濟シタルトキハ其超過額ノ爲メノ求償ハ他ノ共同保證人間ニ均一ニ之ヲ分ツ

第三十九條 共同保證人中ニ無資カト爲リタル者アルトキハ辨濟シタル者ハ其無資力者ノ引受人ニ對シテ求償權ヲ有ス若シ引受人アラサルトキハ無資力者ノ部分ハ債務ヲ辨濟シタル者ヲ加ヘ他ノ有資力ナル共同保證人間ニ之ヲ分ツ

第四十條 前條ニ依リ訴ヲ受ケタル共同保證人ハ未タ主タル債務者ノ財産ノ檢索アラサルトキハ第二十條以下ニ定メタル規則及ヒ條件ニ從ヒテ豫メ其檢索ヲ請求スルコトヲ得
右同一ノ權利ハ保證人ノ引受人ニモ屬ス

第四十一條 連帶シテ又ハ不可分ナル債務ノ爲メ義務ヲ負擔シタル數人ノ保證人中全部履行ニ付キ訴ヲ受ケタル者ハ本訴ニ附帶シテ共同保證人ヲ擔保ノ爲メニ召喚シ之ニ對シ同一ノ判決ヲ以テ前數條ニ許サレタル言渡ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十二條 保證人ノ一人ニ對スル時効中斷又ハ付遲滯ノ行爲ハ他ノ保證人ニ對シテ其效ナシ但其義務カ連帶ナルトキハ此限ニ在ラス

債權者ト保證人ノ一人トノ間ニ主タル債務ニ關シ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ保證人ヲ利スルコトヲ得然レトモ之ヲ害スルコトヲ得ス

第四十三條 相互ニ連帶シ又ハ債務者ト連帶シタル保證人中ニ無資力ト爲リタル者アルトキハ各保證人ノ間ニ第六十七條乃至第六十九條ヲ適用ス但其各條ニ記載シタル區別ニ從フ

第三節 保證ノ消滅

第四十四條 保證ハ義務消滅ノ通常ノ原因ニ由リ直接ニ消滅ス

保證ノ更改、免除、相殺及ヒ混同ハ財産編第五百二條、第五百十一條、第五百二十一條及ヒ第五百三十八條ニ於テ之ヲ規定ス

第四十五條 債權者カ故意又ハ懈怠ニテ保證人ノ其代位ニ因リテ取得スルコトヲ得ヘキ擔保ヲ減シ又ハ害シタルトキハ總テノ保證人ハ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

保證人ノ引受人ハ保證人ノ權利ニ基キ右ノ權利ヲ援用スルコトヲ得

第四十六條 保證ハ主タル義務消滅ノ總テノ原因ニ由リテ間接ニ消滅ス

債權者ト主タル債務者トノ間ニ爲シタル代物辨濟、更改、免除、相殺及ヒ混同ノ保證人ニ對スル效力ハ財産編第四百六十一條、第五百一一條、第五百六條、第五百二十一條及ヒ第五百三十八條ニ於テ之ヲ規定ス

第四節 法律上及ヒ裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

第四十七條 法律ノ規定又ハ判決ニ從ヒテ保證人ヲ立ツル責アル者ハ自ラ保證人ヲ立テント約シタルトキト同シク第十五條及ヒ第十六條ニ定メタル如キ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコトヲ要ス

法律上及ヒ裁判上ノ保證人ヲ承認スル手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十八條 裁判所ハ法律カ裁判執行ノ爲メ保證人ヲ立テシムル權能ヲ付與シタル場合ニ非サレハ此カ爲メ保證人ヲ立ツ可キコトヲ命スルヲ得ス

第四十九條 裁判上ノ保證人及ヒ其引受人ハ財産檢索ノ利益ヲ有スルコトヲ得ス

第五十條 法律上及ヒ裁判上ノ保證人ハ其債務者ニ對スル擔保ノ求償ニ關シテハ常ニ之ヲ債務者ノ代理人ト看做ス

第二章 債務者間及ヒ債權者間ノ連帶

總則

第五十一條 義務ノ目的單數ナルモ主タル當事者トシテ之ニ關係スル人複數ナルトキハ其義務ハ財産編第四百三十八條ニ指示シ且下ノ二節ニ記載スル如ク受方又ハ働方ニテ連帶タルコト有リ

第一節 債務者間ノ連帶

第一款 債務者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

民法 債權擔保編

第五十二條 債務者間ノ連帶即チ受方連帶ハ共同債務者ヲシテ其共通ノ利益ニ於テモ債權者ノ利益ニ於テモ相互ニ代人タラシム
此連帶ハ合意、遺言又ハ法律ノ規定ヨリ生ス

連帶ハ之ヲ推定セス如何ナル場合ニ於テモ明示ニテ之ヲ定ムルコトヲ要ス但不可分ニ關シ第八十八條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第五十三條 數人ノ債務者ノ連帶義務ハ同一ノ行爲ヲ以テ又同時、同所ニ於テ之ヲ契約スルコトヲ要セス但其義務ノ目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス
又連帶債務者ハ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ得

第二款 債務者間ノ連帶ノ效力

第五十四條 數人ノ連帶債務者ヲ有スル債權者ハ其訴追セント擇ミタル債務者ニ對シ唯一人ノ債務者ニ於ケル如ク且其債務者ヨリ檢索又ハ分別ノ利益ノ抗辯ヲ受クルコト無ク義務全部ノ履行ヲ要求スルコトヲ得

又債權者ハ皆濟ヲ受クルニ至ルマテ同時又ハ順次ニ總債務者ヲ訴追スルコトヲ得

第五十五條 各債務者ハ訴ヲ受ケタルト否トヲ問ハス連帶債務全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ債權者ニ強要スルコトヲ得

第五十六條 連帶債務者ニシテ債務ニ於ケル全部又ハ自己ノ部分ヨリ多額ニ付キ訴ヘラレタル者ハ共同債務者ヲ訴訟ニ召喚シ附帶ノ擔保方法ヲ以テ其債務者ヲシテ答辯又ハ辨濟

ヲ擔任セシムル爲メ必要ナル期間ヲ請求スルコトヲ得但債權者ニ對シテハ訴追ヲ受ケタル債務者ノミ其對手人タル可シ

共同債務者ハ又其利益保護ノ爲メ任意ニ自費ヲ以テ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第五十七條 連帶債務ノ履行ノ爲メ訴ヲ受ケタル各債務者ハ自己ノ權利ニ基クト共同債務者ノ權利ニ基クトヲ問ハス義務ノ組成又ハ消滅ヨリ生スル答辯方法ヲ以テ債務ノ全部ニ付キ債權者ニ對抗スルコトヲ得

右ノ外更改、免除、相殺及ヒ混同ニ關シテハ財產編第五百一條、第五百六條、第五百九條、第五百二十一條及ヒ第五百三十五條ノ規定ニ從フ

第五十八條 債務者ノ一人ノ無能力又ハ承諾ノ瑕疵ニ基キタル答辯方法ハ其人自身ニ非サレハ之ヲ援用スルコトヲ得ス然レトモ此答辯方法カ一旦許サレタル上ハ債務ニ於ケル其者ノ部分ニ付キ他ノ債務者ヲ利ス但他ノ債務者カ契約ノ際義務履行ニ付キ其者ノ分擔ヲ豫期スルコト有リタルトキニ限ル

第五十九條 前二條ニ規定シタル種種ノ事項ニ付キ債權者ト債務者ノ一人トノ間ニ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ債務者ノ利害ニ於テ前二條ニ同シキ限度及ヒ區別ヲ以テ其效力ヲ生ス

第六十條 一人ノ債務者ト他ノ債務者トノ間ニ於ケル連帶ノ存在ノミニ關シテ其一人ト債權者トノ間ニ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ債務者ヲ害セス又之ヲ利セス

第六十一條 連帶債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ時效ヲ中斷シ又ハ付遲滯ヲ成ヌ原因ハ他ノ債務者ニ對シテ同一ノ效力ヲ有ス

債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ存スル時効停止ノ原因ハ他ノ債務者ノ利益ニ於テ其部分ノ爲メ時効ノ進行スルコトヲ妨ケス

第六十二條 義務ノ目的物ノ滅失其他總テ義務履行ノ不能カ連帶債務者ノ一人ノ過失ニ因リ又ハ其付遲滯後ニ生スルトキハ他ノ債務者ハ債權者ニ對シ連帶シテ損害賠償又ハ過怠約款ノ責ニ任ス但過失アリ又ハ遲滯ニ在リシ債務者ニ對スル他ノ債務者ノ求償權ヲ妨ケス

第六十三條 連帶債務者中ニテ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得セシメタル者ハ他ノ債務者ニ對シ辨濟又ハ免責ノ限度ニ於テ其各自ノ負擔部分ニ付キ自己ノ權利ニ基キテ求償權ヲ有ス

右ノ求償中ニハ會社及ヒ代理ノ規則ニ從ヒ辨償金及ヒ必要ナル出捐ノ賠償ノ外辨償以後ノ法律上ノ利息及ヒ避クルコトヲ得サリシ費用ヲ包含ス

第六十四條 債務ヲ辨濟シタル債務者ハ債權者ノ實際受取リタルモノノ限度ニ於テノニ財產編第四百八十二條第一號ニ從ヒ法律上ノ代位ニ因リテ其債權者ノ權利及ヒ訴權ヲ行フコトヲ得

然レトモ其債務者ハ前條ニ記載シタル如ク其共同債務者ノ各自ノ間ニ於テ自己ノ訴ヲ分

ツコトヲ要ス

第六十五條 不注意ニテ辨濟シタル保證人ニ對シ第三十二條及ヒ第三十三條ニ規定シタル求償ノ失權ハ訴追又ハ辨濟ヲ共同債務者ニ告知スルコトヲ怠リタル連帶債務者ニ對シテ之ヲ適用ス

第六十六條 共同債務者ノ一人カ上ニ指示シタル方法ノ一ニ因リ求償ノ行ハレタル當時ニ於テ無資力ナルトキハ無資力者ノ部分ハ辨濟シタル者ヲモ加ヘテ他ノ資力アル者ノ間ニ割合ニ應シテ之ヲ分ツ但求償者ノ責ニ歸ス可キ懈怠アリシトキハ此限ニ在ラス

第六十七條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ連帶債務者ノ一人ノ無資力ト爲リタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ清算ニ加ハルコトヲ得

此場合ニ於テ辨濟ノ殘額ハ他ノ債務者之ヲ負擔ス但其債務者ノ自己ノ部分外ニ負擔シタルモノニ對スル求償ハ其清算ニ加ハリタル他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス

第六十八條 債務者ノ一人ノ無資力ト爲リタル前ニ一分ノ辨濟アリタルトキハ債權者ハ辨濟殘額ノ爲メニ非サレハ其清算ニ加ハルコトヲ得又一分ノ辨濟ヲ爲シタル他ノ債務者

ハ第六十三條ニ從ヒ自己ノ受取ル可キモノヲ辨償セシムル爲メ清算ニ加ハルコトヲ得

第六十九條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ總テノ連帶債務者又ハ其中ノ數人ノ無資力ト爲リタル場合ニ於テ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各清算ニ加ハルコトヲ得

額ニ從ヒ債權者ニ充テタル新配當金ハ以前ノ配當ニ於テ未タ受取ラサルモノノ割合ニ應
スルニ非サレハ債權者之ヲ受取ルコトヲ得ス
受取ノ殘額ハ各清算ニ之ヲ返還ス但各清算ノ辨濟シタルモノノ割合ニ從フ

第三款 債權者間ノ連帶ノ終了

第七十條 債權者カ總債務者ニ對シテ連帶ヲ拋棄スルトキハ財産編第四百二十八條第一項
ニ規定シタル如ク其債務者ノ義務ハ單ニ連合ノモノト爲リテ存シ其他ノ性質ヲ變スルコ
ト無シ

第七十一條 財産編第五百十條ニ從ヒ明示又ハ默示ニテ債務者ノ一人又ハ數人ニ對シテノ
ミ連帶ノ拋棄アリタルトキハ他ノ債務者ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ノ部分ニ於テノミ其義
務ヲ免カル

連帶ノ免除ヲ得サル債務者中ニ無資力者アルトキハ債權者ハ其無資力ニ付キ連帶ノ免除
ヲ得タル者ノ部分ヲ負擔ス

七十二條 債權者カ連帶債務者ノ一人ヨリ供シタル擔保ニシテ他ノ債務者ノ辨濟シテ代
位スルコトヲ得ヘキモノノ全部又ハ一分ヲ毀損シ又ハ滅失セシメタルトキハ他ノ債務者
ハ其擔保ヲ供シタル者ノ部分ニ付キ連帶ノ義務ヲ免カレント請求スルコトヲ得
右ノ請求ニ因リテ宣告シタル免責ハ連帶ノ任意免除ト同一ノ效力ヲ有ス

第四款 全部義務

第七十三條 財産編第三百七十八條 第四百九十七條 第二項及ヒ其他法律カ數人ノ債務者
ノ義務ヲ其各自ニ對シ全部ノモノト定メタル場合ニ於テハ相互代理ニ付シタル連帶ノ效
力ヲ適用スルコトヲ得ス但其總債務者又ハ其中ノ一人カ債務ノ全部ヲ辨濟スル言渡ヲ受
ケタルトキモ亦同シ

然レトモ一人ノ債務者ノ爲シタル辨濟ハ債權者ニ對シ他ノ債務者ヲ免カレシム又辨濟シ
タル者ハ事務管理ノ訴權ニ依リ又ハ債權者ニ代位シテ得タル訴權ニ依リテ他ノ債務者ニ
對シ其部分ニ付キ求償權ヲ有ス

第二節 債權者間ノ連帶

第一款 債權者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第七十四條 債權者間ノ連帶即チ働方連帶ハ權利ノ保存及ヒ行使ニ付キ其債權者ヲシテ互
ニ代人タラシム

此連帶ハ合意又ハ遺言ヨリ生ス

第七十五條 數人ノ連帶債權者ニ對スル債務者ノ約務ハ同一ノ行爲ヲ以テ又同時、同所ニ
於テ之ヲ契約スルコトヲ要セス但其義務ノ目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス
又債務者ハ數人ノ債權者ニ對シ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ
得

第二款 債權者間ノ連帶ノ效力

第七十六條 各連帶債權者ハ唯一人ノ債權者ナル如ク義務全部ノ履行ヲ債務者ニ要求スルコトヲ得

債權者ノ一人カ訴ヲ起シタルトキハ他ノ各債權者ハ共通ノ利益及ヒ自己ノ利益ノ保護ノ爲メ訴訟ニ参加スルコトヲ得

第七十七條 債務者ハ債權者ノ一人ヨリ訴追又ハ合式ノ要求ヲ受ケサル間ハ債務ノ全額ノ辨濟ヲ受クルコトヲ債權者ノ各自ニ強要スルコトヲ得之ニ反スル場合ニ於テハ訴追者又ハ要求者ニ對スルニ非サレハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

若シ同時ニ數人ノ訴追者又ハ要求者アルトキハ債務者ハ其總テノ者ニ對スルニ非サレハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第七十八條 義務組成ノ瑕疵ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ハ債務ノ全部ニ對シ總債權者ノ利害ニ於テ其效力ヲ生ス但訴訟ニ其名ヲ出ササリシ者ニ對シテモ亦同シ

第七十九條 義務消滅ノ原因ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ハ左ノ區別ニ從フニ非サレハ訴訟ニ與カラサリシ債權者ニ對シテ其效ナシ

第一 第七十七條ニ定メタル條件ニ從ヒ債權者ノ一人ニ爲シタル辨濟ハ全部ニ付キ總債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得又財産編第五百二十一條第三項ニ記載シタル如ク債權者ノ一人ニ對シ債務者ノ有スル相殺ニ付テモ亦同シ但相殺ノ原因カ第七十七條ニ從ヒ債務者ヨリ其債權者ニ有效ニ辨濟スルコトヲ得ヘキ時期ニ於テ生シタルト

キニ限ル

第二 債權者ノ一人ノ行爲ヨリ生シ又ハ其權利ニ基キテ生スル更改免除及ヒ混同ハ財産編第五百一條第三項、第五百十五條第一項及ヒ第五百二十五條第二項ニ從ヒ其債權者ノ部分ニ非サレハ債務ヲ消滅セシメス但此行爲ハ他ノ債權者ノ訴追又ハ要求ノ前ニ在ルコトヲ要ス

又右同一ノ行爲ニ關シ及ヒ辨濟又ハ相殺ニ關スル和解ニ付テモ亦同シ

第八十條 債權者中ノ一人ノ一身ニ限ル債務者ノ抗辯ニ付キ有リタル判決ハ他ノ債權者ヲ害セス又之ヲ利セス又債權者ノ一人カ其連帶ニ於ケル權利ニ付キ債務者ト爲シタル和解ニ付テモ亦同シ

第八十一條 債權者ノ一人カ債務者ニ對シテ時效ヲ中斷シ又ハ其債務者ヲ遲滞ニ付スル行爲ハ全部ニ付キ他ノ債權者ヲ利ス

債權者ノ一人ノ利益ニ於テ法律ノ設定シタル時效ノ停止ハ其部分ニ限り其一人ノミヲ利ス

第八十二條 義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ得タル連帶債權者ハ他ノ債權者ノ特別ノ關係及ヒ其相互ノ部分ニ從ヒ之ニ其利益ヲ分與スルコトヲ要ス

第三款 債權者間ノ連帶ノ終了

第八十三條 債權者間ノ連帶ハ拋棄ニ因リテ止ム其拋棄ハ明示ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ

得ス

第八十四條 連帶ノ拋棄ハ債權者ノ一人若クハ數人又ハ其總員ヨリ之ヲ爲スコトヲ得
總債權者ノ働方連帶ノ拋棄ハ第七十條ニ規定シタル如ク受方連帶ノ拋棄カ共同債務者ニ
對シテ生セシムルト同一ノ效力ヲ其債權者間ニ生セシム

若シ債權者ノ一人又ハ數人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ此拋棄ヲ爲シタル者ノ
部分ニ付テノニ訴ヲ爲シ又ハ辨濟ヲ受クル權利ヲ失フ

第八十五條 連帶ノ拋棄ハ債務者ノ承諾ナクシテ有效ナリ

然レトモ其拋棄ハ之ヲ債務者ニ告知セシカ又ハ債務者明確ニ之ヲ知リタルトキニ非サレ
ハ上ノ規定ヲ以テ債務者ニ許シタル辨濟其他ノ行爲ニ對シテ債權者ヨリ之ヲ援用スルコ
トヲ得ス

債務者ハ拋棄ヲ申立ツル利益アルトキハ之ヲ申立ツルコトヲ得又拋棄カ其權利ノ詐害ニ
於テ爲サレタルトキハ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第三章 任意ノ不可分

第八十六條 財産編第四百四十一條及ヒ第四百四十二條ニ規定シタル不可分ノ外債務ハ尙
ホ數人ノ債務者ノ負擔又ハ數人ノ債權者ノ利益ニ於テ債務履行ノ擔保トシテ任意上不可
分タルコトヲ得但財産編第四百四十二條ニ指示シタル如ク受方又ハ働方ノ連帶ニ併合シ
又ハ併合セサルコト有リ

任意ノ不可分ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得此不可分ハ明示タルコトヲ要
ス

第八十七條 債務者ノ負擔ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ働方タル可キコトノ明示アル
ニ非サレハ債權者ノ利益ニ於テ存立セス

又債權者ノ利益ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ受方タル可キコトノ明示アルニ非サレ
ハ債務者ノ負擔ニ於テ存立セス

第八十八條 受方ナルト働方ナルトヲ問ハス任意ノ不可分ヲ設定シタルトキハ受方又ハ働
方ノ連帶ヲ明示ニテ阻却セサル場合ニ限り債務者又ハ債權者ノ間ニ此連帶ノ效力ヲ生セ
シム

第八十九條 債務者ノ一人ニ對シテ時效ヲ中斷又ハ停止スル原因ハ總債務ニ付キ他ノ債務
者ニ對シテ中斷又ハ停止ヲ生ス

又債權者ノ一人ノ權利ヨリ生スル時效ノ中斷又ハ其停止ノ原因ハ他ノ債權者ヲ利ス

第九十條 債權カ受方又ハ働方ニテ同時ニ連帶及ヒ不可分ナルトキハ第八十三條及ヒ財産
編第五百十條ニ記載シタル區別ニ從ヒ明示ナルトヲ問ハス連帶ノ拋棄ハ又任
意ノ不可分ノ拋棄ヲ惹起ス但不可分ノ拋棄ハ連帶ヲ存立セシム

第九十一條 財産編第四百四十四條乃至第四百四十九條、第五百一條第四項、第五百六條第
三項、第五百九條第一項、第五百十二條、第五百十五條第二項、第五百二十一條第四項、第五

百三十六條及ヒ第五百三十七條第二項ノ規定ハ任意ノ不可分ニ之ヲ適用ス
債權者カ不可分ニテ義務ヲ負ヒタル債務者ノ代位ニ因リテ得ルコト有ル可キ擔保ヲ減失
セシメ又ハ減少セシメタルトキハ其債務者ハ債權者ニ對シテ第七十二條ノ免責ヲ援用ス
ルコトヲ得

第二部 物上擔保

第一章 留置權

第九十二條 留置權ハ財産編及ヒ財産取得編ニ於テ特別ニ之ヲ規定シタル場合ノ外債權者
カ既ニ正當ノ原因ニ由リテ其債務者ノ動産又ハ不動産ヲ占有シ且其債權カ其物ノ讓渡ニ
因リ或ハ其物ノ保存ノ費用ニ因リ或ハ其物ヨリ生シタル損害賠償ニ因リテ其物ニ關シ又
ハ其占有ニ牽連シテ生シタルトキハ其占有シタル物ニ付キ債權者ニ屬ス

委任ナクシテ他人ノ事務ヲ管理シタル者ハ必要ノ費用及ヒ保持ノ費用ノ爲メニ非サレハ
其管理シタル物ニ付キ留置權ヲ有セス

第九十三條 債權者カ留置スル權利ヲ有シタル物ノ一分ノミヲ留置シタルトキ其部分ハ總
債務ヲ擔保スルニ足ルニ於テハ之ヲ擔保ス

之ニ反シテ債權者ハ債務者ヨリ一分ノ辨濟ヲ受ケタリト雖モ全部ノ辨濟ヲ受クルニ至ル
マテ留置權ニ服シタル總テノ物ヲ留置スルコトヲ得

第九十四條 留置權ハ留置物ノ價額ニ付キ債權者ニ先取特權ヲ付與セス

然レトモ留置物ヨリ天然又ハ法定ノ果實又ハ產出物ノ生スルトキハ留置權者ハ他ノ債權
者ニ先タチテ之ヲ收取スルコトヲ得但其果實又ハ產出物ハ其債權ノ利息ニ充當シ猶ホ餘
分アルトキハ元本ニ充當スルコトヲ要ス

留置權者ハ其收取スルコトヲ怠リタル果實及ヒ產出物ニ付キ其實ニ任ス

第九十五條 留置權ハ債務者カ留置物ヲ讓渡シ又他ノ債權者カ之ヲ差押へ及ヒ賣却セシム
ル妨ト爲ラス

然レトモ孰レノ場合ニ於テモ取得者ハ留置權者ニ全ク辨濟セヌシテ其物ヲ占有スルコト
ヲ得ス

第九十六條 右ノ外動産又ハ不動産ノ留置權者ハ次ノ二章ニ規定シタル如ク動産又ハ不動
産ノ質取債權者ト同一ノ責任ニ從フ

此他動産質及ヒ不動産質ニ關スル規定ハ此章ノ規定ニ觸レサル限りハ留置權ニ之ヲ適用
ス特ニ債權者カ有意ニテ留置權ヲ行フコトヲ怠リ又ハ實際之ヲ行フコトヲ止メタルトキ
ハ其留置權ヲ失フ

第二章 動産質

第一節 動産質契約ノ性質及ヒ成立

第九十七條 動産質ハ債務者カ一箇又ハ數箇ノ動産ヲ特ニ其義務ノ擔保ニ充ツル契約ナリ

第九十八條 動産質契約ハ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ好意ニテ債務者ノ爲メ擔保ヲ供スル第

三者ト債權者トノ間ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得
孰レノ場合ニ於テモ動産質ヲ供シタル第三者ハ第三十條及ヒ第三十一條ニ從ヒ保證人ノ
如ク債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第九十九條 動産質ハ其物ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ有效ニ之ヲ供スルコトヲ
得ス

合意上、法律上及ヒ裁判上ノ管理人ニ付テモ亦同シ此等ノ者ハ其權限ヲ踰エサルコトヲ
要ス

若シ債務ニ關係ナキ第三者ヨリ動産質ヲ供シタルトキハ其第三者ハ第十二條ニ記載シタ
ル如ク無償ニテ物ヲ處分スル能力ヲ有スルコトヲ要ス

第一百條 動産質ハ債權及ヒ質物ヲ明カニ指定セル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スル
コトヲ得ス

右質物ハ之ヲ他物ニ易フルコトヲ得サル様詳細ニ記載シ且要用アルトキハ之ヲ評價スル
コトヲ要ス

若シ質物カ定量物ナルトキハ其種類、數量、尺度ヲ以テ之ヲ指定スルコトヲ要ス

第一百一條 法律ニ從ヒ證人ニ依リテ債權ヲ證スルコトヲ得ル場合ニ於テハ證書ノ調製ヲ要
セス此場合ニ於テハ債權ノ額及ヒ質物ノ相違ナキコト其性質、價額ヲ或ハ併合シ或ハ各
別ニ人證ヲ以テ證スルコトヲ得

第一百二條 動産質ハ質取債權者カ有體ナル質物ヲ現實ニ且繼續シテ占有スルニ非サレハ之
ヲ以テ第三者ニモ他ノ債權者ニモ對抗スルコトヲ得ス

然レトモ質物ハ當事者雙方カ選定シ又ハ債權者カ自己ノ責任ヲ以テ選定シタル第三者ノ
手ニ之ヲ寄託スルコトヲ得

此規定ハ債權ノ無記名證券ニモ之ヲ適用ス

第一百三條 質物カ債權ノ記名證券ナルトキハ質取債權者ハ其證券ヲ占有スルコトヲ要ス
此他記名證券ノ質ノ設定ニ付テハ債權ノ讓渡ヲ告知スル通常ノ方式ヲ以テ第三債務者ニ
其設定ヲ告知シ又ハ其第三債務者カ任意ニテ之ニ參加スルコトヲ要ス

又財産編第三百四十七條ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス
右ハ總テ裏書ヲ以テ取引ス可キ商證券又ハ商品ノ質ニ關シ商法ニ記載シタルモノヲ妨ケ
ス

第一百四條 會社ノ記名ノ株券又ハ債券ヲ質ト爲ストキハ證券ノ交付ノ外會社定款又ハ法律
ニ於テ株券又ハ債券ノ讓渡ノ爲メニ定メタル方式ヲ以テ之ヲ會社ニ告知シ其帳簿ニ之ヲ
記入スルコトヲ要ス

第一百五條 動産質ハ當事者ノ意思ニ從ヒ働方及ヒ受方ニテ不可分タリ但反對ナル明示ノ合
意アルトキハ此限ニ在ラス

動産質ハ債務者ヨリ債務ノ一分ヲ辨濟シタルトキト雖モ元利及ヒ費用ノ皆濟ニ至ルマテ

質物ノ全部及ヒ各箇ニ於テ存在ス

第二節 動産質契約ノ效力

第六六條 質取債權者ハ質物ヲ返還スルマテ其看守及ヒ保存ニ付キ善良ナル管理人ノ注意ヲ加フル責アリ

質取債權者ハ債務者ノ許諾ヲ受ケスシテ質物ヲ質貸スルコトヲ得ス又債務者ノ許諾ヲ受ケタルトキ又ハ物ノ使用カ其保存ニ必要ナルトキニ非サレハ自ラ之ヲ使用スルコトヲモ得ス

若シ質取債權者カ質物ヲ濫用スルトキハ裁判所ハ其失權ヲ宣告スルコトヲ得

第六七條 質取債權者ハ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ自己ノ債權者ニ轉質ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉質ヲ爲ササレハ生セサル可キ意外又ハ不可抗ノ危険ニ付テモ亦其實ニ任ス

第六八條 質物カ果實又ハ産出物ヲ生スルトキハ之ニ關シ質取債權者ハ第九十四條第二項ニ定メタル留置權者ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

質ト爲シタル債權ニ關シテハ質取債權者ハ其利息ヲ收取シ之ヲ自己ノ債權ニ充當ス然レトモ債務者ノ特別ナル委任ヲ受ケスシテ其元本ヲ受取ルコトヲ得ス但裏書ヲ以テ取引ス可キ證券ニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第六九條 質取債權者カ質物保存ノ爲メ必要ノ出費ヲ爲シタルトキハ債權ニ先タチ動産質ヲ以テ其出費ノ辨償ヲ擔保ス

質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ債權者ノ受ケタル損害ノ賠償ニ付テモ亦同シ

第七十條 質取債權者ハ動産質ノ附キタル主従ノ債務及ヒ前條ノ償金ノ皆濟ニ至ルマテ債務者及ヒ其讓受人ニ對シテ質物ノ占有ヲ留置スルコトヲ得

債權者ハ其債權ノ満期ニ至ラサル間ハ債務者ノ他ノ債權者ヨリ爲ス質物ノ差押及ヒ其競賣ヲ拒ムコトヲ得

第七十一條 動産質ノ附キタル債務カ満期ト爲リタルトキ債務者履行ヲ爲ササルニ於テハ質取債權者又ハ其他ノ債權者ヨリ質物ノ競賣ヲ求ムルコトヲ得質取債權者ハ他ノ債權者ニ先タチ元利費用及ヒ第七九條ニ掲ケタル償金ノ辨償ヲ受ク

第七十二條 他ノ債權者ヨリ競賣ヲ求メス又ハ之ヲ實行スルコトヲ得サルトキ質取債權者ハ質物ヲ己レノ有ト爲サントスルコトニ付キ債務者ト一致セサルニ於テハ鑑定人ノ評價シタル價額ニ達スルマテ質物ヲ辨濟ニ充ツ可キコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其請求書ヲ債務者ニ豫メ提示スルコトヲ要ス

質物ノ價額カ債務ヲ超ユル場合ニ於テハ質取債權者ハ債務者ニ其超過額ヲ辨償スルコトヲ要ス

第七十三條 總テ動産質契約ノ約款又ハ債務満期前ノ合意ニシテ債權者ニ其債權ノ全部又

ハ一分ニ付キ辨濟ノ爲メ裁判上ノ評價ナクシテ流質ヲ許スモノハ當然無効タリ

本條ノ禁止ヲ犯ス爲メ債務者カ債權者ニ爲シタル受戻約款附ノ賣買其他ノ合意ハ之ヲ無

效ト宣告スルコトヲ得

本條ニ定メタル無効ハ質取債權者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得スシテ債務者又ハ其承繼人ノミ之ヲ援用スルコトヲ得

第百十四條 質物カ質取債權者ノ方ニ存スル間ハ其債務ノ免責時効ノ成就ヲ停止ス

第百十五條 質物ノ占有ハ常ニ容假ノ占有ニシテ其占有ノ繼續期ノ如何ニ拘ハラズ又債務

カ辨濟其他ノ方法ニテ消滅シタル後ト雖モ質取債權者ハ取得時効ヲ援用スルコトヲ得ス

然レトモ財産編第百八十五條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テハ容假タルコトハ止ム

第三章 不動産質

第一節 不動産質ノ目的、性質及ヒ組成

第百十六條 不動産質契約ハ不動産質債權者ニ他ノ總債權者ヨリ先ニ其不動産ノ果實及ヒ

入額ヲ收取スル權利ヲ付與ス

債務ノ滿期ニ至レハ債權者ハ抵當權アル債權者ノ權利ヲ行フ

此期限ハ三十个年ヲ超過スルコトヲ要ス之ヲ超ユルトキハ當然三十个年ニ減縮ス

此期限ハ縱令之ヲ延フルモ前後通算シテ三十个年ヲ超過スルコトヲ得ス

第百十七條 不動産質ハ債務者ノ爲メ第三者之ヲ設定スルコトヲ得其不動産質ハ債務者ト

設定者トノ間ニ於テハ動産質ノ爲メ第九十八條ニ定メタル效力ヲ生ス

第百十八條 不動産質ハ第百九十七條及ヒ第百九十八條ニ從ヒ抵當ト爲スコトヲ得ヘキ財

産ノ上ニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

此他設定者ハ質ト爲ス財産ノ收益權ヲ自ラ有スルコトヲ要ス其質ハ如何ナル場合ニ於テモ其收益權ノ繼續期間ヲ超過スルコトヲ得ス

不動産質設定ノ爲メニ要スル能力ハ第二百九條及ヒ第二十條ニ定メタル抵當設定ノ能力ト同一ナリ

第百十九條 不動産質カ合意上ノモノナルトキハ其質ハ公正證書又ハ私署證書ヲ以テスル

ニ非サレハ當事者ノ間ニ之ヲ設定スルコトヲ得ス

又不動産質ハ第二百十二條ニ從ヒ遺言上ノ抵當ノ許サルル場合ニ於テハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得

不動産質ハ之ヲ設定スル證書又ハ遺言書ニ依リ財産編第三百四十八條ニ從ヒテ登記シタル後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

右ノ登記ハ抵當ノ順位ヲ保存スル爲メ抵當ノ登記ニ同シキ效力ヲ有ス

第百二十條 不動産質ヲ設定スル證書又ハ遺言書ニハ其不動産ノ精確ナル指示ノ外元利ノ債權額ヲ指示スルコトヲ要ス

右ノ指示カ不十分ナル場合ニ於テハ既ニ爲シタル登記ニ補足ノ合意ヲ附記ス然レトモ此附記ハ其日附後ニ非サレハ效力ヲ生セズ

第百二十一條 質ト爲シタル物權カ利益權、賃借權又ハ永借權ナルトキハ此權利ノ設定證

書ニ依ル登記ニ其質權ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

第二百二十二條 質取債權者ハ右ノ外動産質ニ關シ第百二條ニ記載シタル如ク其債權ヲ擔保スル不動産ヲ現實ニ占有スルコトヲ要ス

第二百二十三條 不動産質ハ動産質ニ關シ第百五條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ

第二節 不動産質ノ效力

第二百二十四條 質取債權者ハ質ニ取リタル不動産ヲ財産編第百十九條乃至第百二十二條ニ規定シタル制限ニ從ヒ且質契約ノ期間ニ限り質貸スルコトヲ得但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

又質取債權者ハ自己ノ權利ノ繼續期間ニ限り動産質ニ付キ第百七條ニ記載シタル如ク自己ノ責任ヲ以テ其不動産ヲ轉質ト爲スコトヲ得

第二百二十五條 質取債權者ハ租稅其他毎年ノ公課ヲ負擔ス

質取債權者ハ小修繕及ヒ必要且急迫ナル大修繕ヲ爲ス責ニ任ス若シ此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス但此大修繕ノ費用ハ債務者之ヲ償還ス

第二百二十六條 建物、宅地ノ質ニ付テハ債權者ハ自ラ之ヲ領スルト之ヲ質貸スルトヲ問ハス其質貸ヲ自己ノ債權ノ利息ニ充當シ猶ホ超過額アルトキ又ハ債權カ無利息ナルトキハ元本ニ充當ス

田畑山林ノ質ニ付テハ當事者ノ間ニ於テ果實ト利息トハ計算セシテ相殺シタリト看做ス但反對ノ合意アルトキ又他ノ債權者ニ對シ又ハ利息ノ法律上ノ制限ニ付キ顯著ナル詐害アルトキハ此限ニ在ラス

質貸又ハ果實ヲ利息ニ充當スルニハ毎年ノ公課及ヒ保持、管理、栽培ノ費用ヲ控除シタル純益價額ニ付キ之ヲ爲ス

第二百二十七條 質取債權者ハ如何ナル反對ノ合意アルニ拘ハラズ常ニ己レノ爲メ負擔重キニ過クルト思慮スル收益權ヲ將來ニ向ヒテ拋棄シ無利息ニテ抵當權ノミヲ存スルコトヲ得然レトモ適當ノ時期ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十八條 債權者ハ債務ノ皆濟ニ至ルマテ質ニ取リタル不動産ノ占有ヲ留置スルコトヲ得

然レトモ質取債權者ハ債務ノ滿期前又ハ滿期後ニ債務者又ハ他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

又質取債權者ハ滿期後自ラ賣却ヲ申立ツルコトヲ得
右ハ下ニ指示シタル別異ノ效力ヲ生ス

第二百二十九條 他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ノ場合ニ於テハ質取債權者ハ其順位ニ於テ其抵當權ヲ行ヒ且其債權者カ如何ナル先取特權又ハ抵當權アル他ノ債權者ニモ先ンセラレサルトキ及ヒ先ンセラルルモ他ノ債權者カ總テノ代價ヲ取盡サスシテ殘餘アルトキハ取

得者ハ質取債權者ノ尙ホ受ク可キモノノ爲メ第百十六條ニ從ヒ質ノ終了ス可キ時期ニ至ルマテ留置權ニ遵フ責アリ

債務者ノ爲シタル賣却ニシテ先取特權若クハ抵當權アル債權者又ハ質取債權者ノ請求ニ因リテ増價競賣ノ有リタル場合ニ於テモ亦同シ

然レトモ質取債權者自ラ賣却ヲ求メタル場合ニ於テハ其收益權及ヒ留置權ハ消滅ス但其賣却ニ付キ明白ニ此權利ヲ留保シ且順位ノ如何ヲ問ハス他ニ先取特權又ハ抵當權アル債權者アラサルトキハ此限ニ在ラス

右二箇ノ條件アルトキハ取得者債務ノ消滅ニ至ルマテ質權ニ遵フ責アリ

第百三十條 第百六條 第百九條 第百十條及ヒ第百十三條乃至第百十五條ハ不動産質ニモ之ヲ適用ス

第四章 先取特權

總則

第百三十一條 先取特權ハ合意ナキモ法律カ或ル債權ノ原因ニ附著セシメタル優先權ナリ但不動産質及ヒ不動産質ヨリ生スル先取特權ハ合意上ノモノトス

先取特權ハ法律ノ制限シテ定メタル原因條件及ヒ目的ニ於ケルニ非サレハ存在セス

先取特權カ第三所持者ニ對シテ追及權ヲ付與スル場合及ヒ其權利行使ノ條件モ又法律ヲ以テ之ヲ定ム

第百三十二條 先取特權ハ不動産質及ヒ不動産質ニ關シ第百五條及ヒ第百二十三條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ

第百三十三條 先取特權ノ負擔アル者カ第三者ノ方ニテ滅失シ又ハ毀損シ第三者此カ爲メ債務者ニ賠償ヲ負擔シタルトキハ先取特權アル債權者ハ他ノ債權者ニ先タチ此賠償ニ於ケル債務者ノ權利ヲ行フコトヲ得但其先取特權アル債權者ハ辨濟前ニ合式ニ拂渡差押ヲ爲スコトヲ要ス

先取特權ノ負擔アル物ヲ賣却シ又ハ質貸シタル場合及ヒ其物ニ關シ權利ノ行使ノ爲メ債務者ニ金額又ハ有價物ヲ辨濟ス可キ總テノ場合ニ於テモ亦同シ

第百三十四條 先取特權ノ種類ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 債務者ノ總動産及ヒ附隨ニテ其總不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第二 或ル動産ニ係ル特別ノ先取特權

第三 或ル不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第百三十五條 一般又ハ特別ノ先取特權ヲ有スル債權者ノ相互ノ順位ハ本章ノ各節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ其同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ有スル債權者ニ先タツ但法律ニ於テ特別ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

同原因又ハ同順位ノ先取特權アル債權者ハ其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

第三百二十六條 本法ニ定メタル先取特權ハ商法又ハ特別法ヲ以テ規定シ又ハ規定ス可キ先取特權ヲ妨ケス

商法又ハ特別法ノ先取特權ハ別段ノ規定ナキ場合ニ於テハ下ニ定メタル一般ノ規則ニ從フ

第一節 動産及ヒ不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第一款 一般ノ先取特權ノ原因

第三百二十七條 動産及ヒ不動産ニ係ル先取特權アル債權ハ之ヲ左ニ掲ク但下ニ定メタル制限及ヒ條件ニ從フ

第一 訟事費用

第二 葬式費用

第三 最後疾病費用

第四 雇人給料

第五 日用品供給

第一則 訟事費用ノ先取特權

第三百二十八條 訟事費用ノ先取特權ハ或ハ債務者ノ財産ヲ保存スル爲メ或ハ其財産ヲ清算配當スル爲メ各債權者ノ共同利益ニ於テ正當ニ爲セル裁判上若クハ裁判外ノ總テノ行爲ニ付キ金錢ノ立替ヲ爲シタル債權者又ハ給料若クハ謝金ヲ受取ル可キ債權者ニ屬ス

總債權者ニ有益ナラサリシ費用ニ付テハ先取特權ハ特別ノモノニシテ其費用ノ爲メ利益ヲ得タル債權者ニ對スルニ非サレハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二則 葬式費用ノ先取特權

第三百二十九條 債務者ノ身分ニ應シ且慣習ニ從ヒテ爲シタル葬式費用ハ先取特權アルモノトス

先取特權ハ債務者ノ擔當ニ係ル同居親族ノ葬式費用ニモ亦之ヲ適用ス

此先取特權ハ葬式ニ連續シタル出費ニ及ハス縱令其出費カ慣習上ノモノタルモ亦同シ

第三則 最後疾病費用ノ先取特權

第四百十條 最後疾病費用ノ先取特權ハ債務者又ハ前條ニ指定シタル親族ノ死亡前ノ疾病ニ關スル醫師、藥商、看病人其他此ニ類スル費用ヲ包含ス但債務者ノ破産前又ハ無資力前ノ疾病及ヒ其親族ノ疾病ニ關スル費用モ亦同シ

長病ノ場合ニ於テハ右ノ費用ノ先取特權ハ最後ノ一年ノ費用ニ之ヲ制限ス
右ノ費用ヲ生セシメタル疾病ノ外ナル原因ノ爲メ死亡アリタルトキト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス

第四則 雇人給料ノ先取特權

第四百十一條 雇人ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居親族ノ雇人ニ屬ス
右ノ先取特權ハ最後ノ一年ノ給料ノミヲ擔保ス

第五則 日用品供給ノ先取特權

第四百二十二條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居ノ親族及ヒ雇人ノ生活ニ必要ナル日用品ノ供給者ニ屬ス

右ノ先取特權ハ最後ノ六個月間ノ供給ノミヲ包含ス

第二款 一般ノ先取特權ノ效力及ヒ順位

第四百十三條 一般ノ先取特權ハ先取特權アル各債權者カ動産ニ付キ配當ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

然レトモ動産代價ノ配當ニ先タチ不動産代價ノ配當アルトキハ債權者ハ假ニ條件附ニテ之ニ加入スルコトヲ得但日後動産代價ノ配當加入ニ於テ辨濟ヲ得サル部分ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

動産代價ノ配當ニ有益ナル時期ニ加入スルコトヲ怠リタル債權者ハ動産ニ付キ受ク可カリシモノノ限度ニ於テ不動産ニ付キ其優先權ヲ失フ

第四百十四條 一般ノ先取特權ノ互ニ競合スル場合ニ於テハ第四百二十八條乃至第四百二十二條ニ列記シタル相互ノ順序ニ從ヒテ配當加入ヲ定ム

右ノ數條ニ掲ケタル同原因ノ債權ハ同順位ニテ配當ニ加入ス

若シ一般ノ先取特權カ動産ニ係ル特別ノ先取特權ト競合スルトキハ其順位ハ下ノ第二節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ係ル特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先タチ又特別ノ抵當ハ後ノ設定ニ係ルト雖モ詐害ナキニ於テハ一般ノ先取特權ニ先タツ

然レトモ一般ノ先取特權ハ其發生前ノ取得ニ係ル一般ノ抵當ニモ先タツ

一般ノ抵當ノ負擔アル總不動産ヲ同時ニ賣却シタル場合ニ於テハ一般ノ先取特權ハ各不動産ノ賣却代價ノ割合ニ應シテ其總不動産ニ付キ配當ニ加入ス

若シ順次ニ右ノ不動産ヲ賣却スルトキハ一般ノ先取特權ハ初ノ賣却ニ付キ全部之ヲ充當シ尙ホ附隨ニテ次ノ賣却ニ付キ之ヲ充當ス且此先取特權ヲ負擔セシ不動産ニ付キ一般ノ抵當ヲ有スル債權者ハ他ノ不動産ノ賣却代價ニ付キ求償權ヲ有ス

第四百十五條 一般ノ先取特權ハ不動産カ債務者ニ屬スル間ハ他ノ債權者ニ對抗スル爲メ其不動産ニ付テノ登記ヲ要セス

第二節 動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第四百十六條 上ノ第二章ニ規定シタル先取特權ヲ有スル動産買取債權者ノ外下ニ指定シタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 不動産ノ賃貸人

第二 種子及ヒ肥料ノ供給者

第三 農業ノ稼人及ヒ工業ノ職工

民法・債權擔保編

- 第四 動産物ノ保存者
- 第五 動産物ノ賣主
- 第六 旅店主人
- 第七 舟車運送營業人
- 第八 保證金ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ所爲ニ對スル債權者
- 第九 右保證金ノ貸主

第一則 不動産賃貸人ノ先取特權

第四百四十七條 居宅、倉庫其他ノ建物ノ賃貸人ハ、賃借人ノ使用又ハ商工業ノ爲メ此建物内ニ備ヘタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有ス。

右ノ動産物カ賃借人ニ屬セスト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス但賃貸人カ賃貸場所ニ此動産物ノ持込ヲ知リタル當時其物ノ賃借人ニ屬セサル事實ヲ知ラス且其事實ヲ豫見スルニ足ル可キ理由アラサリシトキニ限ル。

賃貸人ノ先取特權ハ現金ニ付キ又賃借人及ヒ其家族ノ一身ノ使用ニ供シタル金玉寶石ニ付キ又無記名ナルモ證券ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス。

第四百四十八條 賃貸人ハ家賃ノ當期分及ヒ後ノ一期分ノ辨濟ヲ擔保スルニ足ル可キ動産ヲ賃貸シタル場所ニ備フルコトヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得賃借人之ヲ爲サス且此家賃ノ前拂又ハ之ニ相當スル其他ノ擔保ヲ供セサルトキハ賃貸人ハ賃貸借ヲ解除スルコトヲ得

尙ホ損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得

賃貸場所ニ備ヘタル動産ヲ賃貸人ノ許諾ナクシテ取去リタルモ別ニ詐害ナキニ於テハ賃貸人ハ其擔保カ不足ト爲リタルトキ且賃借人ニ屬スル權利ノ限度内ニ非サレハ此動産ヲ其場所ニ復セシムルコトヲ得ス

然レトモ賃貸人ノ權利ヲ詐害シテ爲シタル行爲ニ付テハ賃貸人ハ財産編第二百四十一條以下ニ記載シタル條件及ヒ區別ニ從ヒ第三者ニ對シテ其行爲ヲ廢罷セシムルコトヲ得

右ハ總テ第三百三十三條ニ依リテ賃貸人ノ有スル權利ヲ妨ケス

第四百四十九條 賃貸借ト永賃借トヲ問ハス田畑山林ノ賃貸人ハ賃借人カ居宅並ニ土地利用ノ建物内ニ備ヘタル動産ニ付キ及ヒ土地ノ利用ニ供シタル動物、農具其他ノ器具ニ付キ上下同一ノ限度ニ於テ先取特權ヲ有ス

右ノ賃貸人ハ賃貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物カ猶ホ土地ニ附著スルト土地ニ保存シ有ルトヲ問ハス其收穫物及ヒ產出物ニ付キ先取特權ヲ有ス

分果賃貸人ハ賃貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物ノ中ニテ自己ノ權利ヲ有スル部分カ猶ホ分果小作人ノ方ニ存スル間ハ直接ニ其收穫物其他ノ產出物ノ上ニ先取特權ヲ行フ

第五百十條 賃借權ノ讓渡又ハ轉賃ノ場合ニ於テ賃貸人ハ賃貸場所ニ備ヘ有ル動産カ讓受人又ハ轉借人ニ屬スルコトヲ知ルト雖モ其先取特權ハ此等ノ物ニ及フ

此場合ニ於テ先取特權ハ第三百三十三條ニ從ヒ讓渡又ハ轉賃ノ代價トシテ主タル賃借人ノ

受取ル可キ金額ニ及フ但前拂ヲ以テ貸貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百一十一條 貸借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ貸貸人ハ土地、建物ノ借賃其他ノ負

擔ニ付キ前期、當期及ヒ次期ノ分ニ非サレハ前數條ニ定メタル先取特權ヲ有セス

此他先取特權ハ貸賃借ヨリ生スル他ノ合意上ノ義務、前期及ヒ當期ニ於テノ貸借人ノ過

失又ハ懈怠ノ爲メ貸貸人ノ受ク可キ賠償及ヒ貸貸人カ請求スルコトヲ得ヘキ解除ニ添ヒ

タル損害賠償ヲ擔保ス

第五百十二條 右清算ノ場合ニ於テ他ノ債權者ハ自己ノ利益ノ爲メ貸賃借ノ解除ヲ防止シ

及、ヒ初ヨリ轉賃又ハ讓渡ノ禁止アルニ拘ハラズ其貸賃借ヲ轉賃シ又ハ讓渡スコトヲ得但

貸賃借殘期ノ爲メ貸貸人ニ土地、建物ノ借賃其他ノ納額ヲ擔保スルコトヲ要ス

第二則 種子及ヒ肥料ノ供給者ノ先取特權

第五百十三條 所有者、用益者、賃借人又ハ占有者ニ種子及ヒ肥料ヲ供給シタル者ハ之ヲ用

ヒタル年ノ果實ニ付キ先取特權ヲ有ス

蠶種及ヒ蠶ノ飼養ニ供スル桑葉ヲ供給シタル者ニ付テモ亦同シ

第三則 農業稼人及ヒ工業職工ノ先取特權

第五百十四條 雇人ノ外其年ノ耕耘收穫ノ爲メ勞動シタル稼人ハ一个年間ノ給料ノ爲メ其

收穫物ニ付キ先取特權ヲ有ス

又工業ノ職工ハ工業ヨリ生スル產出物又ハ製造品ニ付キ先取特權ヲ有ス但其年ノ給料中

最後ノ三個月間ノ爲メノミニ限ル

第四則 動產物保存者ノ先取特權

第五百十五條 動產物ノ修繕又ハ保存ノ費用ニ付テノ債權者ハ第九十二條ニ從ヒ己レニ屬

スル留置權ヲ行ハサルトキト雖モ其修繕又ハ保存シタル物ニ付キ先取特權ヲ有ス

右ノ先取特權ハ金額、有價物其他動產物ニ關スル物權又ハ人權ヲ債務者ノ爲メニ追認シ

保存シ又ハ實行セシメタル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ノ費用ニ之ヲ適用ス

第五則 動產物賣主ノ先取特權

第五百十六條 動產物ノ賣主ハ代價辨濟ノ爲メ期限ヲ許與シタルト否トヲ問ハス其代價及

ヒ利息ノ爲メ賣却物ニ付キ先取特權ヲ有ス

若シ補足額ヲ以テスル交換アリテ其補足額カ讓渡シタル物ノ價額ノ半ヲ超ユルトキハ先

取特權ハ其補足額ノ爲メ交換物ニ付キ存在ス

第五百十七條 先取特權ハ賣却物カ用方ニ因リ又ハ不動産ニ合體スルニ因リテ不動産ト爲

リタルトキト雖モ猶モ買主ノ占有ニ在リ且變形セサル間ハ存續ス但合體ノ場合ニ於テハ

不動産ヲ毀損セスシテ其物ヲ分離スルヲ得ルコトヲ要ス

第五百十八條 賣主ノ先取特權ハ財産取得編第四十七條及ヒ第八十二條ニ規定シタル留置

及ヒ解除ノ權利ヲ妨ケス

第六則 旅店主人ノ先取特權

民法 債權擔保編

第五十九條 旅店ノ主人ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料食料ノ爲メ其旅客ノ携帶シテ
尙ホ旅店ニ存スル手荷物ニ付キ先取特權ヲ有ス

第七則 舟車運送營業人ノ先取特權

第六十條 舟車運送營業人ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃ノ爲メ及ヒ關稅其他正當ナル附從ノ
費用ノ爲メ自己ノ手ニ存スル運送物ニ付キ先取特權ヲ有ス

運送營業人カ運送物ノ引渡ヨリ四十八時以內ニ債務者又ハ其名ヲ以テ其物ヲ受取リタル
者ニ對シ其物ヲ返還スルカ又ハ運送賃其他ノ費用ヲ辨濟スルカノ催告ヲ爲シ且其效果ヲ
生セシムル爲メ成ル可ク短キ時間ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルトキハ其先取特權ハ物ノ引
渡後ト雖モ存續ス

如何ナル場合ニ於テモ第二取得者ニ對シテ物ヲ回復スルコトヲ得ス但第四百四十八條ニ規
定シタル如ク詐害アル場合ハ此限ニ在ラス且第三百三十三條ノ適用ヲ妨ケス

第八則 職務上ノ所爲ニ對スル債權者ノ先取特權

第六十一條 保證ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ過失又ハ職權ノ濫用ヨリ生スル債權
ハ其保證金ニ付キ先取特權アリ

第九則 保證金貸主ノ先取特權

第六十二條 前條ノ保證金ヲ貸付タル第三者ハ職務上ノ所爲ヨリ害ヲ受ケタル者ニ辨濟
アリシ後第二位ニテ此保證金ニ付キ先取特權ヲ有ス但頭三者カ貸付ノ當時又ハ他ノ債權

者ヨリ何等ノ故障ヲ述ヘサルモ前規則ニ從ヒテ其權利ヲ證シタルトキニ限ル

第二款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位

第六十三條 動産ニ係ル特別ノ先取特權ト一般ノ先取特權ト競合スルトキハ優先ノ順序
ヲ左ノ如ク規定ス

第一 訟事費用ハ其費用ノ有益タリシ總債權者ノ債權ニ先タツ但有益ノ限度又ハ割合
ニ從フ

第二 此他四箇ノ一般ノ先取特權ハ第三百三十七條ニ定メタル順序ヲ以テ總テノ特別ノ
先取特權ニ先タツ但特別ノ先取特權ニ屬セサル動産ノ不足ナル場合ニ限ル

第六十四條 一箇ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權ヲ有スル諸種ノ債權競合スルトキハ其相
互ノ優先權ハ下ノ順序及ヒ區別ニ從ヒテ之ヲ定ム

第一ノ順位ハ先取特權ノ目的物ヲ保存シタル者ニ屬ス

若シ數人ノ債權者漸次ニ保存ヲ爲シタルトキハ優先權ハ其間ニテ最後ノ保存者ニ屬ス

第二ノ順位ハ合意上ノ動産質ニ因リ或ハ不動産ノ質貸人、旅店主又ハ運送營業人ノ如
ク默示ノ動産質ニ因リテ物ヲ質ニ取リタル債權者ニ屬ス

第三ノ順位ハ物ノ賣主ニ屬ス

然レトモ質取債權者ハ動産質設定ノ時其物ノ保存費用ノ未タ支拂アラサルコトヲ知ラサ
リシトキハ第一ノ順位ヲ得

之ニ反シテ質取債權者カ賣却代價ノ未タ支拂アラサルコトヲ知リタルトキハ賣主之ニ先
タツ

收穫物ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ稼人ニ第二ノ順位ハ種子及ヒ肥料ノ供給者ニ第三
ノ順位ハ土地ノ質貸人ニ屬ス

工業ノ職工ハ工業ヨリ生スル產出物又ハ製造品ニ付テ質貸人ニ先タツ

公吏ノ保證金ニ關シテハ職務上ノ所爲ニ對スル各債權者ハ相共ニ債權ノ割合ニ應シ其債
權ノ日附ニ關セス他ノ債權者ニ先タチ又保證金ヲ貸付タル債權者ニモ先タツ其保證金ヲ
貸付タル債權者ハ保證金ノ殘額ニ付キ第二位ニテ先取特權ヲ有ス

第三節 不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第六十五條 左ノ債權者ハ下ニ定メタル債權ノ爲メ其條件ニ從ヒ不動産ニ付テ先取特權
ヲ有ス

第一 賣買交換其他有償ノ行爲ニ因リ又無償ナルモ負擔ヲ帶フル行爲ニ因リテ不動
產ヲ讓渡シタル者ハ其讓渡シタル不動産ニ付テ先取特權ヲ有ス

第二 共同分割者ハ分割中ニ包含シタル不動産ニ付テ先取特權ヲ有ス

第三 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ工事ニ因リテ不動産ニ生シタル増價ニ付テ先取特
權ヲ有ス

第四 先取特權ヲ生セシムル行爲ノ當時讓渡人、共同分割者、工事請負人ニ支拂ヒタル
金錢ノ貸主ハ右同一ノ不動産ニ付テ先取特權ヲ有ス

第一則 讓渡人ノ先取特權

第六十六條 讓渡人ノ先取特權ハ左ノ各人ニ屬ス

第一 賣買ノ代價及ヒ利息其他ノ負擔ニ付テハ賣主

第二 交換ノ補足額、負擔及ヒ交換物ノ追奪擔保ニ付テハ交換者

第三 贈與ノ負擔ニ付テハ贈與者又ハ其承繼人

此他ノ不動産讓渡人ハ一般ニ其對價及ヒ負擔ニ付テ先取特權ヲ有ス

第六十七條 賣買代價、交換補足額、外賣買、交換、贈與ノ負擔及ヒ交換其他有償ノ合意ニ
於ケル追奪擔保ノ未定ノ賠償ハ讓渡ノ證書又ハ日後ノ證書ヲ以テ金錢ニテ之ヲ定ムルコ
トヲ要ス

此他右ノ證書ハ次款ニ記載スル如ク之ヲ公示スルコトヲ要ス

第六十八條 交換其他不動産ノ讓渡ノ對價トシテ受取リタル不動産ノ追奪擔保ノ爲メノ
先取特權ハ其追奪カ讓渡ノ時ヨリ十年内ニ生シ且廢罷ス可カラサル判決ヨリ一个年内
ニ擔保ノ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セス

對價トシテ受取リタル動産ニ關シテハ擔保ノ爲メノ先取特權ハ追奪カ一个年内ニ生シ且
廢罷ス可カラサル判決ヨリ一个年内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セ

ス

第六十九條 不動産ノ讓渡人ノ先取特權ハ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ其權利ニ基キ且其費用ヲ以テ不動産ニ加ヘタル増加及ヒ改良ニ及ハス

第二則 共同分割者ノ先取特權

第七十條 社員其他ノ共有者ハ或ハ抽籤ノ方法或ハ合意上ノ指定或ハ不分物競賣ニ因レル分割ヨリ生スル左ノ債權ノ爲メ其分割ニ於テ各自ノ得タル不動産ニ付キ互ニ先取特權ヲ有ス

第一 補足額ノ爲メ即チ配當過分ノ返還ノ爲メニハ之ヲ負擔セル分割者ニ歸シタル不動産ニ付キ先取特權アリ

第二 不分物競賣ノ代價ノ爲メニハ其競賣シタル不動産ニ付キ先取特權アリ

第三 分割者ノ一人カ其配當部分ノ動産又ハ不動産ニ於テ受ケタル追奪ノ擔保ノ爲メニハ他ノ分割者ニ歸シタル總不動産ニ付キ先取特權アリ但各分割者ノ債務ノ部分ニ

限ル

第七十一條 右ノ擔保ハ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 社員ニシテ他ノ社員ニ對シ補足額又ハ不分物競賣ノ代價ヲ負擔シタル者ノ無資力

第二 分割者ノ一人ノ配當部分ニ債權ヲ充テタルトキ其債務者ノ無資力但其債務者ハ

分割者タルト外人タルトヲ問ハス分割ノ當時無資力タリシコトヲ要ス

七十二條 第六十八條ハ分割者間ノ追奪擔保ノ先取特權ニ之ヲ適用ス

分割者タルト否トヲ問ハス債務者ノ無資力ニ關シテハ其擔保ハ元本ニ於ケル債務ノ満期ヨリ一个年内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ當事者ノ間ニテモ第三者ニ對シテモ之ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

債務カ無期又ハ終身ノ年金權タルトキ債務者ノ無資力カ分割ノ日ヨリ十個年後ニ生スルニ於テハ其擔保ノ負擔ハ止ム

債務カ利息ヲ生スル元本ニシテ其満期カ十個年以上ニ及フトキモ亦同シ

第七十三條 第六十九條ノ規定ハ分割者ノ先取特權ニモ亦之ヲ適用ス

第三則 工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權

第七十四條 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ建物、土手若クハ掘割ノ築造若クハ修繕又ハ地上ニ爲シタル排泄、灌溉、開墾、置土其他之ニ類似スル工事ヨリ生スル債權ノ爲メ先取特權ヲ有ス

右ノ先取特權ハ鑿坑及ヒ石坑ノ開掘、利用、閉鎖又ハ廢止ニ關スル地下又ハ外部ノ工事ノ爲メ工匠、技師及ヒ工事請負人ニ屬ス

第七十五條 右ノ工事ヨリ生スル先取特權ハ其工事ニ因リ土地又ハ建物ニ加ヘタル増價ニシテ先取特權行使ノ當時猶ホ存スルモノノミニ付キ存在ス

民法 債權擔保編

右ノ増價ハ裁判所ノ選任シタル鑑定人ノ作レル三箇ノ調書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス
此第一調書ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ作りテ場所ノ現狀ヲ明定シ且目論見タル工事ノ概略
ヲ指示スルコトヲ要ス

此第二調書ハ工事ノ受取ニ付キ争アルモ工事ノ竣成ヨリ又ハ原因ノ如何ヲ問ハス其工事
ノ絶止ヨリ三個月内ニ之ヲ作り且其工事ヨリ現ニ生スル増價ヲ證スルコトヲ要ス

此第三調書ハ配當加入ノ請求ノ當時之ヲ作り且右増價ノ存スルモソヲ證スルコトヲ要ス

第四則 金錢貸主ノ先取特權

第七十六條 前數條ニ掲ケタル先取特權ハ讓渡若クハ分割ノ當時又ハ工匠、技師若クハ
工事請負人トノ契約ノ當時ニ於テ賣買若クハ不分物競賣ノ代價、交換若クハ分割ノ補足
額又ハ工事ノ代金ノ辨濟ノ爲メ金錢ヲ貸付タル者ニ法律ニ依リテ直接ニ屬ス但其金錢ノ
貸付及ヒ使用ヲ此等ノ行爲ノ證書中ニ記載シタルトキニ限ル

若シ讓渡人、分割者又ハ工事ノ爲メノ債權者ノ利益ニ於テ先取特權ノ生セシ後ニ金錢ヲ
貸付タルトキハ貸主ハ財産編第四百八十條及ヒ第四百八十一條ニ定メタル條件及ヒ方式
ニ從ヒ債權者又ハ債務者ヨリ合意上ノ代位ヲ得タルトキニ非サレハ先取特權ヲ取得セス
孰レノ場合ニ於テモ金錢ノ貸主カ債務ノ一分ノミヲ拂ヒタルトキハ貸主ハ其拂ヒタルモ
ノノ割合ニ應シ財産編第四百八十六條ニ從ヒ原債權者ト共ニ先取特權ヲ行フ

第二款 債權者間ニ於ケル不動産ノ特別先取特權ノ效力及ヒ順位

第七十七條 前款ニ掲ケタル先取特權ハ下ニ定メタル方法、條件及ヒ期間ヲ以テ公示シ
且保存シタルトキニ非サレハ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十八條 賣買代價ノ爲メノ賣主ノ先取特權及ヒ補足額ノ爲メノ交換者ノ先取特權ハ
代價又ハ補足額ノ全部又ハ一分ヲ未タ辨濟セサル旨ヲ記シタル所有權移轉證書ニ依ル登
記ヲ以テ之ヲ保存ス

又交換ニ於ケル追奪擔保ノ爲メ及ヒ賣買、交換其他所有權移轉契約ノ附從負擔ノ爲メノ
先取特權ハ證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス但擔保及ヒ負擔ノ評價ヲ證書中ニ記載シタ
ルトキニ限ル

第七十九條 分割者ノ先取特權ハ分割證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス但其證書ニ不分
物競賣代價又ハ補足額即チ配當過分ノ返還及ヒ追奪擔保ノ評價其他各配當部分ノ負擔ノ
評價ヲ記載シタルトキニ限ル

第八十條 右讓渡又ハ分割ノ證書ニ依ル登記ナキ間ハ取得者又ハ分割者ノ權利ニ基キ物
上擔保ヲ得タル債權者ハ其擔保ヲ登記シタルトキト雖モ其登記ヲ以テ先取特權アル讓渡
人又ハ分割者ニ對抗スルコトヲ得ス但工事ヨリ生スル先取特權アル債權ハ此限ニ在ラス
然レトモ利害關係人ハ原契約者ノ承諾ヲ得スト雖モ常ニ右讓渡又ハ分割ノ登記ヲ爲サシ
ムルコトヲ得

第八十一條 讓渡又ハ分割ノ證書ニ其對價物ノ全部若クハ一分ノ未タ辨濟アラサルコト

又ハ負擔ノ付シ有ルコトヲ記載セサルトキハ日後ノ證書ヲ以テ此脫漏ヲ補フコトヲ得且其補脫ハ債權者ノ注意ヲ以テ讓渡又ハ分割ト共ニ之ヲ公示スルコトヲ得

右ノ補脫ヲ讓渡又ハ分割ノ登記ト共ニ公示セサルトキハ債權者ハ何時ニテモ其補脫ヲ公示スルコトヲ得但此場合ニ於テハ先取特權ハ單純ナル法律上ノ抵當ニ變性ス

右ノ抵當ハ二箇ノ公示ノ間ニ於テ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ取得シ且合式ニ之ヲ公示シタル債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

讓渡若クハ分割ノ證書ニ記シタル負擔又ハ擔保ノ評價ヲ日後ノ證書ニ記載シタルトキモ亦同シ但其證書ニ依ル抵當ノ登記ハ其登記ヲ爲シタル日附ニ從ヒテ債權者ノ順位ヲ定ム

第百八十二條 讓渡人又ハ分割者ハ其先取特權カ法律上ノ抵當ニ變性シタルトキハ此抵當ノ登記前ニ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ取得シ且合式ニ保存シタル債權者ヲ害シテ義務不履行ノ爲メノ解除訴權ヲ行フコトヲ得ス

第百八十三條 工匠、技師又ハ工事請負人ノ先取特權ハ第百七十五條ニ定メタル第一第二ノ調書ニ依リ登記スルヲ以テ之ヲ保存ス

此第一調書ニ依ル登記ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二調書ニ依ル登記ハ其調製ヨリ一个月内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二調書ニ依ル登記ノ效力ハ第一調書ノ日附ニ溯及シ且工事ノ前又ハ後ニ債務者ト契約シタル各人ニ對シ其増價ニ付テノ優先權ヲ先取特權アル債權者ニ保有セシム

利害關係人中ノ一人ノ爲シタル右調書ニ依リテ爲シタル登記ハ委任ナキトキト雖モ他ノ關係人ヲ利シ且總關係人ニ其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受クル爲メノ同一ノ順位ヲ保有セシム但總テノ者カ有益ノ時期ニ於テ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス

第百八十四條 前條ニ指定シタル期間ニ二箇ノ調書ニ依ル登記ノ一ヲ爲ササリシトキハ先取特權ハ法律上ノ抵當ニ變性シ其順位ハ左ノ日附ヲ以テ之ヲ定ム

第一 工事ノ竣成又ハ絶止ノ時ヨリ三个月内ニ第二調書ヲ調製シ且次月内ニ之ヲ登記シタルトキハ第一調書ノ遅延登記ノ日附

第二 右ノ三个月内ニ第二調書ヲ調製セス又ハ三个月内ニ之ヲ調製シタルモ次月内ニ之ヲ登記セサルトキハ其第二調書ニ依ル登記ノ日附

第百八十五條 取得、分割又ハ工事ノ爲メ初ニ金錢ヲ貸付タル者ノ第百七十六條第一項ニ從ヒテ有スル先取特權ハ讓渡人、分割者又ハ工事請負人ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ保存ス

右貸主カ日後代位ニ因リテ讓渡人、分割者又ハ工事請負人ニ承繼シタルトキ未タ先取特權ノ公示アラサルニ於テハ其貸主ハ主タル證書及ヒ代位證書ニ依ル登記ニ因リテ其公示ヲ爲サシム

若シ代位前ニ公示アリタルトキハ貸主ハ登記ニ代位ノ附記ヲ請求ス可シ

又先取特權アル債權ヲ讓受ケタル者ハ讓渡ノ附記ヲ請求ス可シ

民法 債權擔保編

此末ノ二箇ノ場合ニ於テ附記ヲ爲サシムルコトヲ遲延シタル代位者又ハ讓受人ハ其以前善意ニテ債務者又ハ其承繼人ト原債權者トノ間ニ爲シタル辨濟其他ノ免責ノ行爲ヲ駁棄スルコトヲ得ス

第百八十六條 上ニ記載シタル如クニ保存シタル先取特權又ハ抵當アル債權ニシテ利息又ハ年金ノ附キタルモノハ利息又ハ年金ノ滿期ト爲リタル最終ノ二個年分ニ非サレハ元本ト同一ノ順位ニテ配當ニ加入スルコトヲ得ス但滿期ノ利息又ハ年金ノ中ニテ二個年以外ノモノノ爲メ漸次ニ特別ノ抵當登記ヲ爲ス可キ債權者ノ權利ヲ妨ケス

第百八十七條 不動産ニ付キ先取特權アル債權者間ノ相互ノ優先權ハ左ノ順序ニ從フ

第一 工匠、技師及ヒ工事請負人但其債權カ他ノ債權ヨリ後ニ生シタルトキモ亦優先權ヲ有ス

此工事ヨリ生スル増價額カ右ノ各人ニ全ク辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハ債權ノ割合ニ應シ同一ノ順位ニテ其配當加入ヲ定ム

第二 讓渡人又ハ分割者

逐次ノ讓渡又ハ分割ノ場合ニ於テハ優先權ハ債權者間最モ舊キ者ニ屬ス
金錢ノ貸主ハ或ハ初ヨリ或ハ合意上ノ代位ニ因リ貸付タル其金錢ニテ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ト同一ノ順位ヲ有ス

第百八十八條 先取特權ノ登記及ヒ其更新、抹消、減少ニ關スル規則ハ先取特權及ヒ抵當權

ニ共通ニシテ之ヲ次章ニ規定ス

第三款 第三所持者ニ對スル不動産先取特權ノ效力

第百八十九條 合式ニ公示シタル先取特權ハ其負擔アル不動産ニ付キ第三所持者ニマテ追及ス

第三所持者カ下ニ定ムル方法ノ一ニ依リテ先取特權アル債權者ニ辨濟セサルトキハ其債權者ハ第三所持者ニ對シ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得

第百九十條 一般ノ先取特權ハ第三所持者ノ取得ノ登記前ニ之ヲ登記シタルトキニ非サレハ其第三所持者ニ移轉シタル不動産ニ付キ追及權ヲ與ヘス

第百九十一條 轉得者ノ取得ノ登記前ニ登記セサル讓渡又ハ分割ニ因リテ先取特權ヲ有スル債權者ハ其先取特權ノ生シタル權原ヲ登記スルコトニ付キ轉得者ヨリ催告ヲ受ケタルモ一个月內ニ其登記ヲ爲ササリシトキニ非サレハ追及權ヲ失ハス但此一个月ニハ距離ニ應シテ法律上ノ期間ヲ加フ

然レトモ轉得者ハ其讓渡人カ十個年以上不動産ニ付キ法定ノ占有ヲ爲シタルトキハ右ノ催告ヲ爲ス責ナク且舊所有者ノ總テノ先取特權ヲ免カル

第百九十二條 工事ニ因リ先取特權ヲ有スル債權者ハ工事ノ竣成又ハ其絶止ノ前ニ讓渡ノ登記アリタルモ第一調書ニ依ル登記ニ因リテ追及權ヲ行フコトヲ得

工事ノ竣成シ又ハ絶止シタルトキ第二調書ノ調製及ヒ之ニ依ル登記ノ二箇ノ期間カ未タ

經過セサルニ於テハ右ノ債權者ハ此期間ノ滿了後又ハ第二調書ヲ調製シ且之ニ依リテ登記ス可キ催告ヲ受ケタルモ一个月内ニ之ニ應セサリシ後ニ非サレハ先取特權ヲ失ハス
第百九十三條 先取特權アル債權者ハ追及權ヲ保存シ及ヒ之ヲ行フ爲メニ必要ナル公示ヲ爲ササルモ第三所持者ノ負擔シタル讓受代價ニ付キ辨濟ヲ受クル權ヲ失ハス但代價ノ辨濟前又ハ順序配當手續ノ閉鎖前ニ自ラ債權者タルコトヲ知ラシメ且其債權ヲ證シタルトキニ限ル

第百九十四條 先取特權ニ關スル追及權、其條件、效力並ニ第三所持者カ所有權徵收ヲ避クル方法及ヒ先取特權消滅ノ原因ハ次章ノ第二節第五節乃至第七節ノ規定ニ從フ但先取特權ノ固有ノ規則ニ反スルモノハ此限ニ在ラス

第五章 抵當

第一節 抵當ノ性質及ヒ目的

第百九十五條 抵當ハ法律又ハ人意ニ因リテ或ル義務ヲ他ノ義務ニ先タチテ辨償スル爲メニ充テタル不動産ノ上ノ物權ナリ

第百九十六條 抵當ハ動産質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第百九十七條 抵當ハ不動産ノ完全所有權ノ上ノミナラス用益權、賃借權、永借權及ヒ地上權ノ上ニモ此等ノ權利ヲ支分シタル所有權ノ上ニモ之ヲ設定スルコトヲ得

然レトモ完全ノ所有權ヲ有スル者ハ虛有權又ハ用益權ノミヲ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス
之ニ反シテ所有者ハ其不動産ノ限界ニ因リテ定マリタル部分又ハ其不分ノ幾部分ヲ抵當ト爲スコトヲ得

地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス又用方ニ因ル不動産ハ其附著スル不動産ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第百九十八條 左ニ掲クルモノハ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

- 第一 使用權、住居權其他讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サル財産
- 第二 財産編第十條第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル如キ不動産債權
- 第三 同條第四號ニ掲ケタル如キ不動産ト爲シタル債權但之ヲ不動産ト爲スコトヲ許スル法律カ其抵當ヲ許ササルトキニ限ル

船舶ノ抵當ニ付テハ商法ノ規定ニ從フ

第百九十九條 此章ノ規定ハ商法其他特別法ニ於テ異例ヲ設ケサル限りハ此等ノ法律ヲ以テ設定シタル抵當ニ之ヲ適用ス

第二百條 抵當ハ意外及ヒ無償ノ原因ニ由リ或ハ債務者ノ所爲及ヒ費用ニ因リテ不動産ニ生スルコト有ル可キ増加又ハ改良ニ當然及フモノトス但他ノ債權者ニ對シテ詐害ナキコトヲ要シ且前章ニ規定シタル如キ工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權ヲ妨ケス

抵當ハ債務者カ縱令無償ニテ取得シタルモノナルモ其隣接地ニ及ハサルモノトス但新圍障ノ設立又ハ舊圍障ノ廢棄ニ因リテ隣接地ヲ抵當不動産ニ合體シタルトキモ亦同シ

第二百一條 意外若クハ不可抗ノ原因又ハ第三者ノ所爲ニ出テタル抵當財産ノ減少、減少又ハ毀損ハ債權者ノ損失タリ但先取特權ニ關シ第三百三十三條ニ記載シタル如ク債權者ノ賠償ヲ受ク可キ場合ニ於テハ其權利ヲ妨ケス

若シ抵當財産カ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ保持ヲ爲ササルニ因リテ減少又ハ毀損ヲ受ケ此カ爲メ債權者ノ擔保カ不十分ト爲リタルトキハ債務者ハ抵當ノ補充ヲ與フル責ニ任ス此補充ヲ與フルコト能ハサル場合ニ於テハ債務者ハ擔保ノ不十分ト爲リタル限度ニ應シ滿期前ト雖モ債務ヲ辦濟スル責ニ任ス

第二百二條 抵當財産ノ差押ナキ間ハ債務者ハ財産編第百十九條及ヒ第百二十條ニ定メタル期間其不動産ヲ貸貸スルコトヲ得又其果實及ヒ產出物ヲ讓渡シ及ヒ管理ノ總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二節 抵當ノ種類

第二百三條 抵當ハ法律上、合意上又ハ遺言上ノモノタリ

第一款 法律上ノ抵當

第二百四條 左ノ抵當ハ總テノ要約ニ關セス當然成立ス

第一 婦カ其夫ニ對シテ有メルコト有ル可キ總債權ノ爲メ婚姻ノ日現ニ夫ニ屬スルト

日後之ニ屬ス可キトヲ問ハス其夫ノ總不動産ニ付キ婦ノ有スル抵當但夫ノ未成年タルトキモ亦同シ

第二 未成年者及ヒ禁治產者カ其後見人ニ對シテ有スル總債權ノ爲メ現在ニ屬スルト將來ニ得ルトヲ問ハス後見人ノ總不動産ニ付キ有スル抵當

第三 國、府縣、市町村及ヒ公設所カ行政法ノ定メタル限度ト條件トニ從ヒ會計吏員ノ管理ノ爲メ其不動産ニ付キ有スル抵當

又第百八十一條及ヒ第百八十四條ニ從ヒテ變性シタル先取特權ヨリ生スル抵當ハ之ヲ法律上ノ抵當ト看做ス

第二款 合意上ノ抵當

第二百五條 合意上ノ抵當ハ公正證書又ハ私署證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

代理人ヲ以テ抵當ヲ設定スルトキハ委任ノ要旨ヲ抵當ノ設定證書ニ示スコトヲ要ス

第二百六條 本邦ニ存在スル財産ニ付キ外國ニ於テ爲シタル抵當ノ合意ハ此種類ノ行爲ノ爲メ外國ニ於テ用ユル方式ニ從ヒ之ヲ爲シタルトキハ其效ヲ生ス然レトモ特別法ニ規定シタル條件ニ從フニ非サレハ此合意ニ依リ本邦ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第二百七條 抵當ノ設定證書ニハ義務ノ擔保ニ充テタル不動産ヲ其性質及ヒ所在ヲ以テ特ニ指示スルコトヲ要ス

若シ抵當ノ設定カ債務者ノ現在ノ各不動産ヲ特ニ指示セスシテ其全部又ハ一分ヲ包含スルトキハ債務者ノ請求ニ因リ債權ノ擔保ニ必要ナル限度ニ其抵當ヲ減少スルコトヲ得

債務者ノ將來ノ財産ニ付テノ一般又ハ特別ノ抵當ノ設定ハ無効タリ
第二百八條 抵當ノ設定證書ニハ右ノ外義務ノ原因、體様及ヒ其主從ノ目的ヲ明カニ指示スルコトヲ要ス

義務ノ目的カ金錢タラサルトキハ之ヲ評價ス可シ然レトモ其評價ハ登記ノ時ニ於テモ猶ホ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 抵當ハ抵當ニ充テント欲スル物ノ所有權又ハ收益權ヲ有シ且有償又ハ無償ニテ其物ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ承諾スルコトヲ得ス但第三者ノ抵當設定ニ關スル第二百一一條ノ規定ヲ妨ケス

若シ有期ノ物權ヲ抵當ト爲シタルトキハ其抵當ハ此權利ノ時期外ニ效力ヲ生スルコトヲ得ス然レトモ抵當ト爲リタル權利カ此時期ノ滿了前或ル出來事ニ因リ物ノ價額ヲ代表スル價金ニ移リタルトキハ債權者此價金ニ付キ其權利ヲ行フ

第二百十條 未成年者、禁治產者及ヒ失踪者ノ財産ハ法律ニ定メタル原因及ヒ方式ニ依ルニ非サレハ其代人ニ於テ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第二百十一條 合意上ノ抵當ハ第九十八條及ヒ第一百十七條ニ於テ動產質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク債務者ノ債務ヲ擔保スル爲メ第三者ヨリ之ヲ設定スルコトヲ得

右ノ抵當ハ之ヲ設定セシムル爲メ債務者カ何等ノ出捐モ爲ササルトキハ債務者ニ對シテハ恩惠ナリトス
又抵當ハ債權カ無償ナルトキ又ハ有償ナルモ諾約ナクシテ主タル合意以後ニ之ヲ設定シタルトキハ債權者ニ對シテモ恩惠ナリトス

第三款 遺言上ノ抵當

第二百十二條 抵當ハ遺贈ノ擔保ノ爲メ又ハ第三者ノ債務ノ擔保ノ爲メニシテ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得

第三節 抵當ノ公示

第一款 登記ノ條件及ヒ期間

第二百十三條 凡ソ法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ハ下ニ定メタル條件ニ從ヒ其不動産所在地ノ登記所ニ於テ登記ヲ爲シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
數箇ノ登記所ノ管轄ニ跨カル不動産ノ全部ヲ抵當ト爲シタルトキハ其主タル部分ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ於テ登記ヲ爲シ他ノ登記所ニ於テハ其登記及ヒ日附ノ記載ノミヲ爲ス

第二百十四條 抵當ハ其設定ノ後債務者ノ無資力カ正當ニ宣告セラレ又ハ其財産ノ全部若クハ過半ノ差押ニ因リ顯然ト爲リタルトキハ有效ニ之ヲ登記スルコトヲ得ス但破産ノ場合ニ於ケル登記ノ權利ニ付テノ商法ノ制限ヲ妨ケス

抵當財産ノ讓渡アリタルトキ其讓受人ニ對シテ債權者ノ登記スル權利ノ制限ハ第五節ニ於テ之ヲ規定ス

第二百五十五條 債權者カ財産ノ管理權ヲ有セサルトキハ抵當ノ登記ハ法律上又ハ裁判上ノ代人ノヲ爲ス

抵當ノ登記ハ總理代理人及ヒ法律上又ハ合意上ノ抵當ノ附著シタル行爲ヲ爲ス委任ヲ受ケタル部理代理人ノ權利及ヒ義務ニ屬ス

又登記ハ債權者ノ委任ナクシテ事務管理者之ヲ爲スコトヲ得

第二百十六條 婦ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ニ對シ契約其他ノ方法ニテ條件附ナルト否トヲ問ハス債務者ト爲リタル時ヨリ夫又ハ裁判所ノ許可ヲ要セス婦ノ請求ニ因リテ之ヲ登記スルコトヲ得又其登記ハ婦ノ適當ト思考スル不動産ノ全部又ハ一分ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得但第二百二十六條ニ記載スル如ク夫ノ有スル抵當減消ノ權利ヲ妨ケス

婦カ登記ヲ爲ササルトキハ夫ハ婦ノ擔保ノ爲メ十分ナル不動産ニ付キ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

婦又ハ夫カ登記ヲ爲ササルトキハ縱令委任ナキモ婦ノ親族又ハ姻族ニテ之ヲ爲スコトヲ得但婦ノ故障又ハ拋棄ナキコトヲ要ス

第二百十七條 未成年者ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ノ法律上ノ抵當ヲ登記スルト同一ノ場合ニ於テ同一ノ條件ニ從ヒ後見人之ヲ登記スルコトヲ要ス

後見人登記ヲ爲ササルトキハ後見監督人又ハ親族會員其登記ヲ爲スコトヲ要ス若シ之ヲ爲ササルトキハ未成年者ニ對シ連帶シテ損害賠償ヲ負擔ス

未成年者モ亦自治産者ト爲リタル後ハ其登記ヲ求ムルコトヲ得

第二百十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ禁治産者ノ法律上ノ抵當ニ之ヲ適用ス處刑言渡ニ因レル禁治産ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ特別ノ代理人ニテモ登記ヲ求ムルコトヲ得

第二百十九條 債權者ノ相續人又ハ讓受人ハ原債權者ノミノ名ヲ以テ或ハ自己ト原債權者トノ連名ヲ以テ登記ヲ求ムルコトヲ得

債權者ノ代理人又ハ事務管理者ヨリ登記ヲ求ムルトキハ其名及ヒ分限ヲ本人ノ名及ヒ分限ト共ニ記載ス可シ

第二百二十條 債務者カ死亡シタルトキハ登記ハ債權者ノ選擇ニ因リテ其債務者ニ對シ又ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三者ノ設定シタル抵當ニ關シテハ設定者ニ對シテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十一條 法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ノ登記ハ三十年間其效力ヲ有ス三十年後ハ債權ノ時効カ中斷又ハ停止ニ係リタルトキト雖モ其登記ノ效力ヲ失フ右抵當ノ時効ハ無能力者ニ對シテ停止セス但其代人ニ對スル求償ヲ妨ケス

然レトモ三十年ノ期間滿了前ニ登記ヲ更新シ舊登記ノ日附ヲ精確ニ記載シタルトキハ

抵當ノ順位ハ舊登記ト同一ノ日附ニテ存ス

登記ノ效力ヲ失ヒシ後ノ更新ハ新登記ニ同シク其更新ノ日附ニ於テノミ效力ヲ生ス

第二百二十二條 三十個年ノ期間ニ於ケル登記ノ更新ハ舊登記後ニ起リタル債務者ノ破産、無資力又ハ死亡ニ拘ハラヌ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十三條 登記ニ關スル爭ハ抵當財産所在地ノ裁判所ニ之ヲ訴フ可シ

第二款 登記ノ抹消、減少及ヒ正誤

第二百二十四條 登記ノ抹消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

第一 債權カ無効タリ若クハ銷除ス可キモノタルトキ又ハ其全部ノ消滅シタルトキ

第二 抵當カ有効ニ設定セラレサルトキ

右ハ第二百三十條ニ記載シタル如ク或ル不動産ニ付テノ登記ヲ抹消スルコトヲ妨ケス

第二百二十五條 登記ノ抹消ハ債務者又ハ其承繼人ノ請求ニ因リテ之ヲ宣告スルコトヲ要ス但下ニ規定シタル方式ニ於テ債權者ヨリ抹消ヲ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十六條 婦ノ法律上ノ抵當ヲ或ル不動産ニ制限セサル場合ニ於テ其債權ノ擔保ニ必要ナルヨリ多キ不動産ニ付キ登記アリタルトキ又ハ婚姻契約若クハ配偶者間ノ特別合意ニ因リテ婦ノ債權額ヲ評價セサル場合ニ於テ其債權ノ正當ナル評價ヨリ更ニ多キ金額ノ爲メニ登記アリタルトキハ夫又ハ其承繼人ハ不動産又ハ金額ニ關シ裁判上ニテ此登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第二百二十七條 右ニ同シク後見人又ハ其承繼人ハ未成年者又ハ禁治産者ノ擔保ニ必要ナルモノノ外ニ爲シタル登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但親族會議ノ決議ニ因リテ抵當ヲ

或ル不動産ニ制限セス又ハ債權額ヲ評價セサルトキニ限ル

第二百二十八條 合意上ノ抵當ハ債務者ノ現在ノ總財産ニ關シ過度ナルトキニ非サレハ第二百七條ニ記載シタル如ク債務者其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

債權者ハ債權者ノ登記シタル債權ノ評價ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但設定證書又ハ別證書ヲ以テ評價ヲ爲ササルトキニ限ル

第二百二十九條 遺言上ノ抵當ハ相續ノ不動産ニ付キ遺言者其制限ヲ爲サス又ハ債權ヲ評價セシテ之ヲ設定シタルトキハ相續人其減少ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條 債務カ半額以上消滅シタルトキハ債權者ハ債務者ノ要求ニ因リ三種ノ抵當ニ付キ金額ノミノ登記ヲ減少ス可シ

債務者ハ一分ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ常ニ自費ニテ登記ニ之ヲ附記スルコトヲ得

第二百三十一條 債務者ノ請求ヲ正當トスル判決ニハ抵當ヲ免カレタル不動産又ハ評價ヲ改メタル金額ヲ指示ス

右第一ノ場合ニ於テハ抵當ノ登記ヲ抹消シ第二ノ場合ニ於テハ之ヲ減少ス

第二百三十二條 前數條ニ從ヒ或ル不動産ニ抵當ノ登記ヲ減少シタル場合ニ於テ其不動産カ債權者ノ擔保ニ不十分ト爲リタルトキハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルト雖モ債權者ハ